昭和歌謡は終わらない

近藤勝重

幻冬舎

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

はじめに～今宵も昭和歌謡となるその理由は

最初に断っておきます。

昭和歌謡ブームというのは、きのうきょうに始まったものではありません。また、あすあさってに終わるものでもありません。

ですから、じっくり時間をかけ、はてさてこのブームは何ゆえに巻き起こり、人々に何をもたらし、日本の音楽文化、いやいや日本の文化全体にどんな影響を与えてきたのか、などなど熟慮すべき大きなテーマなのです。ですが、待ってくれませんよね、出版社の人って。急いでほしいって。

何があったのか。察するにNHK紅白歌合戦がテレビ東京の「年忘れにっぽん

CamScannerでスキャン

の歌」に押され、歴代3番目に低い視聴率になったことなどを知り、昭和歌謡人気の根強さを改めて思ったのでしょう。

僕は言わせてもらいました。

「元号が変わっても昭和歌謡は終わりませんよ。名曲は永遠に不滅です！」

とまで。いや、名曲というのはそういうもので、年をとらないというか、年を感じさせないんですよね。

といった内輪の話はさておき、冒頭にふれたきのうきょうに始まったブームじゃないというところに立ち戻りましょう。そうですね、あれは団塊世代の方々の定年退職が始まった２００７年頃でした。仕事で東京―大阪間を全日空機で行ったり来たりしていたんですが、「青春歌謡グラフィティ」というタイトルでしたか、60～70年代のヒットソングがイヤホンからよく流れていました。それが楽しみで、１時間の飛行がちっとも苦にならず、全日空さん、ありがとうでした。

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

いま思えば、もうその頃から昭和歌謡は立派にブームだったんですね。手元に毎日新聞夕刊の「特集ワイド」の切り抜きがあります。日付は「2008年12月15日」。その記事の見出しが「昭和歌謡ブーム」で、リードで歌手のフランク永井さん、作曲家の遠藤実さんが相次いで亡くなられたことにまずふれられています。

続いて昭和が終わった時期に作詞家としての仕事に一区切りをつけ本格的な作家生活に入ったなかにし礼さんのインタビューを掲載しています。昭和歌謡ブームについてはこうです。

激動の昭和を懐かしんでいるんじゃないですか。今の時代に情念があれば、当時のことなど顧みるはずがない。

ふーむ、ふーむ。僕もなかにしさんとは何度か会って、TBSラジオの「荒川

CamScannerでスキャン

強啓　デイ・キャッチ！」でもご一緒しましたが、そういった時の話はおいおいにして、昭和歌謡ブームについての僕なりの感想、考えをここで少し述べておきます。

「売らんかな」の勝負

一つは、とことん「売らんかな」で作られた歌が多かったということです。でも、そうそう簡単には売れません。どなたか書いておられました。阿久悠さんの詞だってヒットしたのは5000曲のうち200曲、打率は4分だと。だからこその「売らんかな」なんですね。

新人アイドルの名前ひとつからして大変です。

「ピンク・レディー」の名が決まるまで「ちゃっきり娘」「白い風船」といった民謡、フォーク調のものまで候補に挙がっていたとか。

歌詞ひとつも大変です。中森明菜さんの「少女A」の♪じれったい　じれった

い…は最初は「ねえ、ねえ、あなた」だったと聞きました。山本リンダさんの「狙いうち」の♪ウララ　ウララ…も何なんだ、これは、と作曲の都倉俊一さんは思ったそうですが、作詞の阿久悠さんは平然としていたとか。

　力のある作詞家や作曲家、それに編曲家、歌手によっては振付師のみなさんが、これまた業界では知らぬ人のいないレコード会社やプロダクションの敏腕プロデューサーの元に結集しての「売らんかな」ですから、あっといわせたいとか、ウラをかいて一発逆転に出たいとか、意見の集約は大変だったと思われます。

　音と詞の相乗効果を狙って、一気に場面を変えるタタタ、タタタの三連音符か、それともここはあえて定番の七五調にするかとか、勝負曲となると「売らんかな」で、熱い徹夜の議論になるなどは珍しくもなかったでしょう。

　さらには詞が先行して曲が後からの場合など、作詞家がその曲の再考を求めたり、またその逆だったりは四六時中のこと。作詞の山口洋子さんと作曲の平尾昌晃さんの間ではある歌で詞と曲が何度も行き来したという話も伝わっています。

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

「歌う」カラオケ、「聴く」有線

次に挙げたいのはカラオケです。いくらいい歌だといっても、世に広まらなければヒット作にはなりません。その点で特筆大書すべきはカラオケの力でしょう。名曲は数あっても、カラオケ抜きに今日のような昭和歌謡ブームはなかったのでは、と僕は思っています。

ジュークボックス、有線放送、そして情報伝達メディアとしての、テレビ・ラジオの歌番組……これらもヒットにつながる大きな要素ですが、BS朝日で放送中の「日本の名曲　人生、歌がある」でレギュラー司会を務める五木ひろしさんが自著『昭和歌謡黄金時代』でこう書いています。

──カラオケがない時代を振り返ると、たとえばお酒が出る場所での「歌」といえば、ジュークボックスであったり、有線放送であったりで、それは絶対的に

CamScannerでスキャン

「聴く」ものでした。それが、カラオケによって、お客さん自らが「歌う」時代になったのです。革命的変革です。

いや、おっしゃるとおり。こう言っちゃなんですが、五木さんが木の実ナナさんと歌ったデュエットソング「居酒屋」の大ヒットは、カラオケさまさまでしょう。ついでながらの話ですが、歌の上手な人がマイクを握って一声うなると、一瞬店内は静かになる。というより黙らせられる。ジュリーの歌を歌うような顔であろうとなかろうと、ジュリーの歌でキメて歌い終わるとみんなと一緒に手をたたく。カラオケ名人、当時はどこのスナックにもいましたよね。

カラオケはやがてカラオケのみを提供するカラオケボックスへと発展しますが、いずれにしても自ら歌うカラオケ体験は水割、マイク、止まり木、ママさんとの思い出とともに間違いなく体験記憶として脳の側頭葉に長期間保存されます。歌詞丸々はともかく、すぐに思い浮かぶあの歌この歌として記憶化されていますか

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

ら、その歌がテレビなどから流れるとつい聴き入る。これですよね。カラオケ効果は絶大です。

加えて2015年4月にBSテレビにも視聴率の機械式調査が導入されます。「おー、お父さん世代が見てる、見てる。いいじゃない!」。地上波のように分刻みの視聴率や年齢層も明らかになりました。

しかも番組は、かつてのテレビ番組で高視聴率をとった「ザ・ベストテン」「歌のトップテン」方式の番組づくり。途中から見た人も1位は? と気になってずっと見てしまう。ブームはさらに拡大です。

あり得たかなと思わせる別の人生

ここでもう一つ挙げておきたいのは生き方、つまり人生との関わりです。後の本文でもふれることになると思いますが、抒情性豊かに心模様を表現してやまない昭和歌謡には「あり得たかな、別の人生が……」と思わせるものがあるという

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

か、そういう気持ちを思い起こさせるというか、少なくとも中高年の方々なら僕の言わんとする感じ、おわかりでしょう。それは詞と調べで描き出す3分間のストーリーテリングに反応してのことですが、僕など感懐にふけること、いまもってしばしばです。

可能性という言葉は本来確率の問題ですから「ある」と続くもので、「ない」はおかしい。しかしながら年齢を重ね自分の何たるかがわかればわかるほど「可能性――ない」となる不条理。

さはさりとて生きていかねばならない。歳月は人を待たず、です。寂しいことです。だからでしょう、可能性がまだまだあったあの頃にふと引き戻されて思いがこもる。思い出は死にませんから。

時は移ろいアナログからデジタルへ。ソーシャルメディアの波が何もかも呑みこんで、LINEなどでは言葉の連なりはすっかり短文化して含みのない言葉が

CamScannerでスキャン

飛び交い、昭和の情感もいずこへ——の感ありです。
ま、これも人の世の選択ではありますが、でも盛んに聞こえてくる昭和歌謡のなんと情感豊かなことか。言葉たちのなんと生き生きしていることか。
そうそう、メロディーという言葉はギリシャ語のメロス（曲）とオード（詩）の合体語で、もともと「歌を歌う」という意味があるとのことです。今の歌は演歌のほかは曲のテンポも16ビートです。歌いやすい8ビートになじんだ僕らには曲にも歌にも乗りづらく、平成以降、歌いたい歌になかなか出会えません。
それやこれやでテレビは今宵も歌番組の昭和歌謡になるわけです。
どなたの作品でしたか、こんな句があります。
歳月はピンク・レディーを還暦に
先夜、テレビを見ていたら昭和歌謡を牽引してきた五木ひろしさんが70歳のバースデーコンサートで「古希ひろしです」と笑わせていました。
ともあれ、昭和恋々、歌恋々。唇に歌あればこその時代を振り返ってあの歌、

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

この歌を聴きたいと思っていただければ、いやうれしい。プレイバック昭和。ご一緒しませんか。

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

昭和歌謡は終わらない　目次

はじめに――今宵も昭和歌謡となるその理由は　3

1　男と女の起承転々……　16

2　ザ・昭和の愛人ソング　27

3　今に生きる女の強さ　昔に生きる男の弱さ　35

4　二人のカリスマ　なかにし礼&阿久悠　52

5　追想「別れの一本杉」　74

6　汽車の別れ　83

休憩所　「なごり雪」と「ふれあい」　90

7　政治の季節――ラブ&ピース　94

8　吉田拓郎とフォーク歌謡　105

9　歌う大スター　ひばり、裕次郎、そして健さん　115

休憩所　この人とそのカラオケ　141

10 逢いたいなぁ　ちあきなおみ　サブちゃん　いつまでも　147
11 歌も「東京」一極　159
12 百恵—聖子—明菜　181
13 ジュリーがいた！　192
14 昭和歌謡と歌詞の力　211
休止符　8年でこんなに変わる「22歳」　222
15 阿久悠vs.ＡＩ　228
16 「人生いろいろ」——歌謡曲と島倉千代子　238
休止符　雨と昭和歌謡　246
17 星空の歌　坂本九、荒木一郎　254
18 詞（ことば）とテレサ・テン、桑田佳祐、五木ひろし　263
おわりに　276

CamScannerでスキャン

1　男と女の起承転々……

世と歌へのこだわり

申し遅れましたが、僕は一介のジャーナリストにすぎません。付け加えて言えば「歌好きの」ということになるのでしょうか。

基本を学ばなかったせいもあったにせよ、いっこうに上達しないギターを押入れにしまってからは、音楽の世界で生きようなどと思ったことはなく、都の西北の私立大学に通い、新聞記者を目指していました。ですからザ・ビートルズが来日した昭和41年のその日も下宿で友だちとマージャン卓を囲んで、♪Ｙｅｓｔｅ

ｒｄａｙ…ロン！　などと声をあげながら武道館公演のことなどを話題にしていたぐらいです。

ですが、新聞記者になって「時代」と「世相」をちゃんととらえることが主なる仕事だ、と「世は歌に連れ」には結構こだわった記者だったと自分では思っています。とりわけ世に連れる歌が世に先んじて刺激や官能や、時には良風美俗にあえて抗った詞には何か興を覚えたものです。その歌でしか表現しえない世界というか、時代の風景が早々と描出されているようにも思えていたんですね。

「歌は歌われるためにある」

さて、これでもって本論、本文に入りたいところですが、そのためにもう一点だけふれさせてください。それはそもそも歌とは何なのか、ということです。「メロディーやリズムをつけた言葉」、あるいは「韻律のある言葉」という説明はできますが、僕はノーベル文学賞を受賞した米国のシンガーソングライター、

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

ボブ・ディランの受賞記念講演にあった言葉が気に入っています。

歌は文学と違い、歌われるためにある。コンサートなどで、聴かれることを意図した歌詞を聴いてほしい。

「受賞により自分の音楽と文学の関係を考えさせられた」とあっての一言です。

そう、歌は歌われるためにあるのです。そうだとすると、こうなりますよね。人に歌われるためには、ディランが目指したとおり自らが生きる今日についての思いや感情表現の言葉が聴く人と豊かにふれあえなければなりません。より多くの人に歌われる。言ってみればそれがヒット曲。作詞・作曲・アレンジャーの皆さんらが、ああだこうだとやりあうのも一人でも多くの人に歌ってほしいと思うからですよね。

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

情念を「うったふ」

表現される感情には情念、つまり心の底からわきあがり、おさえ切れない強い感情もあるでしょう。

情念って作詞家のなかにし礼さんがよく使う言葉ですが、昭和歌謡を理解するキーワードの一つです。歌で表現された情念が人の心を動かし、聴いた人自らに歌いたいと思わせる。そして多くの人が歌う。これが歌です。一種の自己表現でもあるわけです。

付記しておきますが、なかにしさんは「歌う」の語源は「うったふ」、つまり「訴える」という意味での「うったふ」ではないかとおっしゃります。このまじゃ生きづらい、やっていけない。「ノン」という否定、拒否の言葉がそこに含まれているのでは、というなかにしさんらしい仮説ですが、演歌の世界など、この仮説でくみとれるものが多々ありますよね。

CamScannerでスキャン

「天城越え」は本妻の歌? 愛人の歌?

話を具体的にしますと、世間的に強い立場の人と弱い立場の人がいます。その違いはもちろん微妙ですし、一概にはいえません。ですからごく一般的に考えてのことですが、昭和歌謡は弱い立場に寄り添っている歌が多いといえるかと思います。

たとえば本妻と愛人なら、愛人の側にたっての心情的表現が目立ちます。そこに切なさとともにある情念がこもります。テレサ・テンさんの有線放送大賞の一曲など、ずばり「愛人」(昭61)というタイトルでした。

ですが昭和歌謡は多種多様、本妻の側でつくられた歌だってあるのです。

質問。それはなんていう歌でしょうか。

石川さゆりさんが歌う「天城越え」(昭61)です。

CamScannerでスキャン

当時はカラオケブームの最中でした。それで「石川さゆりにしか歌えない作品をつくろう」、つまりあえて難曲で話題性を、ということで作詞の吉岡治さん、作曲の弦哲也さん、編曲の桜庭伸幸さんが三人して、歌の舞台に想定した伊豆の温泉地の宿にこもってつくり上げたそうです。この歌は2008年シーズンの大リーグでイチローの打席登場曲にもなりました。イチロー同様「記録越え」を狙っての楽曲でもあったのですね。

実際相当な歌唱力を要する歌です。歌詞も難しく、すんなりと頭に入ってきません。本妻の視点で作詞されているそのことすらわかりづらいのです。

早稲田大学の大学院で文章表現の授業を担当していた折、学生たちと飲んで歌う機会があったのですが、「天城越え」を歌う女子学生が一人いました。ほう、と驚き、歌い終わったその学生に「この歌の意味がわかるか」と尋ねてみました。「うーん……わかりません」と答え、難しそうな歌なので挑戦してみたくなって歌ったということでした。

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

愛人ではなく、本妻の胸中を表していると断言できる第一の理由は、歌いだしの一行です。♪隠しきれない　移り香が…と入って、♪いつしかあなたに　しみついた…と続きます。

本妻の香りなら夫にしみついても隠す必要はありませんから、「隠しきれない」で本妻の視点に立った歌ということがわかるのですが、そう解釈して歌っている人がいるかどうかははなはだ疑問です。何かしら不倫ゆえの出来事と葛藤を歌った歌、その程度の人が多いんじゃないでしょうか。

石川さゆりさんは当時28歳。昨今は「詩とメロディーは骨と筋肉。そのボディーに血を流すのが歌手の役割」（「サンデー毎日」２０１７年4月9日）などと語っていますが、初めて「天城越え」を歌ったときはまったくわからない世界だったようです。

CamScannerでスキャン

「日刊ゲンダイ」（2017年11月13日）の記事で詞に込められた作詞家吉岡さん自身のある出来事が、石川さんの口から語られています。

「天城越え」は「好きに歌って」と言われましたが、私にはまったくわからない世界。「先生が浮気をした時の歌ですか」とうかがったら、「違うよ」と。子供の頃、同じ長屋に住んでいたご夫婦がいて奥さんがダンナさんの浮気相手の女性に怒鳴り込みに行く時、なぜか自分の息子じゃなく吉岡さんの手を引いて乗り込んでいったんですって。その修羅場を見た経験がもとになっているそうです。

文芸調の歌いだし

石川さゆりさんの歌唱力には定評があります。お上手です。歌い終わって足元

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

も危なっかしく、よろよろとよろける姿もさまになっていますよ。

それにしてもこの歌詞に描かれた情念は理性と対置しえるほどの激しさです。怖いですね。怖いですね。♪あなたを殺して　いいですか…って、「死」という一語さえためらう空気のある歌謡界で「殺す」ですから。文芸路線の歌詞で知られた吉岡さんも裂帛の気合で「殺す」と書いたのではないでしょうか。

さらに「刺さったまんまの割れ硝子」も穏やかじゃありません。直木賞作家の桜木紫乃さんがこの歌にこだわっていたのを知っていましたので聞いてみました。すぐに答えが返ってきました。

「割れ硝子というのは、本妻がいらいらしてコップを割り、そのガラスが自分に刺さって傷ついたような心情を比喩的に表現したんじゃないでしょうか」

何も夫婦喧嘩の末の割れ硝子ではないというわけで、僕も納得でした。

印象に残る吉岡さんの作詞では、市川昭介作曲、大川栄策歌唱の「さざんかの宿」（昭57）も名曲ですが、歌いだしの一行はやはり文芸調です。

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

♪くもりガラスを 手でふいて あなた明日が 見えますか…人妻が恋人にそう呼びかける。男と女の関係は起承転々です。さすがの文句です。

「さざんかの宿」は大川さんにとって初のオリジナル曲、古賀政男氏の門下生からスタートした下積みもこの歌の大ヒットで報われたのではないでしょうか。

長々と書いた気分ですが、まだほんの2曲に触れただけなんですね。昭和歌謡は本当に奥深いと思います。

そうそう、なかにし礼さんが先夜の歌番組で昭和の名曲10曲の中に「天城越え」を入れ、「敬意を表したい歌です」とおっしゃっていました。「うったふ」に通じる情念を感じられたんでしょう。きっと。

僕も敬意を表して詞の全てをここに掲げさせていただきます。

天城越え

隠しきれない 移り香が
いつしかあなたに しみついた
誰かに盗られる くらいなら
あなたを 殺して いいですか
寝乱れて 隠れ宿
九十九折り 浄蓮の滝
舞い上がり 揺れおちる 肩のむこうに
あなた……山が燃える
何があっても もういいの
くらくら燃える 火をくぐり
あなたと越えたい 天城越え

口を開けば 別れると
刺さったまんまの 割れ硝子
ふたりでいたって 寒いけど
嘘でも抱かれりゃ あたたかい

わさび沢 隠れ径
小夜時雨 寒天橋
恨んでも 恨んでも からだうらはら
あなた……山が燃える
戻れなくても もういいの
くらくら燃える 地をはって
あなたと越えたい 天城越え

走り水 迷い恋
風の群れ 天城隧道
恨んでも 恨んでも からだうらはら
あなた……山が燃える
戻れなくても もういいの
くらくら燃える 地をはって
あなたと越えたい 天城越え

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

2 ザ・昭和の愛人ソング

僕の家は戦中戦後、別子銅山とともに開けた住友の街、愛媛県新居浜市の郊外でレコード店や書店を営んでいました。子どもの頃、レコードはすでに物置きに詰め込まれ、店先には本だけでしたが、内容を問わず手に取って読んできたせいでしょう。自分で言うのもなんですが、ませた子でした。父親が歌っていた戦前のリバイバル曲「無情の夢」とか、「雨に咲く花」を中学生の頃に口ずさんでいた覚えがあります。

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

妻と書かれた宿帳

さて、それがどうしたといわれてもなんですので、本論に入ります。

前章で「本妻」の視点で描かれた「天城越え」を取り上げました。その時も思ったのですが、「本妻」という言葉は男本位の世が生んだものでしょうが、それは置いておいて本章は「愛人」です。愛人がどう歌われてきたか、昭和歌謡ではこれは大きなテーマですよね。

皆さんはどんな歌を思い浮かべますか。テレサ・テンさんの「愛人」？　有名ですよね。ですがここでは昭和という時代でないと決して生まれなかったであろう2曲を選曲しました。

箱崎晋一郎歌唱、荒川利夫作詞、山岡俊弘作曲の「抱擁」（昭49）です。この歌、ジャンルではムード歌謡に入ります。甘く切なく、かつ箱崎さん持ち前のファルセット（裏声）で歌い上げています。歌詞がまた愛人の弱い立場を際立たせてい

CamScannerでスキャン

ます。

夜よお願いよ　さよなら言わせる
朝など呼ばずに　じっとしていて

どうですか、この歌詞。慎みに加えて、いじらしささえ感じられるのですが、こんな言葉を口にする愛人、今日(こんにち)存在しているのだろうかと思うと、昭和という時代性が際立つ印象です。

この歌の10年前、箱崎（伸一郎・当時）さんが歌ってヒットしたのが「熱海の夜」（昭44／詞・荒川利夫　曲・山岡俊弘）でした。

妻と書かれた　宿帳に
沁みた涙の　傷あとよ

CamScannerでスキャン

男のご都合主義が「妻」という一字を書かせたかもしれなくても、このディテールはやはり昭和ですよね。

少し熱海そのものにふれておきますが、昭和30年代以降熱海は家族連れや団体客、新婚旅行先の代表的な温泉街として賑わいました。しかし昭和39年の新幹線開通で温泉目当ての客が全国へ拡散し、さらにバブル景気がはじけて以降団体客が激減、温泉街も休館する旅館でさびれた印象をぬぐえない様子でした。

今は徐々に賑わいを取り戻しているようですが、「熱海の夜」はまだ熱海七湯と呼ばれた温泉街の面目を保っていた頃の歌です。

それだけに昭和の栄華と衰退がだぶって時の流れにやるかたない思いが刻み込まれてしまう。この歌の持ち味ですね。

箱崎さんは40半ばで肝臓がんで亡くなっていますが、ミラーボールが照らす昭和の残光に浮かぶ箱崎さんを思い出しつつ先夜も「熱海の夜」を聴きました。

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

ハスキーボイスの壮絶

さて、続けて紹介したいもう一曲は矢吹健さんの「あなたのブルース」（昭43／詞曲・藤本卓也）です。「あなたあなた」って数えたら十数回叫ぶように歌っています。

彼もすでに故人です。ハスキーな声が個性的で全身全霊で壮絶なまでに声を振り絞って歌い上げていた姿がしのばれます。

何人もの歌手にカバーされていますが、ほかの人のカバー曲を聴けば聴くほど矢吹健さんの歌声がよみがえってきます。暗い部屋で独りぎりぎりの思いで過ごす女の心情がせまってくるように歌う歌唱力は抜群です。

2016年のはじめに69歳で亡くなりましたが、新聞にも載らず、たしか女性週刊誌が孤独死と報じていました。ワンルームのアパート住まいで、第一発見者が宅配のお弁当を持ってきている人だった、とか。奥さんもお子さんもそのまえ

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

に亡くなっていたのですが、彼自身は脳梗塞でリハビリをうけたりしていたようです。

「あなたのブルース」が大ヒットのデビュー曲になり、つづいて山口洋子作詞、藤本卓也作曲の「うしろ姿」（昭44）もヒット。2曲大当たりだったんですね。その後もいろいろ歌っていましたが、先行の2曲は超えられませんでした。

箱崎さんの「抱擁」「熱海の夜」、矢吹さんの「あなたのブルース」「うしろ姿」はままならない男女の仲でも愛人の存在がこれほどやるせなく歌われた歌もなかったのではないでしょうか。昭和歌謡をひもとく以上しっかり書きとめたいと思える歌です。

ゆうべのあなたは　あたしのもの

ところで男性歌手が女性の立場で女性の気持ちを歌うのを女歌と言います。逆に女性歌手が男の気持ちを歌うのを男歌と言います。そうしますと、以上紹介の

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

4曲はすべて女歌なのですが、女歌であれ、男歌であれ、愛人の心情、いや真情と書くべきか、ともかく歌詞で吐露された真心はやはり女性の作詞家にゆだねたほうが、リアリティがある、とつい思ってしまいます。
「うしろ姿」の2番の詞は次のとおりです。

帰っちゃいやと　いえないあたし
今夜もくるとは　いわないあなた
なんでもないよな　顔をして
足音だけが　遠ざかる

ああ　うしろ姿は他人でも
ゆうべのあなたは
あたしの　あたしの　あたしのもの

さすが山口洋子さんです。いや、ここまでの女心は男の作詞家に書けたかどうか……。そんなことを思いつつ、山口さんのエッセイ『生きていてよかった』から『男というもの』の一文を抜粋させてもらいました。併せて読んでいただけれ

ば、「うしろ姿」の味わいも一層増すのではと思われます。

たった一回であろうと十回であろうと、いや百回であろうとだ。情事上手はど女と寝る毎にどこかでけじめと切りをつけている。早くいうと女を抱く都度、さり気なく諦めさせている訳で、「ええい畜生」とか思いながら、それとなく線を引かれているのをひやりと肌で感じとったりしながらも抱かれている。

といって冷たいかというとその逆なのだ。むしろ熱い。一生懸命その時間は務めてくれる。しかも自分の方も凄くよかったと満足度をこっちに充分伝えてくれる。そこにおいて会えてよかった抱かれてよかったと、しみじみ思えてしまうのである。そんな女性としての幸せ感は母性愛的愛情を呼びこみ、一度でもしっかり抱かれた愛しい胸を憎もうとか、まして貶としめようなどとは思わない。

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

3　今に生きる女の強さ　昔に生きる男の弱さ

皆さんにお尋ねします。つきあっていた人と別れた体験、おありですか。一度や二度はおありですよね。別れの理由もそれなりにはっきりわかっていますよね。ほかに好きな人ができたとか、将来が見えないとか、あるいはもう飽きたとか、束縛しすぎるとか。

別れの理由は

昭和歌謡にも別れをテーマとした歌がたくさんあります。ですが、別れは別れでも、その理由は察してくださいといった感じの歌が多いのです。

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

歌にもストーリー性が求められますから、事の成り行きをある程度うかがわせてはいます。でも、別れの理由となると思わせぶりというか、さしてはっきりしません。男の浮気はよく歌詞になっていますが、それでもそれが決定的な理由ではないのか、それでも好きだとかなんとか歌ったりしています。

なぜなのか。はっきりとした理由を示すと、歌に伴うドラマをこぢんまりとしたものにしてしまう。それより理由は察してもらったほうが、聴き手それぞれに思い描いてもらえる。そんなわけで別れの理由はそのままのほうが、結果として不特定多数に広がるという計算があるのでしょう。

ただし、思わせぶりな歌詞だけではヒットは生まれません。人の心をつかむフレーズは勝負どころです。歌詞は字数も限られています。心に訴える惹句が必要なんですね。

以下、その成功例をみてみましょう。

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

決断「津軽海峡・冬景色」

まずはご存知「津軽海峡・冬景色」(昭52)です。阿久悠作詞、三木たかし作曲の黄金コンビが手がけた作品を石川さゆりさんが歌い上げています。歌に出てくる連絡船は昭和63年青函トンネルの開通で廃止されました。が、この歌はその11年前、昭和52年のリリースです。描く世界は、本当に歌だけの情景になってしまったわけですね。

フルオーケストラのダダダダダーンが何回か繰り返されて♪上野発の夜行列車降りた時から…と歌いだすのですが、この出だしのウエノ／ハツノ／ヤコウ／レッシャ／オリタ／トキカラ…と続く三連音符のあとは四音になって区切られています。このスピーディーな切れのよさで、上野から青森までの何百キロをひとつ飛びしたような効果をもたらしています。

三木さんのメロディーが先行した、つまり曲先だったのですが、阿久さんはそ

CamScannerでスキャン

の制約がある中で言葉をどうはめこんでいくか、この世界ではめこみの名手との異名をとっていた作詞家ですから、むしろその作業を楽しんでいたのではないでしょうか。

そしてサビに入って先述のとおり、人の心をつかむフレーズ♪さよならあなた私は帰ります…につないでいく。この一言には海を渡る女性の決然たる面持ちを見るようです。

「運命」っぽいダダダダーンがここでも効いていますよね。♪さよならあなた私は帰ります…については、本章の最後で紹介する阿久さん作成の「作詞家憲法十五条」の第六条〈「女」として描かれている流行歌を「女性」に書きかえられないか〉と第十一条〈「どうせ」と「しょせん」を排しても、歌は成立するのではないか」〉で説明がつきそうです。

波頭の立つ海峡を渡る女性に「どうせ」も「しょせん」もありません。あるのはもう後ろは振り向かないという決して揺らぐことのない思いだからです。

僕は「サンデー毎日」の編集長の後、毎日新聞の夕刊編集長もしていたのですが、その当時の2007年2月に「ふるさと」と題して特集を組んだ際、熊本県出身の石川さゆりさんに登場してもらいました。女性記者が話を伺ってまとめています。

「私の生まれたところはね」と小学5年生までいた熊本県飽託郡の山里への思い出話のあと、こんな話が続きます。

あの曲を聴いて『海峡を渡る3時間40分だか50分の間に、いろんな自分の思いを整理するんですよ』とおっしゃった方がいたんです。トンネル開通後、私も乗ってみたけれど、ゴォゴォゴォ～～って、夜行だったのでいつ海の底に入ったかもわからなかった。思いを整理したり、断ち切ったりする時間がなさすぎるよね、と思いました。人の感情や心の疲れって不便だったかもしれない時間の中でいろいろと変化することができたのかな、と思う。だんだんそれも

歌の中にだけで残っているようなものになってきた。（中略）

便利との引き換えっていうのは、恐ろしいもんだな、って。そのときは分からないけど、時間がたてばたつほど。今やっとみんなそれにきづき始めているのかもしれません。

いい話ですね。

と書いて、はてさて、彼女が決断した別れる理由は？　とふと思わぬでもないのですが、その？　にふれたところはどこにもありません。要は、皆さん適当にお祭しくださ い、そして、それぞれの世界で受け止めてくださいということなんですね。

覚悟「北の宿から」

ところで阿久さんが詞を書き小林亜星さんが曲をつけ、都はるみさんが歌った

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

どうなのか、と正直思ったことがあります。

「北の宿から」（昭50）ですが、何か未練たらしく先の「作詞家憲法」に照らして

着てはもらえぬ　セーターを
寒さこらえて　編んでます
女心の　未練でしょう
あなた恋しい　北の宿

これじゃ演歌によくあるタイプ。加えて、♪あなた死んでも　いいですか…とは、となって「作詞家憲法」違反では、と疑念を抱いたわけですが、阿久さんが卒業した明治大学の吉田悦志教授（国際日本学部）の著『阿久悠　詞と人生』にあるシンポジウムの場面で阿久さん自らこう語っていた、と知りました。

「古風な女」も「男を脅迫する女」も、どちらも書くつもりはなかった。確か

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

に、「北の宿から」の女は、別れた男のためにセーターを編んでいます。窓に自分の顔を映して、寝化粧をします。それから徳利を並べてひとりで通夜風に飲んでいます。そこには古風で耐え忍んでいる女しかいないのではないか、と。しかし、この女がセーターを編むのも、寝化粧をするのも、徳利を並べるのも、すべてセレモニーなのだ。だから私は「女心の　未練でしょうか」とは書いていない。「女心の　未練でしょう」と書いている。歌詞に「か」が入ることで他者に答えを求める依存する女になるが、「か」がなければ自己判断する女性になる。

つまり過去をリセットできるのは阿久さんが「憲法」に謳うとおり「女」ではなく「女性」なんですね。

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

強がり「あばよ」

さて、お次は研ナオコさんに登場してもらいましょう。歌はいずれもシンガーソングライター、中島みゆきさん作詞作曲の「あばよ」(昭51)と「かもめはかもめ」(昭53)です。

ご存知のとおり研ナオコさんの歌唱法は独特です。どこに技巧がこらされているのか。ボソボソと歌っているようで、発声法はあれでいいのか、などとつい思ってみたり。でも、力を抜いたあの感じが歌にぴったり。歌のストーリーにもあってるんですよね。

「あばよ」は、2番の終わりで繰り返させるこの歌詞がいいなあ。

明日も今日も　留守なんて
見えすく手口　使われるほど

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

嫌われたなら　しょうがない
笑ってあばよと　気取ってみるさ
泣かないで泣かないで　私の恋心
あの人はあの人は　お前に似合わない

男の心変わりが何ゆえかはわかりませんが、とにかく嫌われた。冷たい男の仕打ち。でもそこに気持ちの落とし所を見つけている。「しょうがない」と自分に言い聞かせて。そこは痛々しいけれど、強がりであれ何であれ、女の意地とプライドを見るようです。

思うに、それまでの女心の歌、主として演歌ではじめっとしたものがつきまとっていました。嫉妬心もあって。ですが「あばよ」はタイトルのとおり「あばよ」とくだけた感じの男言葉で言い放つ。もうそこにすがる女の姿は見えてこない。昭和歌謡のメモリアルな一曲に思われます。

CamScannerでスキャン

自覚「かもめはかもめ」

「かもめはかもめ」も同様にすがる女ではありません。ある意味「あばよ」からさらに抜け出て「かもめはかもめ」と歌いつつ「わたしはわたし」と開き直った自覚が感じ取れます。男との間で、騒ぎ立てることなどさらさらなく、静かに状況を受けとめている、そんな印象さえあります。

それにしても中島みゆきさん、詩人ですね。学生時代、谷川俊太郎さんの詩集を耽読していたとか、何かで読んだ覚えがありますが、詩人の才は「かもめはかもめ」の歌から存分にうかがえます。

あきらめました　あなたのことは
もう電話もかけない
あなたの側に　誰がいても

CamScannerでスキャン

うらやむだけ悲しい
かもめはかもめ　孔雀や鳩や
ましてや女にはなれない
あなたの望む　素直な女には
はじめからなれない
青空を渡るよりも
見たい夢はあるけれど
かもめはかもめ　ひとりで空を
ゆくのがお似合い

大ヒットした研ナオコさんのこの歌によってかどうかはともかく、女の子に他に好きな男の子ができて、男の子に別れを告げるのが別におかしくない時代になっていったのは確かです。男の子は「(お前が) 振り向いたら、俺はいつもお前の後ろにいるからな」と言ったりして、女の子にしてみれば、ゲッ！　だったりして。「お前を愛したこと、一生忘れないからな」。そういう男の子に女の子は

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

もはやこう思うことでしょう。「お願い！　早く忘れて」

女が終わらせる「ラヴ・イズ・オーヴァー」

などなど、そういう若い男女の話を耳にしたあと、台湾出身の欧陽菲菲さんの「ラヴ・イズ・オーヴァー」（昭58／詞曲・伊藤薫）を聴くと、いや、お心づかい、ありがとう、と男の側から一言申し述べたくなります。

♪わたしはあんたを　忘れはしない　誰に抱かれても　忘れはしない　きっと最後の　恋だと思うから…男にとっては少々複雑な思いにかられる歌詞ではありますが。

この歌から数年はたっていたでしょう。渡辺淳一原作の同名小説の映画『化身』のコピーは、確かこうでした。

「男が始める。女が終らせる。」

恋上手、別れ上手の女性、ホントに増えました。それにひきかえ男は……とは

CamScannerでスキャン

申しませんが、とにかく時代は想像以上のスピードで男女関係に異変をもたらしています。昭和歌謡はそういう視点だけでとらえても優に一冊の読み物になるんですよね。

自立心「いいじゃないの幸せならば」

と書いてきて、待てよ……とふと気になる一曲が頭に浮かびました。

これらの昭和50年代前半の歌より先行すること5年以上も前の昭和44年、そう大阪万博の前年ですが、佐良直美さんが岩谷時子作詞、いずみたく作曲の「いいじゃないの幸せならば」を歌って、その年のレコード大賞を受賞していました。

こんな歌詞がある歌です。

あの晩あの子の　顔も忘れて
あの晩あなたに　抱かれた私

CamScannerでスキャン

わるい女だと　人は言うけれど
いいじゃないの　今が良けりゃ

「歌は世に連れ」ではありますが、この歌など明らかに世より先を行っている感ありです。僕は記者1年生の時でしたから、多少のショックとともに、へえー世の中はともかく、歌はここまで行っているんだ、と一驚しました。ボーイッシュな佐良さんもモダンでしたし。

先に紹介の歌詞は2番ですが、ほかに♪つめたい女だと　人は言うけれど／陰気な女だと　人は言うけれど——と女性にとってはマイナスであろうイメージで塗り込められても、♪いいじゃないの　幸せならば　いいじゃないの　今が良けりゃ　いいじゃないの　楽しければ……などと結ぶのです。

でもこの歌、世の男女関係に反映されるまで、そう時間はかからなかったのではないでしょうか。昭和歌謡ってホント、油断ならないというか、歌の作り手た

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

ちの感度の鋭さ、凄さにはいまさらながら感服します。

阿久悠「作詞家憲法十五条」

1 美空ひばりによって完成したと思える流行歌の本道と、違う道はないものであろうか。

2 日本人の情念、あるいは精神性は、「怨」と「自虐」だけなのだろうか。

3 そろそろ都市型の生活の中での、人間関係に目を向けてもいいのではないか。

4 それは同時に、歌的世界と歌的人間像との決別を意味することにならないか。

5 個人と個人の実にささやかな出来事を描きながら、同時に、社会へのメッセージとすることは不可能か。

6 「女」として描かれている流行歌を「女性」に書きかえられないか。

7 電信の整備、交通の発達、自動車社会、住宅の洋風化、食生活の変化、生活様式の近代化と、情緒はどういう関わりを持つだろうか。

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

と、人物の表情、しぐさ、言葉は不変であろうか。時代によって、全くしなくなったものもあるのではないか。

9 歌手をカナリヤの役から、ドラマの主人公に役変えすることも必要ではないか。

10 それは歌手のアンプですべてが表現されるのではなく、歌手もまた大きな空間の中に入れ込む手法で、そこまでのイメージを要求していいのではないか。

11 「どうせ」と「しょせん」を排しても、歌は成立するのではないか。

12 七・五調の他にも、音的快感を感じさせる言葉数があるのではなかろうか。

13 歌にならないものは何もない。たとえば一篇の小説、一本の映画、一回の演説、一周の遊園地、これと同じボリュームを四分間に盛ることも可能ではないか。

14 時代というものは、見えるようで見えない。しかし時代に正対していると、その時代特有のものが何であるか見えるのではなかろうか。

15 歌は時代とのキャッチボール。時代の飢餓感に命中することがヒットではなかろうか。

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

4　二人のカリスマ　なかにし礼＆阿久悠

軟派と硬派

なかにし礼さんと阿久悠さんを語らずして昭和歌謡は語れません。歌おうにも歌えません。

もちろん彼らお二人以外に負けず劣らずの作詞家はいらっしゃるでしょう。多士済々。その人たちの顔ぶれもつぎつぎと思い浮かびます。ですがこのお二人、才気が盛んに外に現れていますから、実に対比対照的にとらえられるんです。そして対比対照することで昭和歌謡が存分に紹介できるのです。

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

なかにしさんが軟派なら阿久さんは硬派。およそかけ離れた個性の持ち主だったこともあるでしょう。とてもひとくくりにはできないのです。それがそのまま昭和歌謡の幅と奥行きにもつながっているんですね。

なかにしさんの昭和観

なかにし礼さんは１９３８（昭和13）年、中国黒竜江省（旧満州）牡丹江市生まれです。立教大学文学部仏文科卒業ですが、在学中から仏語を学びシャンソンの訳詞を手掛け、その後作詞家に転じてヒット曲をつぎつぎ放ち、平成に入ってからは作詞家の仕事にひと区切りをつけ作家として活躍中です。

２０１７年2月22日のＴＢＳラジオ「荒川強啓 デイ・キャッチ！」でご一緒して、昭和を、そして歌謡曲を語ってもらいましたが、率直な方で、こちらの話をかわすといったことはありませんでした。自らの音楽と人生を集大成した著書『夜の歌』では実名で女性がつぎつぎと出てきて、すれすれの関係をもきわどく

CamScannerでスキャン

描出しています。
ラジオではなかにしさんならではの昭和観を聞くこともできました。

昭和に生まれて、昭和という時代にひろわれ、また昭和という時代の発展とともに僕の人生も花開いた。そして昭和の終わりに芸能界を代表する石原裕次郎、美空ひばりという大スターも終焉を迎え、芸能も変わりました。昭和という時代への怒り、口惜しさ、愛情というか恋心もあったが、平成に移ってからはファイトがなくなりました。生活のリズムも変わりましたね。

ここまで一気に話し、「昭和というのは帝国主義に走って敗北した。明治・大正・昭和とひとくくりにすべきです」とも。
太平洋戦争の勃発も遠因は日露戦争の勝利にあるというのはひとつの歴史観です。なかにしさんもその考え方なのでしょう。昭和と平成をこう評しました。

昭和の時代に復興がある。衰退して発展した、そこにドラマ性もあるのですが、平成は何もない。慕うべき影も薄い。
そして昭和歌謡全般について持論を展開しました。

文学性のある歌謡曲は昭和で終わっている。団塊の世代が70年代安保以降歌で優しさを書きはじめた。ぼくは違うんだろうとアンチテーゼとして「時には娼婦のように」のような歌を書いた。一方で60年代安保70年代安保があって、そこで揺さぶられた昭和の申し子たちが才能を発揮した。写真・イラスト・漫画……フォークもどっと出てきました。

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

色っぽさの理由

ここで僕が、自ら作詞を手掛けた演出家の久世光彦さんの著書『歌が街を照らした時代』所収のエッセイ「不良の時代」を紹介して、なかにしさんの感想を求めたところ、「最高の褒め言葉だと思っています」と笑顔の一言でした。こんな箇所です。

横尾忠則とか、立木義浩とか、宇野亜喜良とか、あるいはなかにし礼とか――死ぬまで色っぽいだろうと思われる男がいるものだ。みんなあの〈不良の時代〉に、後ろめたさを背負って生きていた男たちである。東京オリンピックで東京の街は妙に白っぽくなったが、ビルの裏のメタンガスの泡が湧く水溜りには、〈ラッキーストライク〉の空き箱が、踏み潰されて浮いていた。男を騙す女もいたが、棄てられて睡眠薬を掌いっぱい服む女もいた。男も女も、倦怠

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

と懶惰と含羞を見境なく身につけて酒を飲みながら口笛を吹いて器用だった。
——なかにし礼がよく似合う街だった。

このエッセイは、前半にはこうあります。

街に〈不良〉がこっそり棲んでいた時代があった。少年のようにも見えたが少年にしては横顔が疲れていた。彼の傍にはかならず女がいて、彼が煙草を咥えると遠慮がちに舶来のライターで火を点けた。爪が赤かった。西日が漣のように揺れる畳も赤かった。そんなよどんだ空気からは歌くらいしか生まれてこなかった。なかにし礼に大きな風景を歌った歌はほとんどない。同じように燦々と陽が降る時間をうたったものも「別れの朝」くらいしか記憶がない。彼は鉄階段のあるモルタルアパートの一部屋で、夕暮れになると目を覚まし弦の狂ったギターで投げやりに歌ともつかぬ歌を呟いた。女の安香水と雨の匂いのする

部屋だった。

「あなたならどうする」や「人形の家」や「雨がやんだら」といった〈同棲バラード〉は、みんなこの部屋で生れた。

つまりなかにし礼の色っぽさはこの溜息のような不安のせいで、だから健康にして前向きのなかにし礼など考えられない、と久世さんは書くのです。

ラジオ番組の2年前の2月、毎日新聞夕刊の特集ワイド「近藤勝重の世相を見る」でもインタビューしているのですが、スタジオでの話にその時のこんなやり取りを思い出していました。

なかにし　僕は単独行動をする人間であって、誰にもくみしない。ナンパであり不良であり前衛である。自由であることが僕なんだから。

近藤　そこにぜひ、「色気」という言葉を加えてほしいです。

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

部屋だった。
「あなたならどうする」や「人形の家」や「雨がやんだら」といった〈同棲パラード〉は、みんなこの部屋で生れた。

つまりなかにし礼の色っぽさはこの溜息のような不安のせいで、だから健康にして前向きのなかにし礼など考えられない、と久世さんは書くのです。
ラジオ番組の2年前の2月、毎日新聞夕刊の特集ワイド「近藤勝重の世相を見る」でもインタビューしているのですが、スタジオでの話にその時のこんなやり取りを思い出していました。

なかにし　僕は単独行動をする人間であって、誰にもくみしない。ナンパであり不良であり前衛である。自由であることが僕なんだから。
近藤　そこにぜひ、「色気」という言葉を加えてほしいです。

―なかにし　それは大変に正しいご理解ですね（笑）。

決して誉め言葉にはならない不良という言葉をそのまま受け入れ、かつナンパ、色気という言葉も自らを許して用いる。食道癌にかかったこともその大変な治療もなんら隠しだてしない。

そんな彼には、終戦後の死と隣り合わせの引き揚げ体験や、実の兄の借金を背負い込んでの苦闘もあります。それらが血肉となり、生きるということの気概をもたらせているようにも思えたことでした。

昭和42年に黛ジュンさんが歌い、和製ポップスを切り開くヒット曲「恋のハレルヤ」の♪愛されたくて　愛したんじゃない…という歌詞、あるいは昭和44年に弘田三枝子さんが歌った「人形の家」の♪愛されて　捨てられて　忘れられた部屋のかたすみ…の歌詞などには正しく不良を生きた日々の開き直りが通底しているように感じられてなりません。

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

淡路島の阿久少年と東京

こうしてなかにし礼さんの世界をのぞいてみると、それ故に作詞家阿久悠の存在感も増してくる印象です。まるでタイプが違うが故に、二人は並び立ってこられたのではないか。僕にはそう思えてなりません。

阿久悠さんの自らを律する「作詞家憲法十五条」はすでに紹介していますが、その第一条は美空ひばりさんにふれています。「美空ひばりによって完成したと思える流行歌の本道と、違う道はないものであろうか」というものです。

美空ひばりさんと同じ昭和12年生まれの阿久さんが物心ついた時すでにひばりさんは天才の歌い手だったと、自著に記しています。といって自らを「美空ひばり」と比べてみることのナンセンスは十分承知しつつ、自分は淡路島の一少年にすぎない。とはるか遠い海の向こうの東京には自我の目覚めとともに憧れ、ひかれる思いは強まるばかりだったようです。

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

阿久さんの父親は駐在所の巡査で、阿久少年も島を転々としています。一所に定住しない土着性の乏しい旅人意識も影響してか、洲本市の高校時代は東京の風景見たさに映画館に入り浸っていたそうです。

阿久さんの直木賞候補作品『瀬戸内少年野球団』が映画化されたとき、淡路島へ渡り、彼の足跡を追ったことがありますが、その当時の阿久少年を知る人は、野球少年だったとか、友だちのラブレターを代筆して、それで得たお金で映画館へ行っていたとか、いまも伝わるそんな話をしていました。当時はまだ漠としたものの、東京でのクリエイティブな仕事への思いを強めていたにちがいありません。

その東京では明治大学文学部で日本文学を学び、卒業後広告会社へ就職します。歌の世界で知られた阿久さんのマーケティング能力は、その社での宣伝企画の仕事で身につけたものでしょう。

なかにしさんとは違って女性とのごたごたなどとんと聞かない人でした。もち

ろんつきあいで酒場へも足を運んだでしょうが、あまり飲まないでホステスの話に耳を傾け、作詞のヒントを得たりする程度だったのではないでしょうか。僕の想像ですが、藤圭子さんの「京都から博多まで」(昭47)などは、ホステスの話に「そうか、〝北へ帰る〟じゃなく〝西へ流れる女〟がいるんだ」と。

対してなかにしさんは体験派です。詞が自作の「君は心の妻だから」(昭44)など、そのまま口説き文句になっていたんじゃないかとは、氏を知る人の冗談ながら、こういう両者の対比対照も昭和歌謡的テイストに生きていることでしょう。

「作詞は文学」となかにし

さて、それではなかにしさんの「反権力」に対して、阿久さんはどうだったのでしょうか。時代を映す出来事には日記に記すほどの関心を示していたようですが、とくに興味を引いていたのはポピュラリティのある世界のようで、その一つが高校野球でした。

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

春のセンバツでは記念大会にあたる1993年の第65回大会で阿久さんが作詞を、谷村新司さんが作曲を手がけた「今ありて」が新大会歌に採用され、入場行進曲にもなりました。

その年のセンバツは、僕も強く印象に残っています。当時、大阪本社の論説室に在籍していて、開幕当日の朝刊に掲載されたセンバツの社説を書いたからです。

今ありて　未来も扉を開く
今ありて　時代も連なり始める

新大会歌は球児たちを鼓舞するかのように響きわたり、一生懸命の高校野球が一層爽やかに感じられました。

人は感動すると「あっ」と声を上げますが、阿久氏はその「あ」に着目して、高校野球を『「あ」のもの』と表現していたのもよく覚えています。いかにも阿

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

久さんらしい言葉で、試合が始まるや球場は確かに「あっ」から「あー」まで「あ」の世界に一変します。

夏の大会期間中も氏はスポーツニッポンで「甲子園の詩」を連載し、敗者などにも温かいまなざしを向け、ぬくもりのある言葉を記していました。

いやこんなふうになかにし・阿久考をやっていると際限がないのですが、どうしてもとりあげたいのは作詞の文学性についての二人の考え方です。

なかにしさんは「僕ら作詞家は日本文学の末裔です」と話し、「文学にある毒の表現法を学んでいなければならない」とも強調しています。

なかにし礼作詞、作曲で、昭和53年に黒沢年男さんが歌った「時には娼婦のように」など、世の醇風美俗の温和な色調をあえて毒々しくした感ありです。

1番の出だしなどこの調子です。

時には娼婦のように淫らな女になりな

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

真赤な口紅つけて　黒い靴下をはいて
大きく脚をひろげて

なかにしさんご自身が詞の文学性を語って挙げている歌は「石狩挽歌」です。作曲は浜圭介さんです。昭和50年、北原ミレイさんが歌って話題になり、ヒットしました。１番はこうです。

海猫（ごめ）が鳴くから　ニシンが来ると
赤い筒袖（つっぽ）の　やん衆がさわぐ
雪に埋もれた　番屋の隅で
わたしゃ夜通し　飯を炊く
あれからニシンは　どこへ行ったやら
破れた網は　問い刺し網か
今じゃ浜辺で　オンボロロ

CamScannerでスキャン

オンボロボロロー
沖を通るは 笠戸丸
わたしゃ涙で ニシン曇りの 空を見る

「オンボロロ」には、独創性ゆえの文学性があると言い切って、こんな一言を添えていました。

何か普遍性があって心を通わせる、いい日本語がないかなと考えていてボロボロとおんぼろを重ねてオンボロロ、これで、詞ができたと思いました。それだけの言葉に、一週間かかりました。

詞は「商品」と阿久

阿久さんの「ざんげの値打ちもない」（昭45）はそのなかにしさんが、文学だ、

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

オンボロボロロー
沖を通るは　笠戸丸
わたしゃ涙で　ニシン曇りの　空を見る

「オンボロロ」には、独創性ゆえの文学性があると言い切って、こんな一言を添えていました。

何か普遍性があって心を通わせる、いい日本語がないかなと考えていてボロボロとおんぼろを重ねてオンボロロ、これで、詞ができたと思いました。それだけの言葉に一週間かかりました。

詞は「商品」と阿久

阿久さんの「ざんげの値打ちもない」（昭45）はそのなかにしさんが、文学だ、

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

と挙げる一曲です。歌ったのが当時、銀座のクラブ歌手で、後に「石狩挽歌」で抜群の歌唱力をみせた北原ミレイさんで、作曲は村井邦彦さんでした。
愛を渇望する少女が主人公の告白調の歌物語です。

ざんげの値打ちもない

あれは二月の　寒い夜
やっと十四に　なった頃
窓にちらちら　雪が降り
部屋はひえびえ　暗かった
愛と云うのじゃ　ないけれど
私は抱かれて　みたかった

あれは五月の　雨の夜
今日で十五と　云う時に
安い指輪を　贈られて
花を一輪　かざられて
愛と云うのじゃ　ないけれど
私は捧げて　みたかった

CamScannerでスキャン

あれは八月 暑い夜
すねて十九を 超えた頃
細いナイフを 光らせて
にくい男を 待っていた
愛と云うのじゃ ないけれど
私は捨てられ つらかった

そうして こうして 暗い夜
年も忘れた 今日のこと
街にゆらゆら 灯りつき
みんな祈りを するときに
ざんげの値打ちも ないけれど
私は話して みたかった

解釈はいろいろあるでしょうが、かなうならもう一度人生をやり直したいという心のつぶやきが聞こえてくるようです。

ただし、です。阿久さんは『作詞入門　阿久式ヒット・ソングの技法』で「詞は文学ではない」と、こう書いています。

歌は、レコードという言を通して相手に伝えるものだということを忘れている人が多いのではないか。詞は、文字で伝える詩とは決定的に違うのである。

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

この箇所で詞は「商品なのだから、自分だけがわかることばはいけないということである」と詞＝商品論を展開して「自分の気分だけで書いた詞は、相手に届かない」とも書いています。

先に阿久さんの関心はポピュラリティにあった、とふれましたが、詞は商品だという考えともそれは通じるものでしょう。

「石狩挽歌」と「舟唄」

とは申せ、僕などはなかにしさんが「石狩挽歌」の文学性を語るなら、阿久さんの「舟唄」(昭54)も同様に、文学性を語って何らさしつかえないように思います。

何がどうだといった細かいことはおいても、なかにしさんが「石狩挽歌」で♪今じゃ浜辺で　オンボロロ　オンボロボロロー…を思いついた才と似た才を「舟唄」の♪沖の鴎に　深酒させてヨ　いとしあの娘とヨ　朝寝する　ダンチョネ…の

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

「ダンチョネ」に感じてしまうのです。

「ダンチョネ」は神奈川民謡の「ダンチョネ節」からの思いつきでしょうが、男歌ならではの哀感も入り混じった男の気持ちを引き出すのに実に効いています。よく思いついたなあ、と感服すればするほどそこに「舟唄」の文学性も同時に思うしだいです。

かつ「舟唄」の「肴はあぶったイカでいい」から始まる八五調の4行を続けた作曲家が「石狩挽歌」作曲の浜圭介さんという偶然を得て、両曲に共通する北の海の暗さを醸成しているという不思議を思わざるをえないのです。

「ひばりさんが歌うなら」

なんでもこの「舟唄」はスポーツニッポンの企画「阿久悠の実践的作詞講座」で一人の歌手に歌ってもらいたい詞を読者から募った際、阿久さん自身美空ひばりさんに歌ってほしい歌なら、こんな詞を書く、と作詞したものだそうですね。

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

それがいろんないきさつで、浜圭介さんが作曲して八代亜紀さんが歌って大ヒットをみたということのようですが、倉本聰さんの脚本で降旗康男監督がメガホンをとった『駅 STATION』でさながら劇中歌のように流れた八代さんの「舟唄」は、僕の印象に強く残っています。八代さんも高倉健さんから「この歌がこの映画の芯なんだから」とおっしゃられ、うれしかったと話していました。
ともあれ「舟唄」の詞はすべてを書き留めておきたいと思います。

舟唄

お酒はぬるめの 燗がいい
肴はあぶった イカでいい
女は無口な ひとがいい
灯りはぼんやり ともりゃいい

しみじみ飲めば しみじみと
想い出だけが 行き過ぎる
涙がポロリと こぼれたら
歌いだすのさ 舟唄を

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

沖の鵜に 深酒させてョ
いとしのあの娘とヨ 朝寝する
ダンチョネ

酒には飾りが ないがいい
窓から港が 見えりゃいい
はやりの歌など なくていい
ときどき霧笛が 鳴ればいい
ほろほろ飲めば ほろほろと
心がすすり 泣いている
あの頃あの娘を 思ったら
歌いだすのさ 舟唄を

ぽつぽつ飲めば ぽつぽつと
未練が胸に 舞い戻る
夜更けてさびしく なったなら
歌いだすのさ 舟唄を
ルルル ルルル……

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

心のバリケード

付け加えて言うのもなんですが、美空ひばりさん、一度だけ歌ったあと、八代さんに「この歌はアキのほうがいいわね」と言ったそうです。

阿久さんの「作詞家憲法十五条」はすでに紹介しました。繰り返しになりますが、その第一条の「美空ひばりによって完成したと思える流行歌の本道と、違う道はないものであろうか」が、心のバリケードになっていたのかどうか、阿久さんにとってひばりさんは敬して遠ざける存在だったようです。

阿久さんは2007年8月、尿管癌で70年の生涯を閉じています。作詞家生活は40年を数えますが、「美空ひばり」への強い意識ゆえに生じる自問自答の日々もあったのではないでしょうか。

一方、なかにし礼さんはひばりさんとは懇意でしたから、何曲も詞を提供しています。またそこに「秘話」もあります。追ってまた紹介できればと思っています。

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

5 追想「別れの一本杉」

歌がつなぐ自分との回路

こう言っちゃなんですが、歌謡曲を聴くのにさして知識はいりません。知識って、そうか、そういうことかってわかったらおしまいってとこ、ありませんか。ありますよね。

でも歌謡曲は、わかるとか、わからないより、とにかく聴いてその歌の世界の情景を心に描ければ、それで十分なのです。その情景とともに思いを深めてもらい、願わくば自分の物語として聴いてほしい。歌づくりにたずさわる多くの人の、

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

それが一番の願いなのです。

他人の世界の歌であっても、自分と通じる回路があるものです。仮に閉じられていた回路であっても、歌はちゃんと開いてくれる。それが歌謡曲、ひいては昭和歌謡の強みなんですね。

いや実際、そういうことを置いて、長く、本当に長く続いている昭和歌謡ブームは語れません。皆さんはあの歌、この歌を耳にして、自分の物語をダブらせたり、すっかり自分のストーリーに取り込んでしまったりしているんですね。

今宵も昭和の歌番組に逃げ込んで

人生80年、えっ、人生は100年の時代？　ほー、もうそんな言い方、世に定着しているんですか。すごいなあ。僕なんかまるで無縁の年数に思われますが、ともあれ生きるほかはなく生きているのが僕らです。弱いもんです。ふと悲しみを覚えることもあります。

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

そんな折々に耳に入ってきた歌はすーっと胸の中に入ってきます。そしてその時の思いとふれあえる歌ですと、心身と共振するんですね。

とりわけ昭和歌謡はそうです。いまの歌はリズムがどうの、テンポがどうの以前に、歌詞が単なる音めいて、歌詞の世界に入り切れないのです。心情表現も描写より説明っぽい歌が多いせいで、心に思い描くってことがほとんどできないという面もありそうですね。

そのあたりのこともあってテレビをつければ、今宵も昭和歌謡ということになるのでしょう。うるさいトーク番組。見たくもない政治家や評論家が出てきて自分らに都合のいいことばかり言っている番組。やたらと雑学を披瀝しあう番組……挙げていけばきりがなく、その手の番組は地上波に多いのですが、そんなときはBS、CSの歌番組へ逃げ込んでしまうんですね。

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

ラジオの時代の「望郷演歌」

といった歌謡はこのへんにして章に掲げた本論に入りましょう。

顧みて、昭和30年代、歌はもっぱらラジオという時代がありました。家が書店だったので、歌手、俳優の近況などは芸能情報満載の『平凡』『明星』などは入荷した後、就元において読みました。小学校も、6年で漫画系の雑誌は卒業していたのですが、その『平凡』『明星』もやがて好きになれず、『主婦の友』『主婦と生活』……いや、要はおかみさまたちがあって、たいては前にも書いたとおりですが、そんなしだいでして、中、高とラジオから流れる歌はよく聴きましたが、ラジオですのでの本題論と歌の歌より春日八郎さん、三橋美智也さんには耳がなじみました。

なかなかすく好きだったのが春日さんの「別れの一本杉」でした。

新かな時代は昭和31年の経済白書「もはや戦後ではない」のフレーズが流行しするように昭和30年代では来の「平和観光」に続く状況。昭和31年下半期の木三賞

を受賞した石原慎太郎さんの『太陽の季節』から生まれた「太陽族」をはじめ、以後数年「団地族」「カミナリ族」「よろめき族」と〇〇族が続々と現れたのでした。

歌も世を映して東京で働く人たちが大挙して地方から流入するや、「望郷演歌」、言葉を換えれば「上京ソング」がはやりました。昭和30年の年末に発売された春日八郎さんの「別れの一本杉」は、その代表曲でしょう。

東京を取り巻く三県人の楽曲

作詞の高野公男さん、作曲の船村徹さんという新進コンビがこの歌の大ヒットで話題になりました。高野さんは茨城県出身、船村さんは栃木県出身で共に東洋音楽学校（現・東京音大）の同級生。春日さんも福島県は会津の出身でしたから、東京を取り巻く三県人の楽曲でもあったのです。

といって望郷というのは何も生まれ育ったふるさとを思うだけではありません。気持ちの拠り所となる心のふるさとでもあります。

CamScannerでスキャン

船村さんの場合、すぐ上の兄が戦死しています。優しい兄は弟の船村さんによくハーモニカを吹いてくれたそうです。

ハーモニカの音色には泣く人もいるほどです。ありし日のひとコマをも思い出してうるっとくるんですね。

そう思って聴くせいでしょう。船村さんのつまびくギターの哀の調べからは、ハーモニカの音色とも重なる昭和がしみじみと伝わってきます。

そうしてギターの弦が紡ぎ出したかのような歌い出しの〝泣けた 泣けた…〟最高です。「山の懸巣」「石の地蔵さん」「赤いほっぺ」の娘……ちりばめられた言葉がまたいい。三県人の思いが通じ合ったことでしょう。

大物歌手勢揃いの追想アルバム

高野さんは胸を患ってこの歌がヒットした1年後に26歳の若さで亡くなりました。

「俺は茨城弁で詞を書く。お前は栃木弁で作曲しろ」

高野・船村コンビはともになまりがあっての意気投合でした。

84歳で2017年2月に亡くなった船村さんを悼む記事が「毎日新聞」に記者の署名入りで掲載されていましたが、船村さんのこの言葉が特に心に残ります。

――歌もビジュアルばかり追えば三か月でおわりますよ。ティッシュみたいな使い捨てですね。歌にもっと奥行きを出さないといけない。

懐かしい名曲は記憶の奥深いところにしまわれています、ひっそりと。その歌を聴くと、また聴く人それぞれに格別の意味を持ってよみがえります。そこでまた昭和歌謡ならではの感懐を覚えることになるんですね。

一本杉はいまも、春日さんの郷里、福島・会津坂下の春日八郎記念公園内に「別れの一本杉」と名付けられて、すっくと立っています。歌とどういう縁のある杉

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

か？　ではありますが。

そうそう、ＭＢＳラジオの「懐メロ♪ジュークボックス」のパーソナリティ野村啓司さんは作曲家の船村さんのほか、美空ひばりさん、三橋美智也さん、北島三郎さん、五木ひろしさんといった大物歌手が「別れの一本杉」を歌っているＣＤを「宝物にしています」と番組で話していました。そういうアルバムがあることだけでも昭和歌謡にとってどれだけ大切な曲かがよくわかります。アルバムのタイトルは「別れの一本杉　は枯れず」だそうです。

一本杉への想い

ついでながらの話ですが、高倉健さんは「おもう」は「思う」でも、「おもい」は「想い」と書いていました。解字的に「想」は「木」をじっと見つめている「目」を表しています。その下に「心」ですから、心でじっと木を見つめていると解釈できます。

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

木の上には空が、下には大地が広がっています。「想い」って、とっても大きな言葉なんですね。

「別れの一本杉」で歌われているような状況に身を置くと、帰郷して一本杉を見上げると心は切ない想いであふれるでしょうね。

もっぱらラジオで聴いていて春日さんをテレビの白黒の映像で見たときは、背広姿のすっとした佇まいが印象的でしたし、深みのあるビブラートもいい感じに聴こえ今も古い映像でその姿を拝見すると見入ります。そして昭和30年代は、40年代は……とつい追想に耽っている自分に気づかされるのです。

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

6　汽車の別れ

随分前のことになりますが、同じラジオ番組に出ていた新人アナウンサーが「夜汽車に乗って」を「よる／きしゃにのって」と読んでいました。文脈にさして影響はなかったものの、意味合いはまるでことなります。

「汽車にあって電車にないのは未練」

汽車が電車になって久しいし、夜汽車という言葉も若い人の間では死語同然かも、と世代の隔たりを実感しました。

♪寒い夜汽車で　膝をたてながら　書いたあなたの　この手紙…八代亜紀さん

CamScannerでスキャン

の大ヒット曲「愛の終着駅」（昭52／詞・池田充男　曲・野崎眞一）など知らない世代なんでしょうね。夜汽車の冷たく響くレールの音が、本当に聴こえてくるような歌です。

久世光彦さんが山本夏彦さんとの共著『昭和恋々』に「汽車」と題して書いています。

——汽車にあって電車にないのは《未練》である。このまま行こうか戻ろうか。発車のベルが鳴っても、まだ間に合うのが汽車だった。

ちあきなおみさんの「喝采」（昭47／詞・吉田旺　曲・中村泰士）ではこう歌われています。

♪あれは三年前　止めるあなた駅に残し　動き始めた汽車に　ひとり飛びのった

…

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

行こうか、戻ろうか。彼女は未練を絶ち切って、飛び乗ったんですね。汽車だからそうできたんですね。

異色の「木綿のハンカチーフ」

「鉄道唱歌」の昔から汽車、鉄道（鉄路）は歌につきものでした。戦後、別れの歌は汽車か連絡船でした。

と書くと、ホームの端まで走って手を振った別れがすぐに思い出されますが、別れは別れでもこんな風に明度を高められるのかと感興を覚える歌もあります。太田裕美さんの「木綿のハンカチーフ」（昭50／詞・松本隆　曲・筒美京平）で、男女それぞれの立場で太田さん一人で歌って、その掛け合いはこんな調子です。

♪恋人よ　僕は旅立つ……はなやいだ街で　君への贈りもの　探す　探すつもりだ…

男性の気持ちを女性はこう返します。

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

♪いいえ あなた私は 欲しいものはないのよ ただ都会の絵の具に 染まらないで帰って…

松本隆さんの詞がポップス調よろしく筒美サウンドとうまく噛みあって、本来悲しいはずの別れも不思議としめっぽくない。

♪あなた 最後のわがまま 贈りものをねだるわ ねえ 涙拭く木綿の ハンカチーフください…って、結びのフレーズも松本さんの持ち味でしょう、そうきますかって感じで、シャレてますよね。

「別れの朝」の歌唱比較

なかにし礼さんがオーストリアの歌手ウド・ユルゲンスさんの原曲をオリジナルといっていいほどの作品にした「別れの朝」(昭46)は、男女の言葉は何一つ聞こえてこないが、お互い納得の別れであろう、さわやかささえ感じられます。

白いドアをあけて外に出ると、日が射す道が駅まで延びてその周辺の風景も浮

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

かんできます。やがて駅頭での汽車の別れです。ここの歌詞がとりわけいいんです。

♪やがて汽車は　出てゆき　一人残る　私は　ちぎれるほど　手をふる　あなたの目を見ていた…

歌詞に沿って別れのシーンを想像するだけで情感が先へ先へと伸びていくのです。

この歌はこんな楽しみ方もできます。ペドロ&カプリシャスの初代ボーカル前野曜子さんと二代目ボーカルの高橋真梨子さんの歌唱比較です。まるで違います。前野さんの歌はさりげなく歌っているようでいてソウルフルでセクシー。高音もよく響いて心に残ります。肝臓がんで40歳で亡くなりました。それまでは悲傷の日々で、お酒の飲みすぎが死因につながったといわれています。

それに比べて高橋さんはムードたっぷりの本格派の技巧です。好みはおのずと分かれるでしょうが高橋さんは前野さんの持ち歌という意識があったのでしょう。彼女の死後しばらくこの歌は歌っていませんでした。

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

歌い継がれる「なごり雪」

伊勢正三さんの作詞作曲でイルカさんが歌って大ヒットした「なごり雪」（昭50）は、汽車の別れに特有の未練が聴かせどころです。負けまい、泣くまいと自分に言い聞かせるサビの部分がいいなあ。

汽車を待つ君の横で僕は
時計を気にしてる
季節はずれの雪が降ってる
東京で見る雪はこれが最後ねと
さみしそうに君はつぶやく
なごり雪も降る時を知り
ふざけすぎた季節のあとで
今春が来て君はきれいになった
去年よりずっときれいになった

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

1番の歌詞ですが、こうして書き写すと、時々刻々と描出される駅の場面をはじめストーリーテリングの巧みさが改めてうかがえます。昭和歌謡の一ジャンル、フォークが広くみんなのものになっていったのも当然でしょうね。

歌い継がれた汽車の別れをアトランダムに取り上げたのですが、久世さんの「汽車」の最後はこうです。

汽車はスピードが出るまでに時間がかかった。追いかけてホームの端くらいまでは、並行して走ることができた。白いホームの途切れるところが、未練の切れ目だったのだ。

汽車が電車になって、歌の別れはつまらなくなった。

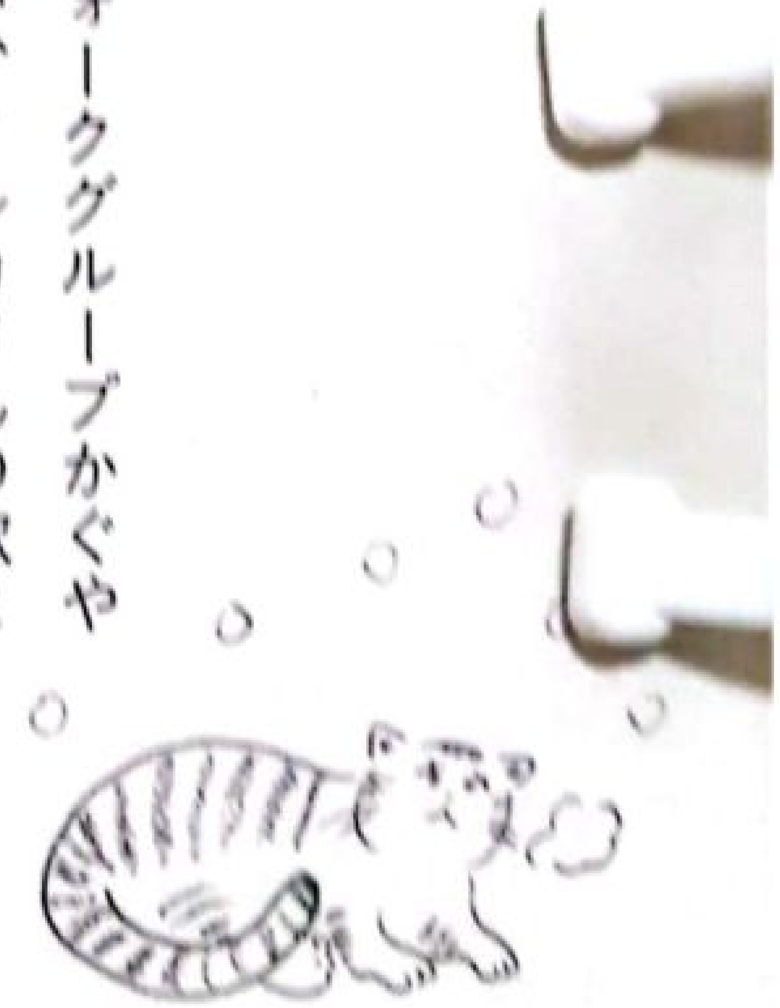
同感です。

CamScannerでスキャン

「なごり雪」と「ふれあい」

伊勢正三作詞作曲の「なごり雪」はもともとはフォークグループかぐや姫のアルバム収録曲です。伊勢さんも歌っていますが、イルカさんの歌という印象が強いようですね。

イルカさんは昭和50年にフォークデュオのパートナーだった音楽プロデューサー神部和夫さんと結婚して、ソロ3曲目のシングルとして「なごり雪」を歌いました。「私が歌ってかぐや姫ファンの人たちががっかりしたら申し訳ない」とか「名曲に便乗するというのも……」などと悩んだそうですが、「そんなふうにくよくよ思うのは歌に失礼だ」と気持ちを切り替えアコースティックギターを片手に歌い始めたところ、あれよあれよというまに大ヒット。夫の和夫さんはパーキンソン病を患い、2007年に



CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

亡くなりましたが、「夫の遺したまあるいいのち」とともに「なごり雪」はイルカさんの宝物となっています。

　さてその「なごり雪」ですが、歳時記では春の季語で「名残りの雪」とあります。同じ意味合いの季語では「雪の果て」「雪の名残り」「雪の別れ」「忘れ雪」などとたくさんあります。いずれも春の最後に降る雪のことで、その土地によって2月、3月、4月と時期が異なりますが、いずれも名残りを惜しむ思いを表すと同時に、心の落ち着きや静寂さ、さらには儚(はかな)さも表現している言葉です。

　ですから歌詞でも「名残りの雪」とするところでしょうがそこは言葉のメロディーとのマッチ優先で伊勢さんは「の」を取ったのでしょうね。「の」抜きのなごり雪はイルカさんの歌声で全国に広まりました。こうなりゃだれが文句などいえましょう。いくら「の」がないのはおかしいと言っても、世の人の感覚はむしろ「の」があるほうがヘンという声が強い。おそらく。

2011年から、現在の季節感にあう「季節のことば」を選定している日本気象協会はここは自分たちの出番と思ったのでしょう、2013年3月選考委員会を開き「季節のことば36選」を選定した際、3月に「ひな祭り」「おぼろ月」とともに「なごり雪」を入れました。

言葉の厳密さという点でもう一つ。中村雅俊さん歌唱の日本テレビ系ドラマ「われら青春!」の劇中歌「ふれあい」(昭49/詞・山川啓介 曲・いずみたく)ですが、本来は「触れ合う」で心が触れ合うといった意味合いで用いられてきました。ですが、120万枚というミリオンセラーという力も大きかったか、『広辞苑』も1998年の改訂版で「ふれあい」を加え①互いに触れる②ちょっとした交流——との語釈をつけています。『広辞苑』をして認知させるヒットソングの力。昭和歌謡強しですね。

ところで「ふれあい」と同様に、劇中歌や主題歌でもヒット曲はたくさんあります。僕はTBS系ドラマ「時間ですよ」で堺正章さんが歌った「街の灯り」(昭48/詞・阿久悠 曲・浜圭介)が好きでした。その時は若

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

い男女に芽生えた恋の歌として聴いていたのですが、東日本大震災で僕の住んでいる東京湾岸の住宅地も液状化に見舞われて以降、この歌に穏やかな日々のありがたさを感じるようになりました。

というのも、計画停電で家々の灯りが消えて、それが解除されて、ふわっふわっと光の輪が闇の中に浮かび上がってくると、何か安心して「街の灯り」を口ずさんだりしていたのです。

中村雅俊さんの出身地宮城県女川町も被災して大変だったようですね。足を運んで町のみんなと「ふれあい」を合唱している姿を何度かテレビで見て、復興の一歩となる歌だと実感し、こちらも鼓舞されたものです。

CamScannerでスキャン

7　政治の季節――ラブ＆ピース

芸名改め「西田佐知子」

皆さんに質問です。「浪花けい子」って歌手、ご存知ですか？
……ご存知じゃない。そうでしょうね。デビュー時の芸名ですが、売れず、移籍先のレコード会社で芸名は改められました。「西田佐知子」と。
察するに大阪出身だし、浪花けい子となったのでしょうが、この芸名じゃ演歌っぽい。彼女自身の顔立ちやハスキーな声の質とも違和感があります。
代表作の「アカシアの雨がやむとき」（昭35／詞・水木かおる　曲・藤原秀行）

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

は昭和歌謡を代表する楽曲ですが、彼女はこの歌でこの世界で言われていた〝長くは売れない歌手の共通点〟、すなわち美人で、ハスキーな歌声の歌手は長く売れないというジンクスを破った、と評されたようです。

1971（昭和46）年に関口宏さんと結婚して芸能界と距離を置きましたがそれまでは「コーヒー・ルンバ」（昭36／日本語詞・中沢清二　詞曲・ホセ・マンソ・ペローニ）、また「東京ブルース」（昭39／詞・水木かおる　曲・藤原秀行）また「赤坂の夜は更けて」（昭40／詞曲・鈴木道明　編曲・川上義彦）と数多くのヒット曲を出しています。

当時の歌謡界では、ビブラートやこぶしをきかせるのが当然の歌い方で、演歌調の濃い歌い方の歌手がひしめいていました。例えば都はるみさんとかチータこと水前寺清子さんとか。比して西田佐知子さんはノンビブラートで、やるせない、聴きようによっては、投げやりな歌い方で淡泊なテイストでした。で、逆にキャラがたち、60年代全般にわたってヒット曲を出せたのでしょう。

CamScannerでスキャン

60年安保とシンクロした「アカシアの雨がやむとき」

僕の父は彼女の歌をよく口ずさんでいました。「アカシアの雨がやむとき」は60年安保という政治の季節のテーマソングのように言われています。父は右でも左でもないノンポリ。ただ好きで歌っていたようでした。

実のところ「アカシアの雨がやむとき」は60年安保の歌とされていますが、それは後付けだったのだろうと僕は思っています。日米安保条約改定をめぐる60年安保闘争で、東大生の樺（かんば）美智子さんが全学連のデモ隊と警察がぶつかり合う中で亡くなりました。

流血の一夜が明けた6月16日、東京は雨で、抗議の黒い傘が国会周辺を埋めました。安保闘争の挫折感が包むこの出来事と、♪アカシアの雨にうたれて　このまま死んでしまいたい…と歌いだされるあきらめモードの歌詞とその調べ、さらには西田さんならではの物憂げな歌い方がうまくシンクロしたんでしょうね。

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

恋人の歌ですから闘争のさなかにみんな歌っていたわけではありません。政治の季節のやるせなさが尾を引く中で、じわじわと人気が出てきたんですね。安保闘争のニュースの映像のバックで「アカシアの雨がやむとき」が流れていたのもヒットの後押しになったようです。

西田さんはその2年後、昭和37年のNHK紅白歌合戦の舞台に立って「アカシアの雨がやむとき」を歌っています。ちなみに西田さんは70年安保の前年、全共闘の東大安田講堂事件が起きたその年の紅白でも「アカシアの雨がやむとき」を歌いました。

「おなご」を抱くように

さて、次の大きな政治闘争となったのは70年安保です。その前年に発売の、加藤登紀子さんの歌「ひとり寝の子守唄」が流れました。加藤さんは、後に獄中結婚した元全学連委員長藤本敏夫さん（2002年7月死去）への思いを託して歌っ

CamScannerでスキャン

ていましたが、歌声はあの頃の空気と重なって僕の耳に残ります。
加藤さんとはNHKラジオ「日曜喫茶室」で高倉健さんの追悼番組をやった時、ご一緒しています。加藤さんは映画『居酒屋兆治』（昭58公開）で健さんの奥さん役でした。そして最後の場面で「人が心に想うことは誰にも止められないもの」とつぶやくんですが、藤本さんへの想いもやはり止められなかったと、番組でおっしゃり、70年安保の2年後に長女を産んでいます。
夫の藤本さんが拘置所から仮釈放された時の愛と察しはつきましたが、加藤さんはそういう話になると下を向いて小さな声で話していました。学生運動が盛んだった60～70年代は言ってみれば学生と機動隊の攻防下のラブ&ピースの時代でもあります。
「ひとり寝の子守唄」の1番♪おなごを抱くように…の「おなご」は関西弁です。
彼女は京都育ち、藤本さんは兵庫県西宮市出身です。彼は同志社大学のブントというセクトの委員長をやって、京都府学連の委員長にもなり、東大安田講堂事件

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

にさしかかるころには全学連の委員長でした。
加藤さんは60年安保の樺美智子さんの死によって、歌のほかに学生運動にも目覚めていったそうです。藤本さんが集会で歌ってほしいと加藤さんのところにやってきたのがそもそもの始まりだったそうで、長女を身ごもった時は藤本さんは獄中でした。
「おなご」と「抱くように」のフレーズに、思いのすべてを伝えようとしたんじゃないでしょうか。「おなご」の一語に、生身の女のリアリティが感じられます。
藤本さんは肝臓癌で58歳の若さで亡くなりますが、肺呼吸するのも困難になっていた時、加藤さんが病床で「吐いて、吸って、吐いて、吸って」とつきっきりで声をかけていたそうで、そのうち藤本さんが一言「もういいだろう」と。それが最後の言葉だったと話していました。でも加藤さんは、「夫が死んで私たちは一つになりました。リンゴが二つに分かれていたのが一つになった感覚だ」とおっしゃっています。

三畳一間のラブ・ソング

ラブ&ピースと言えば、70年安保闘争に明け暮れた学生運動の熱も冷めゆく中で生まれた「神田川」（昭48）はぜひここに記しておきたい名曲です。早大時代デモにも参加していた放送作家の喜多條忠（まこと）さんが、三畳一間の同棲生活を即興的に詞にし、フォークグループかぐや姫の南こうせつさんが電話で受けて、これまた即興的に曲をつけたのだそうです。

貴方は　もう忘れたかしら
赤い手拭　マフラーにして
二人で行った　横丁の風呂屋
一緒に出ようねって　言ったのに
いつも私が待たされた
洗い髪が芯まで冷えて

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

小さな石鹸 カタカタ鳴った
貴方は私の 身体を抱いて
冷たいねって 言ったのよ
若かったあの頃 何も怖くなかった
ただ貴方のやさしさが 怖かった

1番ですが、たがいの言葉と一緒の場面描写が見事です。最後のフレーズ♪ただ貴方のやさしさが 怖かった…、心に残りますね、イミシンです。皆さんはどう解釈しますか。女性の視点で描かれた歌ではありますが、この一行には小さな幸せを共にする若い男女それぞれの将来への不安をないまぜにした自問が込められていたのではないでしょうか。

「学生集会」を詞にしたユーミン

そしてもう一曲、僕にはこの曲がとっても大事に思えるんです。フォークグ

ループのバンバンがリリースした『いちご白書』をもう一度」です。

昭和50年の歌で、作詞作曲はあのユーミンこと荒井由実さんです。過ぎ去った学生時代を回顧した曲ですが、バンバンは歌う歌がどれも売れずに困っていた時、ユーミンの曲を聴いて、ツテを頼って書いてほしいと頼み込む。「学生集会」という言葉が歌に出てくる作品で「就職が決まって髪を切った時」という言葉、時代を思わせますよね。

ユーミンは、僕が「サンデー毎日」編集長時代に始めた「小宮悦子のおしゃべりな時間」の最初のゲストに出てくれましてね。いや、小宮さんの力あってのことではあります。

小宮さんは当時久米宏さんの「ニュースステーション」に出ていて、週刊誌は引く手あまただったんですね。ま、そういうことはともかく、その時、すなわち1993年ですが、ユーミン（当時は松任谷由実）はこんなことを言っています。

「私ももうすぐ40なんですけど、70歳になってもガキでいたいな、トップでいたいな、と思っています」

ことし45周年の記念ベストアルバムを出されましたが、ユーミンのアルバム総売上げは3000万枚以上、女性アーティストではアルバムセールス1位なんですってね。ステージ上の噴水とか光の洪水とか視覚化と仕掛け、現実と映像のリンクなど、趣向満点のコンサートに足を運んだファンにはユーミンはただもう凄い時代のカリスマであったことでしょう。たしかまだ60代半ば？　象にまたがって会場に現れたのは……40年近く前のこと。まだまだなにかやりそうですね。

小宮さんは、ユーミンの歌は自分のバイオグラフィーと重なると言っていました。

「この曲を聴くとあの時を思い出す。ユーミンの歌って刷り込まれていっちゃうんですよ、人生に」

バイオグラフィー、つまり伝記ですが、60年代以降の伝記に歌がある人は、男

女ともきっと昭和を彩った歌と共に人生を彩ってきた方々でしょう。あれは80年代でしたか、ユーミンが呉田軽穂（かるほ）のペンネームで当時のアイドル松田聖子さんに「赤いスイートピー」（昭57）の詞を提供しております。後でもふれるのですが、聖子さんの代表曲ですよね。

アレンジャー松任谷正隆さんと結婚した1976（昭和51）年以降、フォークはファッション性を備え、サウンドも変化してきてニューミュージックとなっていきます。その音楽シーンの美神として、ステージに立つユーミンの姿はいまも鮮明です。

70歳のガキ・ユーミン、ぜひ見てみたいですね。

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

8　吉田拓郎とフォーク歌謡

飾らず率直に

吉田拓郎さん、当初は、話す気なさそうというか、無愛想な印象が強くありましたが、無愛想っていうより怖くないですか。阿久悠さんの強面なところとは違う印象とは違うんですよ。阿久さんのような紳士は生真面目そうな大人に見えるけど、しそうな気がしますが、若い時分の拓郎さんの場合は不安、ちょっと何するかわからない向こう気の強さが感じられましたしね。

でも歳をとっていくにつれ変わっていきましたが、もう最近は、もう言葉は優

ぎたかな？

概してアーティストはラフな感じで年齢よりもずっと若く見える。それでなおのこと気になってテレビに出ているのを欠かさず見ていたら、男気があり、かつ話の分かる優しい人なんだと見方がいつしか変わっていきました。要は率直なんです。自分の気持ちや考えを曲げたり隠したりすることなく、言うべきことは言う。ですから作品も世の中に率直に思うところを歌い、自然と人柄が出ているように思われます。

2018年の正月番組だったでしょうか。音楽プロデューサーの小室哲哉さんが小室ブームが終わった頃、拓郎さんに再会した際「何も言わずハグしてくれた」と涙ぐんでいました。その振る舞い方、拓郎さんらしいなあと思いました。ロック、フォーク、ニューミュージック、それにJポップ……と、音楽のジャンル一切をひっくるめて拓郎さんは最重要人物です。

あれはいつだったたか、やはりテレビで見たんですが、家では女優の田中裕子さ

CamScannerでスキャン

んに魚を焼いたりして朝食をつくっているとかなんとかいって笑わせるジュリーのことを、「一番気になる存在だった」などと言っていました。そのときの物言い、ちっともカッコつけたところがなく、すごくあっさりした感じで拓郎さんっていいなあと、その夜、すでに何十回も聴いている「旅の宿」（昭47）のCDを取り出し聴き入りました。

フォークの名曲「旅の宿」

岡本おさみ作詞、吉田拓郎作曲という願ってもないコンビの楽曲です。これは文章の勉強にもなると「文章表現」の授業のお手伝いをしている早稲田大学大学院ジャーナリズムコースでラジカセを持ち込み、「旅の宿」を学生たちに聴かせたものです。

そのあとで村上春樹さんのデビュー作『風の歌を聴け』にある「文章を書くという作業は、とりもなおさず自分と自分をとりまく事物との距離を確認すること

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

である。必要とされるのは感性ではなくものさしだ」の言葉を紹介し、「旅の宿」での人と物と自然との関係性を書き出してくださいと、注文しました。ちなみに、こういうことですね。

人　：　浴衣すがたの「君」、すっかり酔っ払った「僕」

物　：　ススキのかんざしをさした「君」が手にする熱燗徳利

自然：　宿から眺める上弦（じょうげん）の月

と書くだけでは歌の味わいが出ませんね。以下の歌詞を口ずさんでみてください。字余り的であっても、とにかく拓郎さんならではの飾らず、ざっくばらんな持ち味がフォークの曲調と和して感じ取れると思います。

旅の宿

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

浴衣のきみは尾花(すすき)の簪(かんざし)
熱燗徳利の 首つまんで
もういっぱい いかがなんて
みょうに色っぽいね

ぼくはぼくで あぐらをかいて
きみの頬と耳は まっかっか
ああ 風流だなんて
ひとつ俳句でもひねって

部屋の灯を すっかり消して
風呂あがりの髪 いい香り
上弦の月だったっけ
ひさしぶりだね 月見るなんて

ぼくはすっかり 酔っちまって
きみの膝枕に うっとり
もう飲みすぎちまって
きみを抱く気にも なれないみたい

詩人岡本おさみと共に

僕は関西きっての音楽通でラジオパーソナリティ、野村啓司さんの歌番組に出ているのですが、いつだったか野村さんが僕が選曲した「旅の宿」の裏話をして

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

くれました。「これは昭和44年、岡本おさみさんが27歳のとき、新婚旅行で青森の十和田湖に近い温泉に宿泊したときのことを詞にしたそうですよ。句だけはひねらなかったようですが、それ以外は実話らしいですよ」と。

僕が「上弦の月もですか？」と聞くと、岡本さんの奥さんは天文雑誌を定期購読されていたんですって。だから「あの月はなんだ」ときくと、もう自然に「上弦の月よ」と。

実は上弦の月に僕はこだわっていたのです。横たわっているようで愛らしく色っぽいですよね。それに上弦の月は満月にむかってふくらんでいきますので、若い男女にはお似合いです。もうそろそろ西の空に、と思うと、夜散歩に出て見逃さないようにするほどです。

演歌にしろフォークにしろ、星とか月はよく出てきます。そんな中でも風呂あがりに彼女と一緒に眺めた上弦の月を歌い込む才。拓郎さんも、岡本おさみさんという得がたい作詞家というより詩人とコンビを組んで得るものがたくさんあっ

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

たのではないでしょうか。

「旅の宿」を歌う拓郎さんはなんとも男の子っぽくて健康的な色気があります。ハーモニカホルダーを首にかけて歌う姿を若い子がまねたがるの、わかるなあ。

そうそう小室さんが話していたけれど、拓郎さんの歌には横文字の歌詞がない。それで「旅の宿」も好きだ、と。拓郎さんってビートルズに刺激され、ボブ・ディランに憧れていたって聞いていたけれど、だからって横文字ということにはならない。いいじゃない、と思ったりもしました。

森進一の「フォーク歌謡」を手がけ

さて、吉田拓郎の名をおいてはとても語れない音楽シーンがあるとれば、それは昭和50年夏の「吉田拓郎・かぐや姫コンサートインつま恋」も答えの一つでしょう。ボブ・ディランがよく野外コンサートをしていましたから、野外は拓郎さんの夢だったのでしょう。「つま恋」はもっと紹介しなければならないのでしょうが、

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

ここでは森進一さんが歌った「襟裳岬」（昭49）にこだわらせてください。

森さん所属（注…1979年に独立）のナベプロ（渡辺プロダクション）側は、メロディーも夜の盛り場演歌とはまるで違うし、字余りもあるフォークってちょっと……と嫌がったそうですが、森さんがぜひ歌いたいと。楽曲のすばらしさに引かれたのでしょう。実はその前年に森さんはお母さんを亡くしています。そのつらい思いがあって「襟裳岬」の3番の♪日々のくらしはいやでも やってくるけど　静かに笑ってしまおう…に心がふれて、歌いたいとなったようなんですね。

♪えんりょはいらないから　暖まっていきなよ…と終わるフレーズも感じるものがあったんじゃないでしょうか。

確かに何もない。でも他所（よそ）にはないものがある。おおらかな自然とのんびりした時間、それに何よりも人の温もりがあるんじゃないか。

この歌は100万枚もの売上を記録し、レコード大賞、日本歌謡大賞をダブル

CamScannerでスキャン

受賞、その年の「NHK紅白歌合戦」でも森さんはトリを飾りました。

それやこれやで森進一歌唱の「襟裳岬」は「フォーク歌謡」と呼ばれる楽曲となり、かつその流れからユーミンらの登場によるニューミュージック自体も大きくはばたくことにつながるのです。

岡本おさみさんは2015年11月に73歳で亡くなっています。数々の詞の中でも「襟裳岬」が特に有名ですが、岡本さんご自身若い頃に悩みを抱えて襟裳を旅したそうです。詩人の草野心平さんの作品に「エリモ岬」という詩があって、それに心を動かされ、近くの宿に泊まってただ時をすごしたと「東京新聞」の「筆洗」というコラムに紹介されていました。思わず切り抜いた名コラムでした。

拓郎さんについては、かまやつひろしさんや井上陽水さんとか泉谷しげるさんらとのことなど彼の人脈全般、さらには拓郎フォークの特徴とかも書きたかったのですが、「襟裳岬」の3番とともにこの章はこのへんで。

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

日々のくらしはいやでも　やってくるけど
静かに笑ってしまおう　いじけることだけが
生きることだと　かいならしすぎたので
身構えながら　話すなんて
ああ　おくびょうなんだよね
えりもの春は　何もない春です

寒い友だちが　訪ねてきたよ
えんりょはいらないから　暖まってゆきなよ

CamScannerでスキャン

9　歌う大スター　ひばり、裕次郎、そして健さん

ひばり嫌いがひばり絶賛

皆さん、こんな話題で盛り上がったことありませんか？　昭和最高の歌手は誰なのか。男では？　女では？

歌手だから歌の上手下手が問われることになりますが、女性のほうはこの人で落ち着く。美空ひばりさんです。ほかの名を挙げる異論はあっても、多勢に無勢、やり負かされるでしょう。

ごく少数派であれ〝ひばり嫌い〟の音楽関係者がいないわけではありません。

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

たとえばＭＢＳの長寿番組「素人名人会」の審査委員長やテレビ朝日の「象印スターものまね大合戦」の審査員を務めて、とりわけ関西エリアで人気のあった大久保怜さん。ひばりさんのプロデューサー役としていつも横にいた周りにやかましく言う母親が苦手だったせいもあるでしょうが、晩年の著書『大久保怜のナツメロの人々』にこうあります。

ひばりは、十年に一人、いや百年に一人の歌手です。ここ百年、ひばりぐらい歌のうまいやつ出ません。あるいは、百年しても出えへんかもわからん。それほど、このおなごは、偉大な存在。それが死んでから、ビデオ見てる。私、嫌いいうたら、死ぬまで嫌いや。それがもう変わってしまう。実力、これには反抗できない。そういう意味では、ひばりいうものは、やっぱり認める。だから、今でも、ひばり特集というのは、テレビで出る。死んだ歌手であんな歌手おりません。テレビ東京制作の『夏祭りにっぽんの歌』いうのは、毎年一回お

CamScannerでスキャン

盆頃出る。その時、ひばりのコーナーがある。やっぱり、ひばりは一曲やったらあかん。三曲から四曲歌わしよる。それ見たらわかる。何という偉いおなごや。死ぬ前の年の四月に、東京ドームで、大イベントやりおった。※二十八曲全部歌った。もう息も絶え絶えやった。あれが、ひばりの最後飾った。しかし、私に言わしたら、あれがあったために、ひばりは、三年か五年、寿命縮めた。あれでガクッと来たから、翌年の六月二十四日に死んだ。一年足らずで。平成元年です。天皇陛下が一月七日、やっぱり、昭和の歌姫、天皇陛下がおなくなりになったら、一緒に死によった。だけど、あれは、ひばりというおなごの、やっぱり、最後の燃え尽くし。花火の最後がきれいのと一緒。ロウソクが倒れる前に、フアッと明るなるのと一緒、東京ドームは。

それで、平成元年の最後の歌が『川の流れのように』一曲で終わり。

それから、藤山一郎さんとの話の中にひばりが出て、「藤山さん、ひばりの

CamScannerでスキャン

歌、どない思いはります?」て聞いたら、「うまい。頭下がる。うまいという以外にしようがない。その中で、一番感心するのは、言葉がはっきりわかります」言うてた。今の歌手で、言葉わからん歌手多いんです、プロでも。マイク近すぎて、ぼやけるとか。ひばりの場合は、声に自信持ってるから、マイクをうんと離す。藤山さん、もっと離す。この離すということは、ボリューム上げるから、声が良うなる。それを藤山さんもわしも前から言うてる。マイク離せば言葉がはっきりするぞ、離せば離すほど。藤山さんのやってることを、ひばりもやっとるわけです。だから、言葉がはっきりする。そういうことを藤山さん、一番先に言いました。その点、ひばりは、あれはすごい、そう簡単に出てくる歌手やないなあいうて。やっぱり、うまい人というのは、何かそういうところで共通するところがあるんです。

※引用原文ママ。実際は三十九曲歌った。

辛口ではっきりものをいう方で、彼がどう評するかで人気を集めた番組もありました。その彼のひばりさん評。これほど遠慮がなく、率直な物言いも珍しいと思え、あえて長めに紹介したしだいです。

一般に歌の上手下手の分かれ目は、音域、リズム感、音声によると言われています。ひばりさんがその三拍子そろっている歌手であることに文句はないでしょう。とくに音域ですね。低音から何オクターブあるのかと思わせる高音域のファルセットをなんなくこなす。思うまま声が出せている感さえあります。

音楽教室も開いていた怜さんによれば、歌をうまく歌うためには百ほど教えることがあるんだそうです。中でも大切なのは、柔らかな姿勢と表情で歌う、マイクを少し離して歌う、歌詞をちゃんと覚えてから歌う——などだそうで、「歌、読んだらあかん。歌、歌わな」「つまり読むという神経を持っていかれる以前に、歌詞は完全に頭の中で覚えて、あとはその内容を歌詞以外の歌作りという雰囲気

CamScannerでスキャン

に作っていかな歌にならん」というのが彼の持論でした。

怜さんの話では、ひばりさんも同じことを言っていたそうです。テレビでたまに他人の歌を歌わされるときは前の晩にちゃんと覚えてから歌っていた、と。で、ひばりさん、テレビカメラの前でスタッフが持っている歌詞に目をやりながら歌っていた、今ではすっかり大物になっている歌手に対しても、「舞台は戦場。命かけてやるのに、もの見ながら歌うというようなことはもってのほか」と叱っていたという裏話を紹介しています。

僕もやっぱり一番上手なのはひばりさんかなと思います。その理由としては、心で歌っている点を挙げたい。石本美由起作詞、古賀政男作曲の「悲しい酒」（昭41）を歌うひばりさんは、間奏の際の「ああ　別れたあとの心残りよ　未練なのね……」の語りのところで、涙を流しています。これなど、これまで何度となく言われてきたことですが、あえてふれるのも心で歌っていることの証だと思えるからです。「幼いころからのつらかったことを思い出しているのよ」と周りには

CamScannerでスキャン

言っていたそうですが、お母さんや弟さんをつぎつぎと亡くされて、深夜、独り、悲しい酒ならぬブランディをあおるように飲んだこともあったのではないでしょうか。

「歌は詞という文学性。メロディーという音楽性、それから歌い手の演劇性の3つで成る」とおっしゃるのは作曲家の小林亜星さんです。それで思い出すのは高倉健さんの言葉です。

生前、健さんとは何かと親しくさせていただき、僕の早稲田大学大学院の授業にも一度聴講に来てくれたことがあるんですが、それはともかく健さんはよくこうおっしゃっていました。

「心で思わないと演じることなどできません。要は心、涙は目からではない、心から流れ出るんです」

そこに歌われている人の心情を理解し納得すること。まずそれが歌う以前に問われていることで、ひばりさんが詞を頭の中にちゃんと入れて歌うというのも、

CamScannerでスキャン

そうでないと心で歌えなかったからでしょう。

万葉の昔は恋は「孤悲」だったとか。♪ひとり酒場で 飲む酒は…と歌いだす時、すでに心は孤悲に染まっていたんでしょうね。

絶唱「みだれ髪」

もちろんひばりさん歌唱の各曲は「悲」「涙」の演歌をはじめ和・洋を超えていました。

ブギやジャズのリズム系でノリの良さは早くから知られたことで、また一変して真っ赤なミニスカートでロックっぽい歌に挑戦したり、その他いろいろ実に多才でした。

しかし昭和56年に母親を亡くして数年後、ひばりさんは病魔に見舞われます。

昭和62年4月には、福岡の病院に緊急入院するほど肝硬変は悪化していました。

ですが、その年の夏に退院するや、秋には星野哲郎作詞、船村徹作曲「みだれ髪」

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

をレコーディングしています。

無理を承知の絶唱です。昭和62年10月のある一日、東京でレコーディングしたものですが、病み上がりの声とはとても思えないハリのある歌声で低音域から高音域、ファルセットも思いのままにこなして一発勝負の同時録音を終えたのでした。

そして翌年4月、東京ドームでの「不死鳥コンサート」へと繋いで、秋元康作詞・見岳章作曲の「川の流れのように」(平1)で人生の川をゆったりと歌い上げ、その大半をファンに捧げた52年の生涯を終えたのでした。

作家・片岡義男さんが『歌謡曲が聴こえる』でもふれていることですが、ひばりさんは何をどう歌ってもひばりさんでした。どんな歌をカバーしてもひばりさんはひばりさんでした。でも、だからこそ美空ひばりは天下を獲れたのです。

敗戦直後の混乱期、12歳でデビューして天才少女と話題をまいて以来、昭和歌謡のまさに歌姫でした。

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

をレコーディングしています。

無理を承知の絶唱です。昭和62年10月のある一日、東京でレコーディングしたものですが、病み上がりの声とはとても思えないハリのある歌声で低音域から高音域、ファルセットも思いのままにこなして一発勝負の同時録音を終えたのでした。

そして翌年4月、東京ドームでの「不死鳥コンサート」へと繋いで、秋元康作詞・見岳章作曲の「川の流れのように」(平1)で人生の川をゆったりと歌い上げ、その大半をファンに捧げた52年の生涯を終えたのでした。

作家・片岡義男さんが『歌謡曲が聴こえる』でもふれていることですが、ひばりさんは何をどう歌ってもひばりさんでした。どんな歌をカバーしてもひばりさんはひばりさんでした。でも、だからこそ美空ひばりは天下を獲れたのです。

敗戦直後の混乱期、12歳でデビューして天才少女と話題をまいて以来、昭和歌謡のまさに歌姫でした。

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

一方でひばりさんの歌を他の歌手が歌ったりしていますが、正直言って聴き入ったということはありません。そんな中でいつだったか男性の角川博さんがテレビで歌っていた「ひばりの佐渡情話」（昭37／詞・西沢爽　曲・船村徹）は聴きごたえがありました。

「いかす低音だわ」と北原三枝

さて男ではどなたが一番上手なのかの話に戻しますが、これはおそらくまとまりのつかない議論になるでしょうね。

そこでここではひばりさんとともに昭和の歌と映画の2大娯楽を代表した石原裕次郎さんは歌手としてはどうだったのか、ふと問うてみたくなったのです。

個人的なことになりますが、僕の6つ上の兄は裕ちゃんの大ファンで、それが高じて映画館に入り浸りしたあげく高校時代、映写技師の免許を取って、高校の授業を終えたら映画館へという生活を続けていました。僕は兄への弁当を届ける

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

彼にしてもらい、それで映画館へ日参したものです。

ただそれゆえに裕ちゃんのかっこよさと一向に背も伸びないわが身の貧弱さを比較したのでしょうね。かえって悩み多い青春でもありました。ですが兄のほうはラスターコートの襟をたてたりしてすっかり裕ちゃんを気取っていました。

といったことはともかく、没後30年の2017年、テレビで改めて見た『狂った果実』や『嵐を呼ぶ男』など懐かしくて懐かしくて。「イカす」なんて言葉が頭をよぎりましたね。

先に紹介の『歌謡曲が聴こえる』に出てくるこんな記述が印象に残っています。

彼が初めて主演した『狂った果実』という映画のなかに、横浜のクリフサイドという店で彼がステージでいきなり歌う場面がある。客のひとりとしてそれを見ている北原三枝が、「いかす低音だわ」と、うっとりした表情で言う。歴史的に貴重な場面だ。

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

低音とはなんだったか。その時代に発生したなんらかの価値であったことは確かだ。一九五〇年代後半から一九六〇年代なかばにかけて、日本ではＬＰの録音技術がピークに達した。裕次郎の場合だと、素のままの歌いかたに巧みなエコーという、いい素材と高度な技術の合体だった。

そう低音の魅力、それが裕ちゃんの歌の魅力だったんですよね、歌が上手かどうか以前に。作曲家の平尾昌晃さんが『昭和歌謡１９４５〜１９８９　歌謡曲黄金時代のラブソングと日本人』で、裕次郎さんの歌に対して、この世界の先輩が「エコーも深くかけているし、俳優が歌っているからいいんで、歌は素人に毛が生えたようなもんだよ」などと言っているのを聞いたと紹介しています。平尾さんは「何を言っているんですか、あんなに歌の上手な人はいませんよ」と口答えしたそうですが、それは次のような３つの根拠があったのです。

１つは、裕ちゃんの歌は一度聴くと誰もがみんな歌いたがる。２つ目は、歌詞

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

の一音一音に表情がある。３つ目はあの独特の中低音の声質。

この本は「歌謡曲黄金期のラブソングと日本人」をサブテーマとしているのですが、裕次郎さんの歌はその点で昭和歌謡の裾野を広げ、かつ大衆に愛唱されたという点で、実に大きな役割を果たしているんですよね。

歌えるスターは映画全盛期と重なっていましたが、五木ひろしさんは著書『昭和歌謡黄金時代』で裕ちゃんや東宝映画の看板であった「若大将シリーズ」の加山雄三さんらに共通する魅力についてこうふれています。

> 歌の世界でも映画の世界でも、それまでは恵まれない境涯から苦労してスターになるというパターンが多くありましたが、この人たちの場合は生まれたときから恵まれていて、また、そういう育ちの良さを背景にして一層伸びていくという、影をあまり感じさせない新しいタイプのスターの典型でした。
> 私の人生はこんなに大変だったといって人々の共感を誘う必要がない。親が

CamScannerでスキャン

スターであったり、大企業の幹部社員だったり、小さいときから湘南の海で泳いで育って、慶應に行って、気がついたら「映画に来いよ」といわれて、やってみたら大当たり。趣味で楽器もやるし、歌も歌うんですけど、それでいいんですかね、という感じで主題歌を歌ったらそれも大ヒット。

確かに昭和歌謡史上、押さえておきたい重要ポイントですね。

「あいつと帰ろう　あの故郷へ」と健さん

さて僕の高校・大学時代、スクリーンで人気を上げていたのは東映の高倉健さんでした。健さんが学生運動家を魅了して深夜の映画館を満員にしていたのは『日本侠客伝』『昭和残侠伝』『網走番外地』といったシリーズものですが、中でも「唐獅子牡丹」（昭41）と「網走番外地」（昭40）の主題歌は映画の人気とともに大ヒットしました。

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

僕にとっては誰あろう健さんですので少しページを頂きますが、歌自体は上手とか下手とかいうより健さんならではの「語る」歌い方が特徴でして、裕ちゃんのようなムードや伸びやかさはありません。ドスがきいた歌声でした。健さんのことですから映画の役になりきって、心で歌っていたんじゃないでしょうか。やくざを演じていて歌が上手だというのも何か違和感があるし、渋さで聴かせたというところでしょう。

でも健さんもヤクザものから庶民を演じるようになって、歌声にドスをきかす必要もなくなりました。そして僕が心をつかまれたのがNHKのドラマ「刑事蛇に横切られる」の主題歌「約束」（詞曲・小林亜星）でした。このドラマは1995年、平成に入っていますがこんなフレーズがあります。

♪木槿の花が咲くころに　あいつと帰ろう　あの故郷へ…

その前の健さんの歌で、映画『居酒屋兆治』の主題歌「時代おくれの酒場」（昭58）がありますが、最初こうセリフが流れます。

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

「人が心に思うことは　誰も止めることができない…」

僕はこの2曲を合わせて聴きながら、健さんにはあの「故郷」へ一緒に帰る女性がいるのではないかとよく思ったものです。遺作となった『あなたへ』公開前の２０１２年7月に対談していますが、僕は健さんが主演した中国映画『単騎、千里を走る。』チャン・イーモウ監督の『ＨＥＲＯ』の主人公の台詞「いつか刺客という自分の使命を終えたら、故郷に帰ろう、剣を捨てて静かに生きよう、ただの男と女になって」を口にして、聞いてみました。

「いい台詞ですよねぇ」

すぐに一言、返ってきました。

「（胸に）来たですねぇ。あれは」

「やはり剣を置いて、っていう感じで余生を送りたいという気持ちはあるんですか」

また一言、返ってきました。

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

「ありますよねえ」

秘書だった若い女性と晩年を過ごしたイヴ・モンタンをうらやましがっていた健さん。そういう女性はいたとしても、胸に秘めていたでしょうね。

「俺はがんだぜ」と裕次郎

ところで本書に再三登場してもらっているなかにし礼さんは裕次郎さんとも浅からぬ縁があります。以下、秘話も織りまぜたエピソードを幾つか紹介しておきましょう。なかにしさんが作詞家になったのは裕次郎さんの一言がきっかけでした。それも伊豆のホテルでたまたま裕次郎さんに声を掛けられ言葉を交わしているうちでのことでした。

なかにしさんの自伝的小説『夜の歌』ではそのいきさつを詳述しています。登場人物は実名で、僕がなかにしさんから直接伺った話ともほとんど変わりません。ですからここでは『夜の歌』に即して二人のやり取りを引いておくことにします。

CamScannerでスキャン

CamScannerでスキャン

1963（昭和38）年の9月、なかにしさんは学生結婚して新婚旅行先の伊豆は下田の東急ホテルに滞在中、奥のカウンターバーにいた裕次郎さんから「おいでおいで」と手まねきされました。当時裕次郎さんは大スター。なかにしさんも大ファンだったそうですから、突然のことにびっくり仰天だったそうです。

以下は二人の主なやり取りです。

「こんばんは。何か用ですか？」

「いや、なにね。さっきからここに座って、ロビーにいる新婚さんたちの品評会を退屈まぎれにこの専務と一緒にやっていたんだよ。そこでよ、君たちがいちばんかっこいい新婚さんということに、俺たち二人の意見が一致したってことだよ、まあここに座れよ」

なかにしさん、言われるまま座ると、裕次郎さん、

「ところで君いくつ？」

CamScannerでスキャン
CamScannerでスキャン

「25になったところです」
「何やって食ってんだい？」
「シャンソンの訳詞をやっています」
「なに？　シャンソン？　あの枯れ葉よーってやつかい？」
新婚のなかにしさんが苦学生の学生結婚だと知ると、裕次郎さんはビールをあおり、
「やめとけ、訳詞なんざ。シャンソンを日本語にしたってつまんないよ。なんで日本語の歌を書かないのよ、流行歌をよ」
さらに、
「自信作ができたら持ってきなよ。俺がすぐに歌うってわけにはいかないだろうけど、レコード会社に売り込んでやるよ、なあ専務」
後日なかにしさんは自ら作詞作曲した作品（後の「涙と雨にぬれて」〈昭41〉）

CamScannerでスキャン

を持ち込みます。一方で菅原洋一さんの「知りたくないの」（昭40）が訳詞の一語「過去」の鮮烈さも手伝って大ヒット、一気に売れっ子作詞家になり、石原裕次郎さん自身の歌も次々手掛けるようになります。全34曲。裕次郎さんのために「サヨナラ横浜」（昭46）、「よこはま物語」（昭55）などおなじみの歌のほかドラマ「西部警察」の主題歌「みんな誰かを愛してる」（昭54）、「時間（とき）よお前は・・・」（昭57）、「勇者たち」（昭58）もなかにしさんの書き下ろしです。

そして裕次郎さんの最後の曲「わが人生に悔いなし」（昭62／曲・加藤登紀子）を提供するのですが、それにはこんな秘話があります。

以下は「サンデー毎日」になかにしさんが特別寄稿した「今だから明かす石原裕次郎の素顔」（2017年1月3日号）からの引用です。

できあがった『わが人生に悔いなし』（加藤登紀子作曲）を裕さんはことのほか気に入ってくれた。レコーディングはハワイでやることになっていた。

歌が少し難しいからと、レッスンをつけにハワイまで来てもらいたい、という裕さんからの伝言を聞いて、私はハワイへ飛んだ。

裕さんの別荘はホノルルの一等地であるカハラ地区にあり、プライベートビーチ付きの豪華なものだった。

お茶を飲み終わると、「ちょっと歩こうか」

二人で波打ち寄せるビーチをゆっくりと歩いた。そして、ぽつりぽつりと話をした。

「礼ちゃんよ、みんなが言わないから、俺も知らないふりをしているけど、俺はがんだぜ」

「ええっ？（本人には分かるのだろうか）」

「実はさ、俺には墓がないんだよな」

「墓なら確か逗子の海宝院に石原家の墓があるんではないですか？」

「あれはな先祖代々の墓ってやつでな、次男の俺は入れないんだよ」

「墓の話なんかやめましょうよ」

「そうだな。こんどの歌、えらく気に入っているよ。特に、桜の花云々のところがいいな。人生なんて夢みたいなもんだぜ。現実だと思うと悔いが少しは残るけど、夢だと思えば、楽しい夢を見たとしか言えないもんな」

裕さんははるかな夕空を見上げていた。

桜の花の　下で見る
夢にも似てる　人生さ
純で行こうぜ　愛で行こうぜ
生きてるかぎりは　青春だ
夢だろうと　現実だろうと

「わが人生に悔いなし」は生前にリリースされた最後のシングルでした。

裕次郎さんはなかにしさんに打ち明けたとおり肝細胞癌で１９８７（昭和62）

年7月17日金曜日午後4時26分、この世を去りました。享年52歳。大阪社会部の席で受けた死去の速報に僕は同僚にこうつぶやいていました。

「今夜の新地は通夜だねえ」

当時、大阪本社は大阪最大のネオン街・北新地に隣接していました。その夜は、光あふれる表通りからも奥に入り込んだ路地裏からも、聞こえてくるカラオケは裕次郎さんの歌ばかり。カウンターの話も１９８１（昭和56）年4月の緊急入院から始まった闘病生活の話や復帰しての映画、ドラマなど、裕次郎さんの話題はいつまでも尽きず、ネオン街あげての通夜でした。

刷り上がってきた朝刊には「忘れられぬこの作品あの歌」という大見出しで、出演した映画・連続ドラマ・主なレコードが紙面の半分近くを占め、歌う映画スターの足跡が一目瞭然でした。各界各紙の談話も合わせ載っていました。いま改めて読むと、作家阿刀田高さんのコメントがとりわけ胸に響きます。

「裕次郎さんと全く同じ世代なのでショックです。私たちの世代は、戦後の混沌

CamScannerでスキャン

の中から希望を持って立ち上がった。社会の拡大と並行して、自分たちの可能性を広げてきた。出発点は大変だったが、人生に対して展望を持って生きてこられた世代でもあった。裕次郎さんは映画という作られた世界でのシンボルだったが、そういう特徴をよく出して人々の心を引き付けた。反逆児のイメージも、従来の権威を壊して新しい価値を作ろうというものだ。裕次郎さんの死で、そういう時代、私たちの世代の限界が来たのだなあ、と思う」

ひばりが涙をこぼして歌った「さくらの唄」

これも秘話といえば秘話かもしれませんが、こんな話があります。実は作詞家なかにし礼さんには、兄の巨額の借金に追い立てられた煩悶の日々を書き留めた「さくらの唄」（昭51）という〝遺言歌〟のような歌があるのですが、世に知られないまま眠っていました。

その歌に自らも詞を書いた演出家でＴＢＳの敏腕プロデューサー久世光彦さん

が心をつかまれ、これは美空ひばりさんにしか歌えない歌だと思い立つや、曲をつけた三木たかしさんが歌うテープを持ってひばりさんが出演中の名古屋・御園座まで新幹線で向かいます。そして終演後、楽屋でひばりさんに聴いてもらうのですが、このあとの模様は久世さんの著『ベスト・オブ・マイ・ラスト・ソング』から引用しておきます。

「もう一度聴かせてください」。美空ひばりの声はすっかりつぶれていた。老婆のようにかすれた声だった。私はテープを頭に戻してボタンを押した。

何もかも僕は　なくしたの
生きてることが　つらくてならぬ

……………

美空ひばりが目をつむって歌っていた。だるそうに楽屋の柱に寄りかかり、疲れた笑いを浮かべて、歌っていた。

これで皆んないいんだ　悲しみも
君と見た夢も　おわったことさ

安っぽい人情噺と言われてもいい。私はこの夜のことを一生忘れないだろう。ひばりはポロポロ涙をこぼして歌っていたのである。そしてテープが終わると、私に向かって坐り直し、「歌わせていただきます」と嗄（しゃが）れた声で言って、それから天女のようにきれいに微笑（わら）った。

ひばりさんが歌うということの真意がそこはかと伝わってくる話です。この時、ひばりさんの流した涙、先述の心で歌うということともつながって感じられます。

CamScannerでスキャン

休止符

この人たちのカラオケ

たいていのことで人は「する」「しない」に分けられる。カラオケが登場してからは、カラオケを「歌う人」「歌わない人」に大別できるようになりました。

歌う、歌わないは人それぞれでいいのですが、ただ何ですね、歌いそうにない人がマイクを持って歌い出すと、その人に対してにわかに興味がわきますね。その点で、カラオケというのは人間の意外な一面を見せてくれる装置だと認識するようになりました。

作家城山三郎さんとタモリさんが「週刊現代」（1983年10月12日号）で対談しています。話がカラオケに及んだ箇所を以下引用します。

タモリ　飲みに行っても、クラブなんかダメですよ。何か女の子がそばにきたりすると気をつかって、何しゃべっていいかわかんなくなって、それで「おとなしいのねえ」とかなんとかいわれて……。

城山　アハハハ……そうすると、飲みに行くのはバーやスナック？　カラオケなんかもやるんですか。

タモリ　ぼくはカラオケ撲滅本部長なんです。

城山　あれはねえ……ファシズム。ファシズムですよね。

タモリ　そう、ファシズム。あれをなんとか撲滅せんと、バーの未来は暗いですよ。あれほどバーをつまらなくしたものはないんじゃないですか(ため息をつきながら)。家でもうたってるヤツがいるってんですから、銃殺ですよ（笑）。その親の歌をきいて育った子供は、どんなにゆがんだ性格になるのか、考えてみたことがあるのかって（笑）。

ところがその城山さん、カラオケを「歌う人」だった、というより、歌

うことがあったんです。娘さんの井上紀子さんが、亡くなった父を偲んで書き下ろした『父でもなく、城山三郎でもなく』でこんな場面を書いています。

愛妻を亡くし落胆の激しい父を励まそうと、井上さん達が城山さんを伴い、箱根のホテルへ行くのですが、夕食後「さてこの後どうする？ あそこにカラオケがあるみたいだけどみんな行く？」と。みんなびっくりです。孫の歌に聴き入っていた城山さん、おもむろに「ねぇ、軍歌はある？」と聞いて、「海ゆかば」「月月火水木金金」「同期の桜」を消えいりそうな声で歌いきったのです。

断っておきますが、城山さんは「日本が戦争で唯一手に入れたのは憲法だ」と、戦後一貫して平和を訴えてきた作家です。それがなぜカラオケで軍歌を、なんですが、城山さんは昭和20年3月に海軍特別幹部練習生として、その年の5月から8月まで在籍しています。その間、戦闘は熾烈を極め日本軍の戦死者は激増します。ですから城山さんが歌った軍歌は戦場で

CamScannerでスキャン

散った戦友たちを弔う鎮魂の歌だったのです。

さて、もう一人、このコラムで取り上げたい人がいます。２０１８年１月初めに70歳で亡くなった星野仙一監督です。僕は阪神タイガースのファンですから、２００２年のセ・リーグ4位から翌２００３年のリーグ優勝に導いてくれた1年は、「今年ほど星に祈った年はなし」と川柳に詠まれたとおりの日々でした。

星野監督の足跡は割愛しますが、訃報を報じた新聞各紙に目を通していて、心に残る記事に出会いました。２０１８年1月17日付東京新聞スポーツ面の小さな囲み記事で、筆者は「１９８８年優勝時担当・内田優（現・東海テレビ放送社長）」とあります。

１９８８年は中日ドラゴンズの監督としてリーグ優勝したのですが、記事は、「ペナントレースは決して楽な展開ではなかった。特に7月の巨人との北海道シリーズでは、手痛い連敗を喫し先行きに暗雲が垂れ込める。その夜北の大地で飲まないお酒を口にしマイクを握った」とあって、さら

にこう記しています。
「誰に聞かせるのでもなく歌い始めたのは『無縁坂』。女手ひとつで育ててくれた母への想い。その目にはうっすら光るものがあった。非情な勝負の世界に生きる男が、ほんの束の間見せた素顔が今も忘れられない」
「闘将」「燃える男」「鉄拳制裁」など星野監督の形容は熱く勇ましいものですが、時にはマイクを握っていたようですね。
星野さんのお父さんは星野さんが誕生する3か月前に亡くなっています。内田さんの話のとおり、女手ひとつで育てられたのですが、その母も阪神が星野監督のもとでリーグ優勝する2日前に亡くなっています。91歳でした。
「無縁坂」(昭50)は、さだまさしさんの作詞作曲です。東京都台東区池之端1丁目から文京区湯島4丁目への坂道が無縁坂です。その先に上野の山、坂を下りると不忍池、野鳥も飛んでいる都会のオアシスです。
さだまさしさんが生まれた長崎市は道の多くが坂道で、東京で生活する

ようになってからも無縁坂をよく歩いたそうです。
♪忍ぶ　不忍　無縁坂　かみしめる様な　ささやかな　僕の母の人生…歌いつつ星野監督は母と一緒に歩いた人生の坂道を思い起こしていたのでしょうか。

内田さんによると、星野監督はもう一曲、「秋止符」（昭54）をよく歌っていたといいます。谷村新司作詞、堀内孝雄作曲のアリスの楽曲です。「『秋止符』はよく口ずさんだ歌だった。『今年の秋はいつもの秋より長くなりそうなそんな気がして』。リーグ優勝の先にある日本シリーズを意識してのことだ」

内田さんの書くとおり、星野監督はジョークになりそうなこの歌を「無縁坂」のしんみりした後の一曲に選んでいたのではないでしょうか。

10 逢いたいなぁ　ちあきなおみ
サブちゃん　いつまでも

前章で歌の上手なのは美空ひばりさんだと書きました。石原裕次郎さんは上手なのかどうか、そんなことも併せて書きました。

「あの娘は上手い！」

でも、歌の上手な歌手をひばりさん一人に限定してしまうのには、いろいろ不満を持たれる方もいるでしょう。また、裕次郎さん以外の男性陣はどうなのか。皆さんはそんなことも思われていたのではありませんか。

ひばりさんのことを書きつつ、ふと僕の頭をかすめたのは、作詞家、山口洋子

さんの一言です。
「あの娘は上手い！」
あの娘とは、僕がちあきなおみさんの名前を口にしたからです。何かの折、お会いして雑談していたときのやりとりでした。
船村徹さんは「おたまじゃくしの裏側が読める娘だったよね」とおっしゃっていましたが、なるほどと。

歌という物語の主人公

ひと頃、僕はちあきなおみさんのカバー曲のCDを毎夜のように聴いていました。デビュー時の「喝采」とか「劇場」「夜間飛行」といったドラマティック歌謡もいいのですが、カバー曲にはより聴き入ってしまうのです。
歌っている「ちあきなおみ」を忘れさせてくれるのは、物語の主人公を自分そのものにできているからでしょうか。「カスバの女」（昭30）なら、もう最初から

ぶっきらぼうで投げやりな酒場女の歌い方で入りますから、こちらもその酒場に流れついた女の薄情けを感じながら、さすらいの男の気分ぐらいになって聴いています。

涙じゃないのよ　浮気な雨に
ちょっぴりこの頬　濡らしただけさ
ここは地の果て　アルジェリヤ
どうせカスバの　夜に咲く
酒場の女の　うす情け

ちあきなおみを探して

それにしてもちあきなおみさんはもうステージには現れないのでしょうか。郷鍈治さんと1992年9月に死別して以降、公の場に姿を見せていません。

夕刊の編集長をやっていた頃、ちあきブームが編集部内で話題になり、追跡チームをつくりました。取材記者によると、彼女の持ち歌の「夜間飛行」という名の店が東京・新宿のゴールデン街にある。小さなブラウン管のテレビから「喝采」のビデオが流れていた……そんな店も含め「ちあきさーん」と探し求めたのですが、駄目でした。

彼女の所在を知る人とも会えず、「ちあきなおみを探して」と特集記事にするほかなかったのですが、作詞家のAさん、ご存知なのでは、とこれは僕のカンですが、知っていても口にチャックでしょうね。

再び「紅とんぼ」を

その記事（2008年10月24日）で、昭和歌謡を名調子で盛り上げた司会者、玉置宏さんはちあきさんをこう評しています。

「群を抜いたテクニックを持っていた。そして、歌詞をつかむ深さが違いました。

紅とんぼ

空にしてって　酒も肴も
今日でおしまい　店仕舞
五年ありがとう　楽しかったわ
いろいろお世話になりました
しんみりしないでよ　ケンさん
新宿駅裏　紅とんぼ
想いだしてね　時々は

いいのいいから　ツケは帳消し
みつぐ相手も　いないもの
だけどみなさん　飽きもしないで
よくよく通ってくれました
唄ってよ騒いでよ　しんちゃん
新宿駅裏　紅とんぼ
想いだしてね　時々は

だからほんとよ　故里へ帰るの
誰も貰っちゃ　くれないし
みんなありがとう　うれしかったわ
あふれてきちゃった想い出が
笑ってよ涕かないで　チーちゃん
新宿駅裏　紅とんぼ
想いだしてね　時々は

吉田旺さんの詞です。この歌で11年ぶりにＮＨＫ紅白歌合戦の舞台に立ちましたが、これが最後の紅白出場でした。

ちあきさん、新宿駅裏でもどこでもうかがいますから、「紅とんぼ」再オープンしてください。逢いたいなあという思いは、こういう文章をつづっているとなおさらつのります。鼻の右側のほくろ、カールしたまつげ。歌うときの見開いたその目……。よみがえってきます。

スナックににごりのあるママの過去

小沢昭一さんの句ですが、この句の世界、「紅とんぼ」ですよね。

サブちゃんの貫禄

歌は心の訴えですが、スケール感豊かに日本の心を歌い上げる歌があります。

北島三郎さんの代表曲「まつり」（昭59）です。

なかにし礼さんの作詞で、作曲は原譲二さんです。豊年、大漁を祝う祭りが、

踊り手とともにステージいっぱいに力強く表現され豪快です。小柄な感じのサブちゃんが存分のオーラを放ち、でっかく見えます。関西ふうに少々柄悪く言わせてもらうと、兄さん、貫禄やなあーです。

とにかく今や歌謡界の大御所です。といって陰で大きな力を発揮するといった印象はなく、「サブちゃん」の愛称で呼ばれる親近感が本当の器量、大きさを思わせてくれます。

年とるごとに味わい

「まつり」はシングルとして発売された昭和59年以降、NHK紅白歌合戦で計6回も歌われ、大トリで歌った2013（平成25）年を最後に北島さんは紅白を勇退しました。

男は祭りを そうさ

かついで生きてきた
山の神 海の神
今年も本当に ありがとう
白い褌 ひきしめた
裸若衆に 雪が舞う
祭りだ 祭りだ 祭りだ 豊年祭り
土の匂いの しみこんだ
倅その手が 宝物

「まつり」の1番の歌詞ですが、提供したなかにしさんは「人間は大地において、自然と人間との交錯を経験する。生まれるも大地からだ。死ねばもとより大地に帰る。大地はどうしても、母である。愛の大地である」と『日本的霊性』の著者、鈴木大拙の言葉にふれ、国土全体をことほぐ資格はいまの北島さんには十分あると思って書いたのだそうです。

北島さんが歌う星野哲郎作詞、船村徹作曲の「風雪ながれ旅」（昭55）も北の地に響く哀愁の調べと相まって日本人の心をゆさぶる名曲です。盲目の津軽三味線奏者、高橋竹山は、家々の軒先で三味線を弾いて歩く門づけ芸人でしたが、その放浪人生を歌いあげた北島さんの歌声は、やがて津軽三味線ブームを呼ぶことになりました。

破れ単衣（ひとえ）に　三味線だけば
よされよされと　雪が降る
泣きの十六　短かい指に
息を吹きかけ　越えて来た
アイヤー　アイヤー
津軽　八戸（はちのへ）　大湊（おおみなと）

・これも1番の歌詞です。「アイヤー　アイヤー」とサビで取り入れた津軽民謡「津軽あいや節」が実に効いています。

紙吹雪舞うNHKの紅白のステージをはじめ、北島さんの「風雪ながれ旅」は何度も聴いていますが、年をとるごとに味わいをまし、北島さんご自身の風格も一層そなわってきた気がします。心を歌う人生歌は、歌い続ける歌手の歳月とは無関係ではないかもしれませんね。

一音でつかむ名人芸

加えて北島さんの歌唱法で特徴的なのは歌いだしのインパクトです。「函館の女」（昭40／詞・星野哲郎　曲・島津伸男）の♪はるばるきたぜ　函館へ…の「は〜」と長く引っ張る一声は一種の〝つかみ〟でした。長じて歌った「まつり」も出だしの♪男は祭りを　そうさ…の「男」の「お〜」一音のインパクトで聴衆を引きつけずにはおきません。

この一音効果は歌はもちろん、年輪を重ねた歌手その人をも大きく感じさせます。何しろ歌いだしからして、自信たっぷりの感がありますから。

さらにそれが歌全体の雰囲気をつくりだし貫禄につながるんですね。

節回しもよく、堂々とした歌いっぷり。日本の心はやはりこの人がいてのことでしょう。

ついでながら、僕は前川清さんの節回しも大好きです。内山田洋とクール・ファイブの「長崎は今日も雨だった」（昭44／詞・永田貴子　曲・彩木雅夫）は、低音から高音へと難なく伸び上がって、いや見事な歌唱力です。随所で小節（こぶし）もよく効いています。北島さんと前川さん。僕も少し習った小唄のお師匠さんが、「いいね、あの二人の節回しは。持ち味は違うけど、小節も効いているわよ」とよくおっしゃっていました。

歌い続けて半世紀以上

ところで、北島さんと言えば日本競馬界の最強馬と名高いキタサンブラックのオーナーとしても近年は有名でした。2017年の有馬記念で有終の美を飾り、ブラックは引退。種牡馬になりましたが、中山競馬場の10万人のファンとともに「まつり」の大合唱――。テレビで見ていて胸にきましたね。「自分の子どももみたいにかわいい。泣くまいと思ったのに」と北島さん。

1936（昭和11）年10月生まれですから、すでに半世紀以上の歌手生活です。さらにどんな歌声を届けていただけるか。年をとってもそれ相応の味を出せるのが歌手の強みです。人生が演歌のおたまじゃくしの裏側を読みとらせるからでしょう。

御大には日本の心をまだまだ歌い続けてほしいと心より願っています。

11 歌も「東京」一極

大阪城の落城、明治維新、そして今日の状況をとらえて、生前の司馬遼太郎さんが「大阪の三大没落ですな」とおっしゃって数十年たちます。要は東西のバランスが崩れすっかり東京の時代になったという認識です。そのとおりです。

「俺らの心の駅」

国破れても東京あり。政治も経済も文化も、さらにそれらに伴う情報も東京に集中しています。

1964（昭和39）年の東京オリンピック開催や東海道新幹線開通などが東京

CamScannerでスキャン

一極に拍車をかけました。経済ではそんなに負けていなかった大阪も、管理中枢部門を東京へ移す企業が相次ぎ、しだいにかげっていきました。

歌の世界も断然、東京でした。地方からの上京組が激増したその年、井沢八郎さんが歌った「あゝ上野駅」（詞・関口義明　曲・荒井英一）には集団就職で東京へやって来た少年、少女たちの思いが♪上野は俺らの　心の駅だ…に凝縮されています。

青森出身の井沢さんは、どうしても歌手になりたくて上京したそうです。

東京で「成り上がる」と永ちゃん

タイプこそ違いますが、ロックスターの矢沢永吉さんも必ずや東京で「成り上がる」と広島から夜汽車に乗ったんですよね。どう気持ちが動いたのか、横浜駅で降りたようですが、20代で長者番付に載るほどになりました。

東京での渇いた心や孤独はそれぞれの間にパワフルに、あるいはしみじみと表

れています。平成に入ってからの作品に「東京」(平5)があります。人生の哀歓をこめた矢沢さん本人作曲のいい歌です。東京で必死で生きてきた人には胸を打つ一曲になろうかと。おすすめです。

68歳の2018(平成30)年、矢沢さんは朝日新聞の元旦号に登場してこう一言。

「一瞬のハッピーがあれば、人はまた走れる」

前年末の武道館公演で観客に語りかけた言葉だそうです。戦後の日本はまさにそんな人の気概によって支えられてきたのでは、と思ってみたりします。

僕も東京五輪の年に都の西北の学生になりました。見るもの、聞くものすべてに興味津々でした。

電車に乗る制服姿の女子高校生二人が楽しそうにしゃべっていました。おっ、東京弁だ！　じかに聞くのは初めて。近寄って耳をすます。はきはきして歯切れがいい。「あかん」とは言わず「いけない」と言っている。「ええやろ」と言わず「いいでしょ」と言っている――。

僕が生まれ育った愛媛県新居浜市は関西文化圏です。大阪弁にはそれなりに馴染んでいましたが、東京弁は映画やテレビを通してしか耳にしていません。ですからその女子学生の会話には魅了されました。いや、魅了されたなんてきれいな言葉じゃその時の気持ちは表せない。イカす！ そう、イカすやん、と思いながら耳をそばだてていたのでした。

先述のとおり当時の東京はその年の10月のオリンピック開催を前に日に日に活況を呈していました。4年間、その東京で大学生活を送り、毎日新聞に入ってからは京都支局に4年、大阪社会部に17年在籍しました。「ちゃうのとちゃうやんか」なんて言う複雑微妙な京都弁も、「じゃかあっしい」という怖い大阪弁も、その時代に知って僕の語彙はふくらみを増しました。

その後東京に異動し、サンデー毎日編集長や夕刊編集長などを経て、専門編集委員となり、社内コラムニストとしてもっぱら「世相」と「時代」を書き続け、気がついたら関西以上に長居しているのが東京です。

そして改めてこの国の東京一極を実感するのですが、歌謡曲もやはり東京か、と思ったのは大学時代でした。

少し学生の頃のことを書き留めておきます。その日はデモにも集会にも顔を出さず、ガールフレンドと都内の公園にあるプールへ泳ぎに行ったんですね。そしてプールサイドに寝転んで空の雲を見ていたんですが、そのうち雲のように自由になりたいという思いがつのるばかり。学生運動をやめようと、関わっていた組織を離れ、下宿先も東京板橋区某町の路地裏のアパートに移り住みました。大学3年の時です。

歩いてすぐの表通りの商店街は、映画館やパチンコ店もあれば魚や野菜を並べたマーケットもあって終日人波が絶えず、店主と客との遠慮ないやり取りも聞こえました。僕はその一角の洋品店で、月賦の代金を払ってもらう集金のアルバイトを始めました。

客はほとんど夜の池袋で働くお姉さんたちです。自転車で訪ねモルタルアパートの鉄の階段を上がり部屋の前で店名を名乗ると、とりあえず部屋着をまとったという怠惰な感じの女性が「だれ?」とか、「何よー」と言いながらドアを開け、こちらが用向きを告げた途端、「今度にして」とドアを閉められるのがほとんどでした。なかには折からヒット中の「恍惚のブルース」(昭41)の青江三奈さんふうの女性も顔をのぞかせ、気がまぎれることもありましたが、極暑、極寒の日も休めないアルバイト、昼に歌なくしては心が持ちません。

幸い商店街にはいつも流行歌が流れていました。その頃は映画館やパチンコ店はもちろん多くの店先からもラジオの歌声が通りに響き渡っていたんですね。

種々雑多な歌が自転車にまたがる僕の伴奏曲となり、自然に覚えた歌を口ずさみながら、路地から路地へとペダルを踏んだものです。

アダルトの都会派歌謡

その頃の歌をアトランダムに挙げていくと、黒沢明とロス・プリモスの「ラブユー東京」（昭41／詞・上原尚　曲・中川博之）は四六時中耳にしていた気がします。昼間は表通りの八百屋・魚屋の店先のラジオから、夕方になると路地裏のニッカバーとかサントリーバーの半開きのドアの奥から、早出の女の子が店のレコード・プレーヤーでかけていたのでしょう、♪七色の虹が　消えてしまったのシャボン玉のような　あたしの涙…を耳にしない通りはないほどでした。

今思えば、歌詞がウブですよね。爽やかな感じさえします。作曲の中川さん、二階の出窓でギターを爪弾いていたら、近所の子が遊んでたシャボン玉がはじけ、それで曲想ができたそうですから、清らかに生まれた曲なんです。リードボーカ

ルの森聖二さんのサビの部分の甘い、やわらかい高音は、都会派のムードを醸し出していました。
ですが彼ら以上に東京イコール都会派ムード歌謡を印象づけたのは、和田弘とマヒナスターズの面々でしょう。「ワン・レイニー・ナイト・イン・トーキョー」（昭40）を歌う松平直樹さんのボーカルは少々にやけた感じながら、それがまた都会っぽい。ウクレレを持った佐々木敢一さんのファルセットがこれまた聴かせる。和田弘さんのスチールギターが入ったハワイアンバンドながら、当時まだ憧れだったハワイにはさしてこだわりなく、幅広いレパートリーで売り出していました。松尾和子さんとのコラボ「お座敷小唄」（昭39）などは手拍子の宴会場向きながらバンドはすこぶる洋風のドドンパでした。
あとマヒナでは「愛して愛して愛しちゃったのよ」（昭40）もよく聴きました。あの時代、マヒナの天下だったのでしょうね。そうそう、松尾和子さんとマヒナスターズの「誰よりも君を愛す」（昭34／詞・川内康範　曲・吉田正）は、私は

CamScannerでスキャン

まだ14歳の少年でしたが、松尾さんのため息のような声で♪あなたがいなければ生きてはゆけない　あなたがあるから　明日も生きられる…なんて、そこまで歌うか、と大人びた感想を持ったものです。

思えばアダルトの夜を歌い上げる都会派歌謡は、この曲の前後からトレンドになっていたのですね。フランク永井さんが歌った「有楽町で逢いましょう」（昭32／詞・佐伯孝夫　曲・吉田正）は「誰よりも君を愛す」の2年前でしたし、夜の都会のムード歌謡を代表する松尾・フランクご両人のゴールデンコンビがしっとり歌った「東京ナイト・クラブ」はその間の昭和34年の曲です。

「有楽町で逢いましょう」も「東京ナイト・クラブ」も、ともに名コンビの佐伯孝夫作詞、吉田正作曲の作品です。戦後大量に流れ込んできた「アメリカ」は日本をアメリカナイズさせずにはおかず、大衆の心をつかむ流行歌もまたしかりでした。笠置シヅ子という歌い手を得てブギを売りにした服部良一さんに続いて、吉田さんはフランク永井、松尾和子という歌い手を得て戦後の歌謡曲にモダンで

アーバンなテイストを根づかせたのです。

話を板橋区某町の時代に戻しますが、ムード歌謡では、ラテンバンド系のロス・インディオスの「コモエスタ赤坂」（昭43／詞・西山隆史　曲・浅野和典）や、「知りすぎたのね」（昭43／詞曲・なかにし礼）も街によく流れていました。後年ロス・インディオスはシルヴィアとのデュエットソング「別れても好きな人」（昭54／詞曲・佐々木勉）を大ヒットさせています。

などと書いていけば切りがないのがムード歌謡ですけど、もう一曲ふれたいのが鶴岡雅義と東京ロマンチカの「小樽のひとよ」（昭42／詞・池田充男　曲・鶴岡雅義）です。小樽のご当地ソングとして扱われているようですが♪ああ　ひとり残して　来たけれど…とありますから、東京の地で「小樽のひと」を思い浮かべているんです。ですから、なんて言いますか、望郷の思いと重なる感ありの東京発の歌なんですね。

いや、この時代、歌も東京は絶対だったのです。
またまた話を板橋区某町商店街に戻しますが、自転車で商店街を走っているときよく耳にして口ずさみもしたのが伊東ゆかりさんの「小指の想い出」(昭42／詞・有馬三恵子　曲・鈴木淳)です。川端康成の小説『雪国』に、東京の島村が雪国の芸者駒子に再会したとき「こいつが一番よく君を覚えていたよ」と人差し指を突きつける場面がありますが「あなたが噛んだ小指が痛い」って、そうか、小指のほうがエロティックだなあ、と感じ入ったものです。伊東ゆかりさんそのものは従妹にでもいそうな顔立ちの女性にしか見えないのですが、そんな思いとも絡んで、なおさら感じるものがあったのでしょうか。
そうそう、ザ・ピーナッツの「ウナ・セラ・ディ東京」(昭39／詞・岩谷時子　曲・宮川泰)を耳にして、その歌詞のとおり♪街はいつでも 後姿の 幸せばかり…を目にすると、さすがは汗だくでペダルを踏む身にはうらやましく映りました。〝ウナ・セラ・ディ〟とはイタリア語で「たそがれ時」という意味だそうですが、夕

暮れの街の恋人同士というのは、独り寝だけが待っている身には少々ヤケましたね。

ほかGS（グループサウンズ）ブームの先頭を切ったブルー・コメッツやザ・タイガース、さらには山高帽に黒のパンタロンがトレードマークのピンキーとキラーズの「恋の季節」（昭43／詞・岩谷時子　曲・いずみたく）もパチンコ店の店先などからいつも流れていました。森進一さんの「女のためいき」（昭41／詞・吉川静夫　曲・猪俣公章）、小川知子さんの「ゆうべの秘密」（昭43／詞・タマイチコ　曲・中洲朗）もなつかしいなあ。

さらにさらに印象深かったのは裏通りの飲食店街で毎夜耳にした、ザ・フォーク・クルセダーズの「帰って来たヨッパライ」（昭42）、などと書いていけば本当に際限がありません。で、ガラリと話を変えて以下、大阪の歌を少々。

大阪ソウル

正直言って僕は、大阪の歌の中にある反東京というか、東京への対抗意識むき出しの歌はどうも苦手です。反東京より非東京。大阪ならではの混沌のエネルギーも大切にして、非東京の大阪色をさらにと思うからです。

♪明日は東京に出て行くからは…と村田英雄さんが歌った「王将」（昭36／詞・西條八十　曲・船村徹）は将棋の世界ですが、その心意気に何ら異論はないものの、それがそのまま東京には負けへんで、と一般化されることにはウーンです。

大阪は大阪ソウルともいうべきジャンルを持っています。上田正樹さんの「悲しい色やね」（昭57／詞・康珍化　曲・林哲司）、BOROさんの「大阪で生まれた女」（昭54／詞曲・BORO）の2曲は2003年3月に大阪の「スポーツニッポン」に掲載された「大阪魂歌（Soul）場所番付」では東西の横綱でした。ともに大阪ソウルです。ちなみにやしきたかじんさんの「やっぱ好きやねん」（昭

61／詞曲・鹿紋太郎）は東の大関でした。
♪おれのこと好きか　あんた聞くけど　そんなことさえ…
大阪弁のセリフならではの情感が胸に響いてきます。大阪はこういうソウルバラードで非東京性を歌ってほしいと思います。
「大阪で生まれた女」はショーケン（萩原健一さん）も歌っています。彼が歌いたがったわけは、ライブにマッチしそうなハートが歌に感じられたからでしょう。「大阪で生まれた女」と「悲しい色やね」のソウルフルな1番を紹介しておきましょう。

大阪で生まれた女

踊り疲れたディスコの帰り
これで青春も終わりかなとつぶやいて

あなたの肩を　ながめながら
やせたなと思ったら　泣けてきた
大阪で生まれた女やさかい
東京へは　ようついていかん
踊り疲れたディスコの帰り
電信柱にしみついた夜

悲しい色やね

にじむ街の灯を　ふたり見ていた
桟橋に止めた　車にもたれて
泣いたらあかん　泣いたら
せつなくなるだけ

Hold me tight　大阪ベイブルース
おれのこと好きか　あんた聞くけど
Hold me tight　そんなことさえ
わからんようになったんか

大阪の海は　悲しい色やね
さよならをみんな　ここに捨てに来るから

ついでながら「悲しい色やね」は大阪の海にしかあわない色です。かすれた感じの上田正樹さんの声のよどみが大阪の海の色をも思い浮かべさせます。これ、江の島の海じゃあわないんです。横浜も神戸もだめですね。ただ近年、アレンジがすぎるように思えるのか、あんた、歌い方、わからんようになったんか、の声もあるようで、そのツッコミもまた大阪っぽいですね。

「大阪で生まれた女」の歌詞♪踊り疲れたディスコの帰り、電信柱にしみついた

夜…のフレーズ、電柱じゃない電信柱。大阪です。ディスコは1980年代のバブル期を代表する文化ですが、各地に展開されたマハラジャ1号店は大阪ミナミだったんですね。

さて、この章でどうしても書いておきたかった歌がもう一曲あります。

第2校歌「高校三年生」

舟木一夫さんの「高校三年生」（昭38／詞・丘灯至夫　曲・遠藤実）です。僕の高校では第2校歌と言われていました。ですから田舎で同窓会があると必ずみんなで合唱する。

作詞した丘灯至夫さんは毎日新聞の先輩です。高校の体育祭の取材でフォークダンスを見て触発されて書いた詞だそうです。僕らには舟木さんの詰襟姿など、歌詞ともども身近でリアリティがある歌なんですが、今の子にはこの歌、聴いたことはあるにしても学生服姿で歌うなんて考えられないでしょう。歌詞そのもの

もピンとこないでしょうからまず歌わない、いや絶対歌わないでしょうね。

抒情性はあってもポップスのかけらもない青春ソング。でも僕は田舎の同窓会のたびに歌う、いや歌わされています。そのとき思うんです。この歌の強みは土着感に加えてその時代、高校生だった世代を丸ごと抱え込んでいることだ、と。そしてこうも思うんです。同窓会では歌っても、自らカラオケで歌うことはないだろうな、と。でも舟木さんが歌っていたらきっと聴くだろうな、と。

歌は2番です

ところでテレビの歌番組に一言。歌は1番でどんな歌かを言っておかなければなりません。はっきり言うのが嫌なら少なくとも察しがつくぐらいのサービス精神が必要です。続く2番は1番の全体的な印象を具象化させるべき部分、細部へのこだわり、つまり描写性が問われます。そして3番は、この先どうなるのか、そこを思わせぶりに描くという、そんな流れが一般的かと思われます。

論より歌です。「高校三年生」の歌詞はこうです。

赤い夕陽が
校舎をそめて
ニレの木陰に
弾む声
ああ　高校三年生
ぼくら
離れ離れに
なろうとも
クラス仲間は
いつまでも

泣いた日もある
怨んだことも
思いだすだろ
なつかしく
ああ　高校三年生
ぼくら
フォーク・ダンスの
手をとれば
甘く匂うよ
黒髪が

残り少ない
日数(ひかず)を胸に
夢がはばたく
遠い空
ああ　高校三年生
ぼくら
道はそれぞれ
別れても
越えて歌おう
この歌を

要は2番のフォークダンスなんですよね、この歌の肝は。ところがテレビはおかまいなしにカットする。放送時間を計算してのことでしょうが、それじゃ歌が

泣きます。

テレビサイズでカットの必要があるのなら3番を落とせばいいんじゃないですか。もちろん歌によるでしょうが、少なくとも「高校三年生」はそうあるべきです。なのに1番だけで終わったりして、フォークダンスも黒髪の匂いも歌われない。歌番組の現場の皆さん、一考のほど、よろしくお願いします。

〝歌も「東京」一極〟というこの章、結びが横道に少々それました。先にも少しふれましたが、歌番組で舟木さんが「高校三年生」を歌っていたらその世代はまず見るでしょう。そしてガッカリの2番カット。いつか書かなくちゃと思っていたことなので、この章でふれさせてもらいました。

本編を執筆中、西城秀樹さんの訃報に接しました。享年63。まだまだ歌ってほしかったですね。「傷だらけのローラ」(昭49／詞・さいとう大三　曲・馬飼野康二)など、絶唱のステージがよみがえってきます。元気だった頃、MBSのスタ

ジオでお会いしたことがありますが、背が高く細い体つきを間近にしたその時の印象のせいか、彼の魅力はメロディーラインをなぞるように緩急自在に動く、ステージ上の伸びやかな肢体の美だと思ってステージを見てきました。

僕は橋幸夫さん、舟木一夫さん、西郷輝彦さんの「御三家」の歌声に中、高、大となじんできた世代ですが、「新御三家」にロック系ポピュラーの西城さん、ソフトで優しそうな野口五郎さん、アイドル系の郷ひろみさんと三者三様の持ち味で、彼らの歌声は東京を離れた記者時代によく耳にしました。とくに郷さんの「哀愁のカサブランカ」（昭57／詞曲・バーティ・ヒギンズ　日本語詞・山川啓介）が好きで、何かの折、大阪FMの音楽番組に週間ゲストで出演した際、キャスターの女性に「哀愁のカサブランカ」の元歌であるバーティ・ヒギンズの「カサブランカ」をかけてもらったことを覚えています。

ついでながら、郷さんは大阪社会部時代に知り合いの店のマスターが郷さんを連れ歩いているのを見かけたことがあります。マスターが郷さんの大ファンでし

たので、来阪の折、招待していたのでしょう。当時の郷さん、まさにアイドル。人目を引かずにはおかない容姿に見惚れるほどでしたよ。

いや、話が少しテーマから脱線気味なので、この章、このあたりで。

12　百恵―聖子―明菜

若い子に人気「少女A」

昭和歌謡ブームは中高年世代が中心です。でも、これだけテレビで当時のヒット曲が流れていると、若い世代だってそれなりに関心を呼ぶのでは。そう思っていたところ、NHKが夕方の番組で中森明菜さんの「少女A」（昭57／詞・売野雅勇（まさお）　曲・芹澤廣明）と、毎日新聞夕刊が特集ワイドでキャンディーズの「春一番」（昭51／詞曲・穂口雄右）をそれぞれ【若い子に人気】と紹介していました。

キャンディーズは「春一番」の大ヒットをみた人気絶頂期の翌年の夏、日比谷

野外音楽堂のコンサートで突然解散を表明して、そのときリーダー格の伊藤蘭さん（ランちゃん）が「ふつうの女の子に戻りたい」と言って、それが流行語になったのもみなさんご存知のことと思います。

そこでここでは中森さんのヒット曲「少女A」に少しこだわってみます。というのもこの曲には、日本の歌謡曲やJポップなどが最高潮にあった70～80年代の音楽シーンを彩る女性アイドル全体を俯瞰できる手がかりが秘められていそうな気がするからです。

"変身"前後

何しろ黄金期です。女性アイドル歌手もまさに百花繚乱。昭和歌謡のスーパースター山口百恵さんと、アイドルからいつしか「ママドル」と呼ばれるようになった松田聖子さん、そして80年代の歌姫にして現役歌手の中森さん……。

ちなみに三人のデビュー曲は次のとおりです。

CamScannerでスキャン

百恵さん「としごろ」（昭48／詞・千家和也　曲・都倉俊一）
聖子さん「裸足の季節」（昭55／詞・三浦徳子　曲・小田裕一郎）
明菜さん「スローモーション」（昭57／詞・来生えつこ　曲・来生たかお）

百恵さんと明菜さんは日本テレビ系のオーディション番組「スター誕生！」の合格組で、百恵さんは憧れの百恵さんの「夢先案内人」（昭52）を歌って高得点をあげています。一方、聖子さんは歌手志望で九州は久留米信愛女学院在学中、地元での各種コンテストに出てレコード会社のスカウトの目にとまり上京、サンミュージックに入って才能を開花させます。

歌手としての幅

三人ともデビュー曲はその後の歌に比して無難というか、おとなしい印象ですが、青春まっただ中です。「売らんかな」の業界です。その〝青〟さを見逃さなかったのでしょう。百恵さんは〝青い性路線〟できわどい歌詞にも挑んでみせま

すが、人気と力をつけてからは自ら希望の宇崎竜童、阿木燿子夫妻の「横須賀ストーリー」（昭51）、「プレイバックＰａｒｔ２」（昭53）を提供され、さだまさしさんに「秋桜（コスモス）」（昭52）、谷村新司さんに「いい日旅立ち」（昭53）の楽曲を頂いて日本人女性ならではの情緒の色合いを深めたトップアイドルに登りつめます。

明菜さんの「北ウイング」（昭59／詞・康珍化　曲・林哲司）などは〝第２の百恵〟になれる逸材とまで評される抜群の歌唱力で、その年、井上陽水さんの曲「飾りじゃないのよ涙は」を、さらに2年後「ＤＥＳＩＲＥ―情熱―」（昭61／詞・阿木燿子　曲・鈴木キサブロー）を歌い、歌手としての幅を広げていきました。

「少女Ａ」とは

でも僕はそれもこれも「少女Ａ」のストーリーとみています。といって「少女Ａ」を仮名の問題児とみて言っているわけではありません。以下、歌詞を手元に作詞家の売野さんに、話をうかがいました。

上目使いに　盗んで見ている
蒼いあなたの　視線がまぶしいわ
思わせぶりに　口びるぬらし
きっかけぐらいは　こっちでつくってあげる
いわゆる普通の　17歳だわ
女の子のこと　知らなすぎるのあなた…
早熟なのは　しかたないけど
似たようなこと　誰でもしているのよ
じれったい　じれったい
何歳（いくつ）に見えても　私誰でも
じれったい　じれったい
私は私よ　関係ないわ
特別じゃない　どこにもいるわ
ワ・タ・シ　少女A

CamScannerでスキャン

最初にマネージャーから渡された宣伝チラシに「ちょっとHな美新人っ娘(ミルキーっこ)」とあって、そのHからセクシャルな雰囲気があってもいいかと「少女A」を思いついたそうです。

歌詞は歌いだしの一行とサビが勝負とはよく言われることですが、サビの部分もいろいろあって、「ねえ、あなた」から「じれったい じれったい」に替わったというエピソードも披露してこう話してくれました。

実は、アイドルの歌詞を書いたのは「少女A」が初めてだったんです。特にサビの作り方がわからなかったので歌の本で百恵ちゃんとかを読んで、なるほどアイドルっていうのはこういうことか、っていうのを掴み、サビはこうで、構成はこう持っていこう。そこに力とベクトルを持った言葉をはめればいい、と分析しました。

百恵さんの突っ張り歌が「少女A」を後押ししてますね。

三者三様の生き方

タイトルでは、売野さん、実に印象に残る話をしています。

当時新宿歌舞伎町かどこかで、少年や少女の事件がいろいろありました。けれど別に特別な少女じゃない、どこにでもいる女の子だ。あなたも私も少女A。そうしたある種のアンチテーゼのボールを投げてみたかったんですね。

「少女A」はブレイクします。この後も売野さんは共にオリコン1位獲得となる「1／2の神話」（昭58）、「禁区」（昭58）などを中森さんに提供していますが、それらに込められているのは、半分は大人の真似、半分は純粋な女の子だ、という売野さんのメッセージです。ちなみに売野さんはその後、芹澤さんとのコンビ

でチェッカーズの「星屑のステージ」（昭59）などを手がけ、売れっ子作詞家への道を歩んでいます。

ところで70年代後半以降、山口百恵さんは自らの希望で楽曲を宇崎竜童＆阿木燿子夫妻に託します。阿木さんは、百恵さんを評して先日テレビで「歌詞に私とあっても『アタシ』と『わたし』をちゃんと使い分けられる人でした」と話していました。

百恵評の中では何度か目にしたことがありますが、これって重要なポイントです。百恵さんの歌声にビブラートはそれほどありません。そのぶん歌に込めたメッセージがストレートに響いてくるのですが、阿木さんは「覚悟を決めた女性」の決意を表わす歌い方とも話しています。今改めて「プレイバックPart2」を聴いていると、♪馬鹿にしないでよ　そっちのせいよと声を上げる私は自分を飾っている「アタシ」、純粋な女性としての自分は「わたし」と歌い分けている感じなど、恵まれていたとはいえない生い立ちなども、どう身を処していく

か、17歳にして早々と自意識を植え付け、歌詞に込められたドラマを表現する歌唱力にもつながっていったのでしょうか。

制服姿でかばんを持った女の子が、ひとたびレコーディングになるとむしろ大人びた感じさえ漂わせ歌う。阿木さんはこの差に百恵さんならではの歌の広がりを感じたともテレビで話していました。

「少女A」も「A」という匿名の「アタシ」と、特別な女の子じゃない「わたし」と受け止めた場合、そうか、あの70年、80年代のアイドルは清濁の純度とか、制服を私服に着替えたときの変化とか、比較対照可能な自分を同時に持ち合わせ、そんな彼女たちに歌を提供する作詞家、作曲家はその両義性に詩的な真実を込めていたのかも……とこれは僕の感想です。

そしてそこに松田聖子さんの存在を加味すると、昭和歌謡黄金期の歌うアイドルたちは性典や短編の恋愛小説、さらには生き方本にもとってかわる歌声をテレビからお茶の間に届けていたのかもしれません。

CamScannerでスキャン

「ブリっ子」のイメージが拭い去れず、「大人になり切れないアイドル」などと言われた松田聖子さんは、その後結婚、出産、離婚。二度目の離婚……とそれなりにスキャンダラスな大人でもあったのですが、「松田聖子的生き方」で話題を振りまくというアイロニーも昭和歌謡の豊かさを物語るものでしょう。

僕は聖子さんがプラトニックな世界の松本隆さんの詩を得て、曲は呉田軽穂さん、すなわちユーミンの手になるポップな曲調の「赤いスイートピー」をヒットさせていた頃、吉本興業の制作課長がカラオケで、♪春色の汽車に乗って　海に連れて行ってよ…と歌って「これからはうちの会社も歌手育てなあかんなあ」と冗談とも本気ともつかない顔で言っていたのをよく覚えています。

すでに百恵さんは2年前の11月に三浦友和さんと結婚し引退していましたから、聴き心地のいい聖子さんには「第2の百恵」の呼び声も高まっていました。

百恵―聖子―明菜と、一つの流れはあっても三者三様です。ですがその黄金期の担い手となった女性アイドルは、それぞれに「A or B」の選択肢を持ってい

ました。ですから恋愛においてもイニシアティブを握っても何らおかしくないし、今や始めるのも終わらせるのも女の子だという風潮も、70〜80年代のアイドル歌謡を土壌としたものだろうと、僕なんかはうなずけるのです。

もちろん百恵さんのように「アタシ」ではなく「わたし」の思いを私生活の上でちゃんと実現すべく、早々と引退し結婚を選択するという生き方、また逆に聖子さんのように「バツ2、子持ち、現役」という言い方はともかく全てを手に入れる本音の正直な生き方もあるでしょう。そして明菜ちゃんのようにいろいろなラブ・アフェアで傷ついても、力強く乗り越えて再びステージに戻り、歌を必要とする自分がやはり歌を必要とする人のために歌い続ける生き方もあるんですね。

「少女A」は胸中にこうつぶやいてマイクを握ることでしょう。

「特別じゃない　どこにもいるあなたのために歌います」

13 ジュリーがいた！

全盛期のジュリー（沢田研二さん）をどう表現すればいいのだろう。

半端じゃない気障がサマになる

ふと思ったのは、吉田拓郎さんが以前テレビでジュリーと対談した際に言っていたことです。「スーパースター」とか「オーラのかたまり」などと人気絶頂のジュリーを評し、さらに「ずっと気にしていた一人」で「大好きな人ができると、バックバンドに入りたくなる。これまでそう思ったのは」とジュリーと中島みゆきさんの二人の名前を挙げていました。

CamScannerでスキャン

はてさて、拓郎さんがそこまで言う全盛期のジュリーをどう表現するか。浮かんできたのは「気障」という二文字です。気障は片仮名でキザと僕は書きますが、読んで字のごとく「気に障る」という意味があり、「服装や態度があまりに気どっていて、不愉快に感じられるようす」などの語釈をつけている辞書もあります。要はマイナス要素の強い言葉なんですね。

ですが、キザもキザで通して徹底すれば、マイナス×マイナスでプラスになるようにキザもそのうちサマになります。それがそのアーティストの魅力につながるということもあるでしょう。いや実際、ジュリーは半端じゃないキザさで、それまでなかったような変幻自在、ビジュアル重視のパフォーマンスぶりでイキでシャレたステージを演出していったのです。

1977（昭和52）年、10作目のオリジナルアルバムは全楽曲の作詞を阿久悠さん、作曲を大野克夫さんが手がけていますが、タイトルは『思いきり気障な人生』です。「思いきり」に思いを込めていますよね。

ビジュアル重視もここまで

とりあえず強烈な印象に残るビジュアルですが、「さよならをいう気もない」（昭52）の金色キャミソールの衣装、「勝手にしやがれ」（昭52）でのパナマ帽を客席に飛ばすパフォーマンス、「サムライ」（昭53）での腕章が施されたナチスを想像させる軍服、「LOVE（抱きしめたい）」（昭53）では血に染まった包帯を手に巻くなど、時に奇抜さもものかはの視覚重視です。

さらに「カサブランカ・ダンディ」（昭54）ではウイスキーを口にふくんで吹き、「TOKIO」（昭55）では電飾のスーツにパラシュートを背負って登場するまでになりました。

とにかく前を向いて走る

コスチュームの過激さに対しては、「ついていけない」と思ったのかどうか、

バックバンドとしてジュリーを支えてきた井上堯之バンドが解散するまでになりますが、そこまでやりますかの新企画がもたらした出来事だったのでしょうね。

ＴＢＳドラマ「寺内貫太郎一家」シリーズ（昭49〜50）で貫太郎の実母役の樹木希林さんが家の中のポスターに身もだえながら「ジュリー！」と絶叫するシーンは有名です。その後も高まるばかりの人気を思えば、目先を変える新趣向で何が何でも前を向いて走らなければという思いの千変万化だったのでは、と察せられます。

滅びの美

ところで「時の過ぎゆくままに」は昭和50年に久世光彦さんが演出したドラマ「悪魔のようなあいつ」の主題歌ですが、歌詞の♪堕ちてゆくのも しあわせだよと…の「堕ちて」に当時ジュリー所属の渡辺プロダクションが猛反発します。

CamScannerでスキャン

時の過ぎゆくままに

あなたはすっかり　つかれてしまい
生きてることさえ　いやだと泣いた
こわれたピアノで　想い出の歌
片手でひいては　ためいきついた
時の過ぎゆくままに　この身をまかせ
男と女が　ただよいながら
堕ちてゆくのも　しあわせだよと
二人つめたい　からだ合わせる

からだの傷なら　なおせるけれど
心のいたでは　いやせはしない
小指に食い込む　指輪を見つめ
あなたは昔を　思って泣いた

時の過ぎゆくままに　この身をまかせ
男と女が　ただよいながら
もしも二人が　愛せるならば
窓の景色も　かわってゆくだろう

時の過ぎゆくままに　この身をまかせ
男と女が　ただよいながら
もしも二人が　愛せるならば
窓の景色も　かわってゆくだろう

この歌は、久世さんが阿久悠さんに頼んで映画『カサブランカ』の挿入歌「As Time Goes By」から借りて出来上がった詞を荒木一郎、井上堯之、井上忠夫、加藤邦彦、都倉俊一、大野克夫の六氏に渡してそれぞれ曲をつけてもらっているんですね。

結果、大野さんの曲で、となったのですがそんないきさつもあって、いかにナベプロの要望であっても、受け入れ難かったのでしょうね。

それに僕は、「堕ちてゆく」という言葉に久世さんや阿久さんがこだわったのもわかる気がします。

久世光彦さんの著『ベスト・オブ・マイ・ラスト・ソング』は「あなたは人生の最後、つまり末期(まつご)の刻に一曲だけどんな歌を聴きたいか？」と問いかけた書ですが、そこにこんな一文があります。

――毎回ラスト・シーンで沢田が歌うこの歌はヒットした。日本では珍しく乾い

たデカダンスが漂う曲だったと思う。今でもあのうねるようなイントロを聴くと沢田の酷薄な美貌が薄闇の中から浮かび上がってくる。恐ろしく投げやりなくせに少女の肌みたいに傷つきやすく、女に何も期待していないのに、顔だけは花がほころぶように微笑っていて、だけど目だけは決して微笑っていない、そんな甘い毒薬のようになれるのは沢田だけだった。「時の過ぎゆくままに」はどこまでも堕ちていく人間の気が遠くなるような悦楽の歌なのである。

「酷薄な美貌」って、僕の語彙にはない言葉です。そこがいかにも久世さんなんですね。そう、これは快楽の美とともにある悦楽の歌なのでしょうが、歌詞の♪堕ちてゆくのも しあわせだよ…に僕は滅びの美の持つさだめに似た感を抱きます。無常迅速。ダンディーで鳴らしたこれほどの美男であっても、いや、これほどの美男だからこそ「堕ちていく」そこに美があるんですよね。

CamScannerでスキャン

「V2」と楽屋で気炎

ここで少しジュリーのデビュー前後のことにふれておきますが、当時のナベプロにとって関西でスカウトしてきたジュリーは最大の商品でした。1967(昭和42)年京都でザ・ファニーズと名乗っていたグループをザ・タイガースと改名して売り出すのですが、目玉はリードボーカルのジュリーでした。ヨーロッパの貴公子然としたルックスがいい。メディア戦略によっては大スターになれる。楽曲もヨーロピアンをコンセプトにして、デビュー曲の「僕のマリー」(昭42)ではストリングスを導入するなど、中世のヨーロッパを演出したのもジュリーの要望にこだわった試みだったそうです。

一方で、ショーケン(萩原健一)のザ・テンプターズが「エメラルドの伝説」(昭43)をヒットさせ、ザ・タイガースと人気面でも並んできますが、ジュリーのルックスの強みでしょう、あとはアイドル、ジュリーの人気が爆発的になり、「君だ

けに愛を」も大当たりします。

ですが、ボーカルの突出したアイドル化はGS解散へと向かわせるのも必然です。解散後の1971（昭和46）年、ジュリーもソロ活動に邁進します。そしてくだんの「時の過ぎゆくままに」は1975（昭和50）年の5週連続オリコン1位に。ソロとして19曲目の「勝手にしやがれ」では1977（昭和52）年の日本レコード大賞を受賞しました。

私事になりますが、大阪社会部で大阪府警の捜査二課をまる4年担当、その後編集局遊軍という新設のチームに入ったのですが、その時デスクが「警察で苦労したやろ、しばらく好きなことやっていいよ。会いたい人間に会いに行くとか」と言われ、それならジュリーだ、と丁度ジュリーのインタビューを予定していた先輩とコンサート中だった大阪のフェスティバルホールの楽屋を訪ねました。

長い間、事件また事件の闇に包まれていた反動で、まばゆいばかりのスターをすぐそばで見たくなったのでしょう。きっと。昭和53年のレコード大賞が音楽関

係者の口にのぼりはじめた頃で、出番前のジュリーは、こちらの質問に答えつつも、もっぱら「Ｖ２宣言」でした。前年のレコード大賞「勝手にしやがれ」の後は「ＬＯＶＥ（抱きしめたい）」でＶ２だ、と力を込めて言っていました。

僕はピンク・レディーの「ＵＦＯ」の売れ行きがすさまじく、オリコン１位をほぼ独走状態でしたし、話題性という点でもジュリーの「Ｖ２」は難しいとみていましたが、口にはできませんでした。狭い部屋で蒸気が立ち込め白くもやった中で衣装のスパンコールが鈍く光って、生のキラキラジュリーを見たという印象だけが今も強く残っています。

この後のジュリーはパルコのテレビＣＭで全裸で横たわるなど話題を振りまき、１９８０（昭和55）１月発売の「ＴＯＫＩＯ」（詞・糸井重里　曲・加瀬邦彦）となるのですが、いま思うにこの「ＴＯＫＩＯ」がジュリーの転機になったのではないでしょうか。

昭和55年は、ジュリーのみならず昭和歌謡界にとっても大きな転回点にさしか

かっていました。一つにはイエロー・マジック・オーケストラ（ＹＭＯ）の存在です。細野晴臣さん、高橋幸宏さん、坂本龍一さんの三人によって結成されたグループがシンセサイザーなどの電子音楽を利用したテクノポップなるジャンルを確立して、ポップスはＹＭＯによって以前・以後に区分けられた感さえあります。テクノ歌謡というジャンルも生まれ、そこから先述の松田聖子さんらも、彼らのプロデュースを得てさらに人気を高めていったのです。

ジュリーの「ＴＯＫＩＯ」も、たぶんにそのあたりのトレンドを意識してのことだったのでしょう。こんな証言があります。作詞家売野雅勇さんは、この前の章で紹介した中森明菜さんの売り出しに一役買い「少女Ａ」を作詞した方で、ジュリーのアルバムにも作品を提供していますが、当時を振り返ってこうおっしゃっていました。

「作詞が阿久さんからコピーライターの糸井重里さんになったのは驚きでした。僕もジュリーのプロデューサーから言われました。これからは〝阿久悠から生活

感をなくしたものを書け〟と」

なるほど、歌から生活感を脱色させる。阿久さんの詞はある意味時代の先端だったわけですが、売野さんの話は80年代以降の歌謡界の変化をも示唆していますね。

還暦を迎えての思い

ともあれ、ジュリーはその後も「負けへんで」と歌い続けますが、ここでぜひ紹介しておきたいのは、私が毎日新聞夕刊編集長だった時、夕刊の「人生は夕方から楽しくなる」に登場してもらったときのジュリーの話です。当年60歳。団塊の世代が還暦を迎えた、と何かと話題になっていた頃のジュリーです。

「今だから言えることですが」と相手の記者に断って、その前年に亡くなった阿久悠さんに触れこう続けたのです。

CamScannerでスキャン

僕、個人的な好みでいうと阿久悠さんの詞に魅力を感じてなかったのですよ。『時の過ぎゆくままに』もそう、「もしも二人が　愛せるならば　窓の景色も　変わってゆくだろう」ってかっこよすぎる。『サムライ』にしても「男はいつでも　悲しいサムライ」と断定する詞は僕には合わなかった。「男はサムライって言うけどさあ……」みたいなのが好きなんです。

だから僕は感情を入れずに無味乾燥な歌い方をして、強い力で圧倒してくる阿久先生の詞に『負けへんで』って立ち向かっていた。

意外ですよね、これらの言葉。でもよくよく考えてみるとうなずける点もあります。確かに阿久さんは、ジュリーのヒット曲を支え続けた作詞家でした。ジュリーも「負けへんで」で、多少思うところがあっても与えられた曲に全力投球、それこそ「負けへんで」でトップを目指していたはずです。

ですから、阿久さんについての云々は、還暦を迎えたジュリーにして言えるこ

と僕は理解します。ジュリーら団塊の世代は反体制の学生運動にも情熱を燃やした世代ですし、その当時はともかく、還暦を迎える前後からジュリーは毎年のようにアルバムを出し、コンサートを開いています。そしてアルバムの中で作詞した「我が窮状」についてこうも話しています。

そう。憲法9条を守ろうと呼びかける歌だ。普通の日本国民としてちょっと心配という思いがあるんですよ。9条と堂々と言うのは照れ臭い、わかる人にはわかればいいと思って、〝沢田さんもなにか困っているんですか?〟と捉える人がいてもいい。

いや僕はこういうジュリーも好きですが、昭和50年前後のジュリーは永遠性を持って瞼(まぶた)に焼き付いています。

全盛期のジュリーの追っかけをしていた後輩の奥さんに、当時彼をどう見てい

たんですかと尋ねたことがあります、後日手紙をしたためてくれました。
「きれいなものに心を奪われることがありますが、ジュリーは美の化身でした。眺めていると、嬉しくもあり、悲しくも感じる。プリズムのように、光を屈折もさせ分散もさせて、私たちの心を華やかにし、たとえようのない色っぽさで魅了してくれた人、手の届くところにはいるはずもない人がステージの上にいた不思議をいまも感じ続けています」
昭和歌謡、昭和歌謡と言っていると、テレビのディレクターが「〝昭和っぽい〟とか〝昭和してる〟とかの言葉、どう思いますか」と。
僕は「そりゃ、昭和だもんね」と一言返しはしましたが、あとで「昭和と言ってもジュリーなんか奇蹟というか、永遠というか、時代を超えてた気がするよ」と言うべきだったと、ちょっと反省しました。
先述の売野さんに僕は言いました。
「今の連中に何か言われたら、昭和歌謡のステージにはジュリーがいたんだぜ、

と言いたいところがありますよね」

売野さんもうなずいて言いました。

「その気持ち私も同じです。あのジュリーがいたんだから、という思いはありますよね。ルックスもよく声もよく歌も上手でしたし」

「みんな明日も生きていきます」

中年期を過ぎたジュリーには何回か会って話を伺っています。いつも雑談で終わってしまって記事にしたことはありませんが、次の文章は私が毎日新聞夕刊で長年書き続けてきたコラム「しあわせのトンボ」で書いたものです。2014年2月20日付ですから、4年の歳月が過ぎていますが、昭和歌謡にはジュリーがいたんだという思いと通じるものがありそうなので、この本に収めておきたいと思います。

ザ・タイガースと共に

44年ぶりにオリジナルメンバーで再結成されたザ・タイガースのコンサートが先夜NHK・BSプレミアムで放送され、見入った。昨年12月に行われたツアーの最終公演「ザ・タイガース　2013　LIVE　in　東京ドーム」を90分に収録した番組だ。

懐かしかった。いや、そんな一言ではとてもすませられない。心の奥深いところから浮き立つ感情が湧いてくる一方で、しみじみとなったり、心はさまざまに動いた。

♪花咲く娘たちは……、♪雨がしとしと　日曜日…かつてのヒット曲の歌詞が次々と流れてくる。改めて聞いて、どの歌にも祈りにも似た優しさが込められている、と今さらのように思った。

ジュリーが昔と同様、♪君だけーにーと歌いながら総立ちの客席に向かって指をさすと、「キャー」「ワー」の歓声交じりのどよめきが上がった。場内の熱

狂は、画面からあふれんばかりに伝わってくる。4万5000人のファンは、ザ・タイガースが解散する1971年以前に瞬時にして帰っていた。年を取れば、遠い日ほど近くなるものだ。

ジュリーはすっかり丸い体形になり、長髪だったサリーこと岸部一徳さんの頭髪もめっきり薄くなった。ジュリーが「この5人でザ・タイガースです」と紹介したメンバー全員、どう見てもいいおじさんである。

でもそれがいいのだ。ファンとスターの垣根を越えて、一緒に生きてきたんだ、とみんなそんな感慨に浸ったことだろう。カッコいい＝スリムにまるでこだわっていないジュリーには、これまで以上に親しみを持ったのではなかろうか。

「蛍の光」をバックにジュリーがマイクを握り締めた。

「2013年12月27日。みんな今日まで生きてきました。みんな今日も生きています。みんな明日も生きていきます」

CamScannerでスキャン

そして客席に向かって向きを変えながら「ありがとうございました」と3度言って頭を下げた。

歳月と共にザ・タイガースはおおらかさと優しさを増していた。こちらこそ、ありがとう、と言いたい。

CamScannerでスキャン

14 昭和歌謡と歌詞の力

その歌がヒットするかどうかは、何となくメロディーにひかれ、そのあと歌詞もいいなあと思ってくれるかどうかだ、と思っています。
曲でつかんで、詞で引き込む。僕の場合は詞のウェイトが高いような気がします。もっぱら文章を書いて生きてきたからでしょうか。
いい詞だとついついパクッてしまいます。
♪秋には枯葉が小枝と別れ…あれーどっかで聴いたような……。石原裕次郎さんの「粋な別れ」（昭42）の中にある歌詞だと気づいてほかの表現に変えました。
♪そこのところうまく伝えて…と書いて、なんかどっかで聴いたようなセリフ

だなあと思い、すぐにペドロ&カプリシャスが歌う、阿久悠作詞、都倉俊一作曲の「ジョニィへの伝言」（昭48）と気づき、別の言葉にしました。
といったことがよくある僕です。そんな体験のつど、昭和歌謡ブームとともに歌詞の力の大きさを改めて思うんですね。

映像さえ浮かばせる喚起力

とりわけ深い心の動きを風景や時間の流れとともに描いた作詞には感じ入ります。文章の持つ喚起力でしょう。そこに映像さえ見せてくれる歌詞もすくなくありません。
気に入った歌詞はノートに書きとめているからでしょう。つい脳からおりてくるんです。こんな歌詞は脳内の原稿用紙にも書きとめています。
「男もつらいし　女もつらい　男と女は　なおつらい」（阿久悠「夢ん中」）
「ただ一言でいいから　感じたままを口にしてよ」（桑田佳祐「恋人も濡れる街

CamScannerでスキャン

角」)

「いつの日か　もう一度逢おう　何も変わらぬ　二人のままで」(秋元康「いつの日か」)

「時が二人を追い越してゆく　呼び戻すことができるなら　僕は何を惜しむだろう」(小椋佳「シクラメンのかほり」)

歌は「3分間のドラマ」とよく言われることです。そのドラマの先の先まで読み取れるように卓抜な含みを持たせています。この含み、今の歌にあるのかなあ。

昭和歌謡の最盛期は携帯もメールもなかったし、俵万智さんがこんな短歌を詠んでいた時代でした。

「会うまでの時間たっぷり浴びたくて各駅停車で新宿に行く」

「携帯こそ仇」と山口洋子

しかし時間というか、時の流れがもたらすそれらの情感もいずこへ、です。

山口洋子さんがエッセイ集『生きていてよかった』に所収の「花と風とこの一年」の中で、別れと再会のドラマが書けない、とぼやいています。

ドラが鳴る、かもめが舞う、愛しい男が船に乗って去ってしまう。恋しい相手と今度いつまた会えるやらといったところで懐から携帯をとり出し、「そいじゃまた電話する、用があったらそっちもかけてくれ」
ああいまさら夜汽車の笛でも出船のドラでもなくなった。哀しき演歌の行方よ。携帯のないストーリーや恋物語が全て古臭くなってしまったし、我々作家にとっちゃ、携帯こそ仇の感がある。

山口さんが体調を崩し、車椅子生活を余儀なくされていた折、お会いして近況を伺ったことがあります。
そのときのやりとりです。

「裕ちゃんのお世話になっています」と山口さんが。
「お世話ってどういうことですか?」と僕。
「『北の旅人』(昭62/詞・山口洋子 曲・弦哲也)、あれまでは裕ちゃんの曲なのよ。おかげでこちらは老いのブルースを歌いつつ暮らさせてもらっています」

体言止めの〝リズム演歌〟

確かに、僕の友人もマイクを持てば「北の旅人」一曲のみ、どこの店に行ってもです。

1番から3番まで歌詞の最後の2行がいいんです。その地その地の特色を繊細にとらえた思いが描写文で書き分けられています。引いておきますから味わってください。

でも、メールの時代、これらの歌詞、というより「北の旅人」は、もはや成立不可能な歌となりました。

ちなみにこの歌は、裕次郎さんが「わが人生に悔いなし」などと一緒に療養中のハワイで録音したもので、死後、リリースされました。

俺の背中で　潮風(かぜ)になる
夜の釧路は　雨になるだろう
どこへ去(い)ったか　細い影
夜の函館　霧がつらすぎる
消えぬ面影　たずねびと
夜の小樽は　雪が肩に舞う

山口さんは２０１４（平成26）年の秋口に亡くなられました。東京・銀座のクラブのママにして作詞家、作家というマルチぶりを発揮しての77年の生涯でした。

五木ひろしさんの大ヒット曲「よこはま・たそがれ」（昭46／曲・平尾昌晃）も詞は山口さんの提供です。

五木さんが日本テレビの「全日本歌謡選手権」で10週勝ち抜いたときの審査員の一人に山口さんがいらしたのですが、歌いだしと、四・四・七を繰り返す体言止めのフレーズが鮮烈で、ヒット当時、ある高校では国語の先生が「今日は体言止めの効果について勉強しましょう」とこの歌詞を黒板に書き出したりしていたそうです。

平尾さんの曲も和洋相半ばするどこかシャレた感のあるリズミカルなメロディーで特有の哀愁をもたらせています。平尾・山口コンビの二つの才能が演歌でありながら軽快なサウンドを送り出して〝リズム演歌〟を誕生させることになるんですね。

ちなみに「よこはま・たそがれ」の1番を掲げておきます。単語を羅列するだけで物語を運ぶテンポの妙を感じ取ってください。

よこはま　たそがれ
ホテルの小部屋
くちづけ　残り香　煙草のけむり
ブルース　口笛　女の涙
あの人は　行って行ってしまった
あの人は　行って行ってしまった
もう帰らない

「若い子たちの言葉への渇望」とヒャダイン

ところで昨今はＳＮＳやネットの普及に伴って、Ｊポップは「これって歌詞？」の変わりようです。文藝別冊「阿久悠　時代と格闘した昭和歌謡会の巨星」の中で、音楽クリエイターのヒャダインさんが、巻頭インタビューでＪポップの歌詞の変化にふれ、こう話しています。

やっぱり変わったように感じますね。たとえばＬＩＮＥでは短文で相手に伝わるというか、意味に含みを持たせない、乾いた言葉が使われている印象です。世の中の人たちが含みを持たせた言葉が理解しづらくなってきているし、僕たち作詞家も書けなくなっていると思います。

――が、これに続く言葉に少し安心しました。

若い子達が阿久先生の曲を好んで歌うのは、豊かな含みを持った言葉への渇望なのかもしれない……と思います。

――阿久さんの歌詞はすでに何曲も紹介させてもらっていますが、ヒャダインさんらにそこのところをうまく伝えていただきたいと願うばかりです。

忌野清志郎のメタファー（暗喩）

さてこの章では、比喩の表現法を少しだけ紹介させていただきます。

ロックの忌野清志郎さんは喉頭がんを患い、２００９（平成21）年に58歳の若さで亡くなっています。がんになったとき「これからは人生のブルースを歌う」と冗談っぽく話していましたが、等値性の強い比喩（暗喩）を用いたステージからのメッセージも忘れられないアーティストでした。

みんないいか。ロックの基本は愛と平和なんだ。今日はアースデーだ。イエー、一番の環境破壊は戦争だ。

メタファーがビンビンです。「雨あがりの夜空に」（昭55）にこんな歌詞があります。

こんな夜に　おまえに乗れないなんて
こんな夜に　発車できないなんて

女性の比喩、エロチックな内容です。ステージではよくこう叫んでいました。「日本の憲法は戦争しないんだ。イエー。愛と平和なんだ。イエー、ジョン・レノンの歌みたいじゃないか。イエー」
武器より楽器です。彼にはもっと生きて生きて、歌って歌って平和を訴えてほしかったなあ。

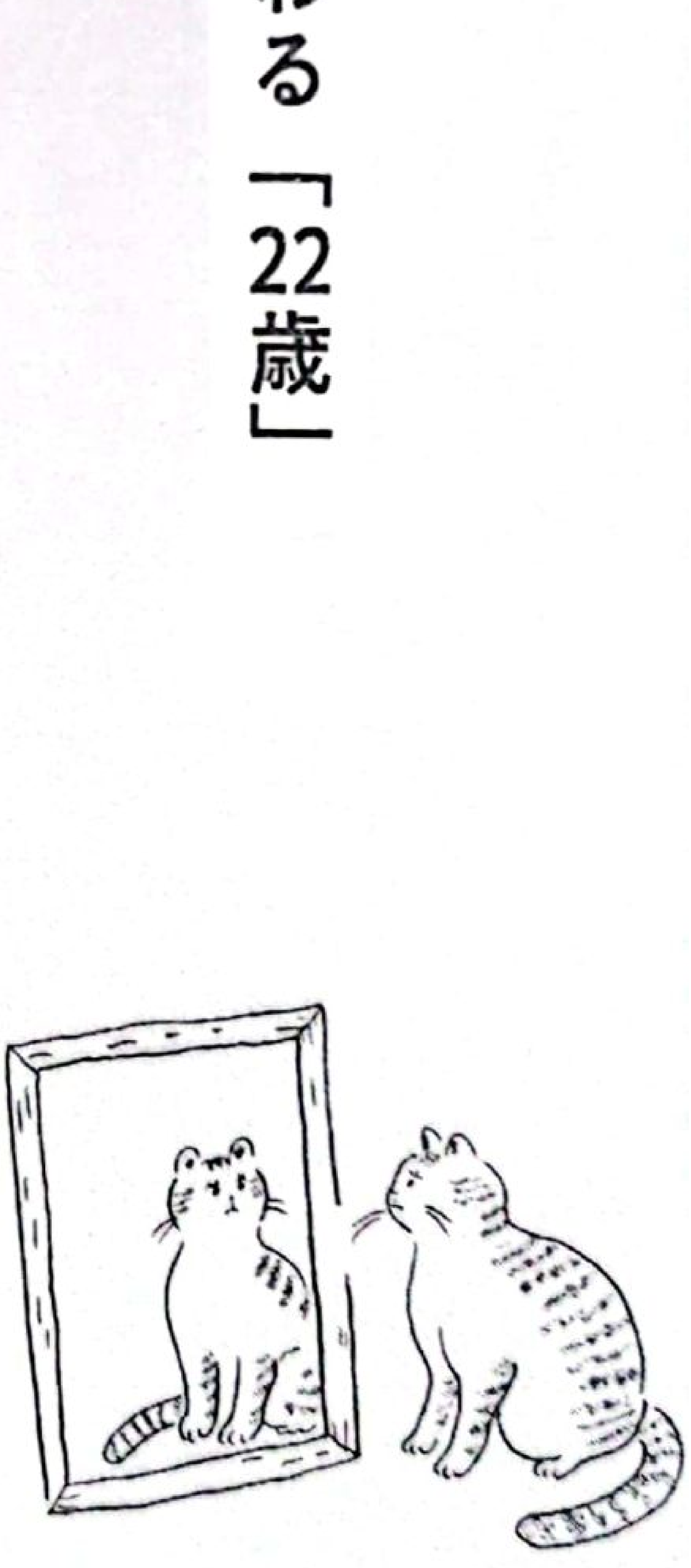
8年でこんなに変わる「22歳」

22歳。大学を卒業して、就職するなりなんなりと仕事に就いて、ルーキーとか新人と呼ばれる年ごろ。結婚適齢期という言葉があった時代に、22歳はそんな年齢であったかもしれません。

作詞作曲伊勢正三さんの楽曲「22才の別れ」（昭50）は、彼が在籍していたかぐや姫の解散後に結成の風のデビューソングです。この後にアリスの谷村新司さん作詞作曲の「22歳」（昭58）がリリースされるのですが、いや、8年の歳月で「22歳」は一変しますから驚きです。

「22才の別れ」はタイトルから察せられるとおり、22歳の女性が好きだった男性と別れ、ほかの人と結婚を決意した、そんな心模様を歌っています。

恋愛は恋愛。実際に生きていく現実は現実。22歳がその節目になるわけ



ですね。

♪わたしには鏡に映った　あなたの姿を見つけられずに　わたしの目の前にあった　幸せにすがりついてしまった…

きっとお互いを見つめあって、心も体もふれあって、そういう関係を経ての別れなんでしょうね。愛しあっていたからといって、結婚へ一直線でないのはいまも昔もかわらないとはいうものの、彼の本心がわからない……、そんなやるせない思いを秘めた歌です。

年をとって思うことですが、人が生きていくうえで必要なことは数限りなくあります。たとえば食事だって睡眠だって大切ですが、思うにまかせない最たるものは愛です、なのに、それなのに、人間ときたらいついかなるときも発情が可能なようにできています。そこにある葛藤。「別れ」は昭和歌謡の最大のテーマとすでに書きましたが、容易にはかなわない、難

事、難問、難題に愛があるんですね。そして、いろいろあった末の別れもある。

でも、そういう愛と別れの体験ゆえに人は鍛えられます。ある種の成長があるものです。

今度はどんな歌をと考えることは、シンガーソングライターにとっては常なることでしょうが、伊勢正三さんって音楽の世界で生きていなかったら作家になっていたのでは、とそんなことを思わせる一曲です。22歳の女性の切ない感情をどうしてこんなに上手に書けるんだろうと感心します。

さて谷村新司さんの「22歳」(昭58)です。ソロ歌手として「昴―すばる―」の次にヒットさせたのがこの「22歳」なんです。これもいい歌です。伊勢さんの22歳はどこか乙女チックな感じもありますが、谷村さんの22歳は今風です。「元カレ」とか「今カレ」とか、現代の言葉を持ってきてもオーケーな感じです。

伊勢さんの「22才の別れ」から谷村さんの「22歳」の8年の間に一体何

があったかちょっと調べてみましたが、昭和50年にヒットした曲は「シクラメンのかほり」、本では有吉佐和子の『複合汚染』、映画では『青春の門』『エマニエル夫人』、テレビでは「欽ちゃんのドンとやってみよう！」、そのほか紅茶キノコの流行もありました。

昭和58年は歌では「矢切の渡し」「さざんかの宿」、本では山崎豊子さんの『二つの祖国』、映画では『家族ゲーム』『戦場のメリークリスマス』、テレビは断然「おしん」でした。

ちなみにその翌年、新聞記者だった僕がふりまわされた「かい人21面相」のグリコ・森永事件が起きます。それはそれなんですが、8年で世は変わる。歌も変わる。22歳も変わるんですね。

ちなみに「22歳」はこんな出だしなんです。

♪白いシーツをまきつけ　背中でサヨナラの…

さらに次の歌詞は意味深。

♪22歳になれば少しずつ　臆病者になるわ…

これっていろんな体験を積んで口にする言葉でしょ。相手の男だって、伊勢さんの描く男と谷村さんの描く男とはかなり違います。谷村さんの男は不真面目そうです。ですから谷村さんはこう続けるんですね。

♪やさしくもない貴方に　振りまわされた日々…

それにしても谷村さんの「臆病者になるわ」という表現、興味を引きます。というのも、いまは男の子の方がどんどん女の子に臆病になっている感じですから。女性は晩婚化も進んでいます。この先22歳まで

というより、「○○の別れ」にふさわしい○○という年齢、いまなら何歳なのか。

いや昭和歌謡、こうしてヒットソングを比較対照してとらえれば、若者文化や青春期特有のエネルギーの変化が歌とともに見て取れます。これもまた昭和歌謡ならではの魅力ですね。

ふと思い出しました。僕、二十数年前谷村さんのコンサートに行って、彼のおしゃべりを堪能しました。

笑いましたよ、この一言には。

「2階席から見える僕の頭、ヨード卵みたいでしょう」

谷村さん、当時はまだ中年ど真ん中、団塊の世代です。本当にヨード卵の頭になるまで、いや、なっても歌い続けてください。

谷村さんに堀内孝雄さん、矢沢透さんの3人が70歳になる2019年に、伝説のバンド「アリス」が再始動するとか。期待してますよ。

15 阿久悠 vs. ＡＩ

底知れぬ進化を見せているＡＩ（人工知能）がつくった詩がテレビで紹介されていました。将棋でもプロの最強の棋士を負かす能力です。これから見ものなのがさらに創造性を問われる文章の作成のようです。

ＡＩの詩

以前僕は新聞のコラムでいくらＡＩのディープラーニング（深層学習）がすすんでいるといっても文章上のこういう一言の理解が無理だろうと、神吉拓郎さんの直木賞（１９８３年下半期）受賞作『私生活』所収の「鮭」の一節を取り上げ

CamScannerでスキャン

ました。
ある日突然夫が蒸発する。妻には心当たりがなかったが4年過ぎてまた突然のごとく夫が帰ってくる、妻には言いたいことがたくさんあるが、疲れきった感じの夫にこういう。
「ご飯、すんだんですか」
この一言がAIに思いつく言葉とは思えない、とコラムに書きました。人間の何たるかにこだわる作家にして初めて出てくる言葉であろうと思えたからです。するど後日、AIの専門家でしょうか、そういう一言が思いつかないというのは俗説です、と指摘されました。
俗説？　うーん。ただAIについては予断を持って判断するのはやめようと思っていたところへ、冒頭でふれた詩がテレビで紹介されたのです。
はっきり言って何を言いたいのか、文章の流れがぎくしゃくしていてよくわかりませんでした。ただ、響きのいい言葉でリズムを意識した韻文であることは確

か。一語一語、もっとうまくつないで流れをよくすれば、何か面白いメルヘンチックな詩になるのではなかろうかと思えました。と同時に、僕は一人の作詞家を思い浮かべていたのです。阿久悠さんです。

ＡＩの詩の単語と単語の距離感に、何かしら阿久さんの歌詞に近いものを感じたからです。これは多分に直感的なものです。

意味がわかるなら説明を省略する。意味は暗示すればよろしい。全て理解可能な詞にする必要はありません。阿久さんならそうおっしゃるのではないでしょうか。

あってもいい一つや二つの単語が省略されている作詞法は、得意とするというより身につけていたはずです。たとえばロックのＣｈａｒさんがうたう「気絶するほど悩ましい」（昭52／曲・梅垣達志）に♪うまく行く恋なんて恋じゃない…とありますが、わかる人にはわかるだろうといったふうの詞です。

阿久さんの作詞で、曲は三木たかしさん、森進一さんが歌った「北の螢」（昭

59）にはこうあります。

♪もしも 私が死んだなら 胸の乳房をつき破り 赤い螢が翔ぶでしょう…

わかります？ ほとんど抽象絵画の世界ですよね。

五木ひろしさんが歌い上げる「契り」（昭57）も阿久さんの詞で、五木さん自らの作曲です。♪人の心は鴎のように 真白だろうか…ってどう思いますか？いや、こんな調子で阿久作品を挙げていけば切りがありません。自ら「狂気の伝達」とおっしゃる阿久式作詞法は、もっともらしい世界を反転させたり、ひっくりかえすなど当たり前、彼にしてできる芸当でしょう。

「狂気の伝達」と阿久さん

初期の歌詞では、森山加代子さんが歌った「白い蝶のサンバ」が有名ですが、言葉も思いっきり舞っています。♪あなたに 抱かれて わたしは 蝶になる…と早口で歌うポップな歌謡曲は当時大変な話題になりました。

阿久さんは『作詞入門　阿久式ヒット・ソングの技法』（以下『作詞入門』）という本を昭和47年に出しています。すでにその頃ロックやフォークが音楽シーンを染め上げている中で、阿久さんの作詞法はそれらの新潮流ともマッチする感があったのですが、ここまで手の内を明かしていいのかと思えるほどの内容です。

具体的には「蝶とは、いったい何なのか」と問い、思いついた言葉を書き出しなさい、と自ら書き出してみせます。

浮気者。短命。はかない。ホステス。ストリッパー。虫。標本。コレクター。マダム・バタフライ。花畑。弱い。誘惑。貴族。売春婦。刺青。ステンドグラス。灯。パリ。ニューギニア。靴下留め。モスラ。ミヤコ蝶々。原色。快楽。溺れる。

〝縁語〟という言葉で、この技法を説明していますが、いったん空想を始めるといくらでも言葉とともに遊べる人だったのでしょうね。

そしてこれらの作詞技法を注ぎ込んで度肝を抜いたのが阿久さんが都倉俊一さんと組んだ作品「どうにもとまらない」（昭47）、「じんじんさせて」（昭47）です。歌ったのは可愛こちゃんアイドルで終わっていた山本リンダさんでした。続いて「狙いうち」（昭48）でもセクシャルなイメージチェンジをはかっています。美脚をおしげもなく露出して歌詞の奇抜さもことここに至れりでした。

「狙いうち」の♪ウララ　ウララ　ウラウラで…には、都倉さんも「なんだこれは」と驚いたようです。デモテープのカセットから流れる「トゥータタ、トゥータタ、トゥータトゥーター」というスキャットの歌を渡していたら♪ウララ　ウララ　ウラウラで…という歌詞が返ってきたという話、文藝別冊『阿久悠』で読みました。

山本リンダさんのこれらの曲のヒットの余勢をかって、阿久・都倉コンビは「スター誕生！」から出てきた静岡県生まれの二人の女の子、根本美鶴代（ミー）と

CamScannerでスキャン

増田恵子（ケイ）の売り出しにかかります。デュオで考えられていた当初の名前は「ちゃっきり娘」「白い風船」などで増田恵子さんは、それらの名を見てこう思ったそうです。「やっぱりフォークのデュオなんだ」

それが一変、都倉さんがバーで注文したカクテル「ピンク・レディー」にピンときて、ピンク・レディーで行こうと。

会社の上司は猛反対だったそうですが、ピンク・レディーという名のインパクトも手伝ってでしょう、阿久・都倉コンビの「ペッパー警部」（昭51）、「ウォンテッド（指名手配）」（昭52）、「ＵＦＯ」（昭52）……と大当たり。大股開きの大技を見せはするものの、山本リンダさんの色気とは違う健康的なお色気で園児からお父さんお母さん、いやいやおじいちゃんおばあちゃんまでテレビの前に全員集合させるデュオ・アイドルになったのです。

阿久さんは『作詞入門』で振り返っています。

CamScannerでスキャン

仕事をずっとやっていて、おもしろくておもしろくてしょうがなかったのこのときが初めてかな。「日本人とは」とか「歌謡曲とは」などと考えなくてもいいし、歌につきもののいろいろな制約も気にしなくてもいい、空飛ぶ円盤だっていい、野球場を持ってきてもいい、モンスターが走り回ってもいい、ここでは何でもできるんだっていう解放区。このときはもう映画のプロデューサーの感覚です「今度は宇宙物で行こう」とか、「次は怪獣を出そう」とか。博覧会のパビリオンをイメージもしましたよ「UFO館」とかね。

そう振り返る阿久さんも、やがて仕事に一段落つけるかのように、直木賞候補作品になった『瀬戸内少年野球団』の執筆に時間を割くことになるのですが、阿久さんが作詞活動でしばしば使っていた言葉は「時代の飢餓感を捉えよ」でした。自らそう問うことが作詞の実践でもあったのです。阿久さんは尾崎紀世彦さんが歌う「また逢う日まで」（昭46／曲・筒美京平）でレコード大賞を受賞してい

ますが、作詞に当たっては書き直しなどいろいろあったようです。『作詞入門』ではそのあたりのことについてこうふれています。

銀座のホステスにまで受けるとは思っていなかった。また受けたのは前半の〝たがいに傷つき、すべてをなくすから〟という部分だと思っていたら、実は後半の〝ふたりでドアを閉めて……〟である。……恋をしたいという憧れではなく、〝あんな風に別れられればいいなあ〟という感じで、別れに対する憧れなのである。

恋もさることながら、こんな別れのスタイルは、と問いかけてもいるような詞で時代のツボをおさえているんですね。

阿久さんは『文楽(ぶんがく)―歌謡曲春夏秋冬』の中で自分の心身に「歌謡曲の言葉がごちゃごちゃに入っています。まるで玩具箱です」と書いています。

５０００曲の作詞というのは大変な数の言葉を要したでしょうが、頭や心の中に詰め込まれた言葉たちはいまかいまかと出番を待っていたことでしょう。

昨今、若手の音楽プロデューサーなどの間ではヒット曲になりえるＡＩの歌詞がよく話題になるそうです。曲はすでにパソコンに音楽ソフトをインストールすればささっと作れる時代だそうですから、問題は作詞なんですね。

阿久さんが今日もいらしたら、できのいい「作詞ＡＩ」には競争心を燃やしていたであろうことは容易に察せられます。

16 「人生いろいろ」——歌謡曲と島倉千代子

詞を提供した中山大三郎さんも、曲を提供した浜口庫之助さんも、「人生いろいろ」（昭62）に関するかぎり、歌い手は島倉千代子さん以外に考えられない歌だと思っていたことでしょう。

前途多難。どう生きるか

いきなりこうですからね。

死んでしまおうなんて

悩んだりしたわ
バラもコスモスたちも
枯れておしまいと
髪をみじかくしたり
つよく小指をかんだり
自分ばかりをせめて
泣いてすごしたわ

前途多難。どう生きるか、から始まっている歌です。

実際、島倉さんの人生は離婚、借金、それも億単位の肩代わりに加えて、さらに、がんとの闘病生活……。

中山さんが考えていたタイトルは最初「笑い話にして」だったそうです。苦労の連続の人生体験を歌った続きのフレーズに出てきます。

ねぇ　おかしいでしょ　若いころ
ねぇ　滑稽でしょ　若いころ
笑いばなしに　涙がいっぱい
涙の中に　若さがいっぱい
人生いろいろ　男もいろいろ
女だっていろいろ　咲き乱れるの

いろいろあっても「生きていく私」です

でも、やっぱりタイトルは「人生いろいろ」にしてよかったんじゃないかなあ。この歌には苦労のディテールは描かれていませんが、描かれてないがゆえに波瀾万丈っていうか並の苦労でないことは察しがつきます。

♪笑いばなしに　涙がいっぱい…ですからね。

続いてこうです。

恋は突然くるわ
別れもそうね
そしてこころを乱し
神に祈るのよ

以下省略しますが、「神に祈るのよ」は多々想像してリアルに響いてきます。ただしこの歌、負けてはいません。いろいろあっても先述のとおり「生きていく私」なのです。

島倉さん、ステージでいつもくすっと愛らしい笑顔も見せてくれました。そしてこのフレーズが繰り返されるのです。♪人生いろいろ　男もいろいろ　女だっていろいろ　咲き乱れるの…と。

小泉首相も口にした「人生いろいろ」

この歌の大ヒットで世間で皆もよく「人生いろいろだよ」などと口にしていま

CamScannerでスキャン

した。とりわけ小泉純一郎さんが首相当時、国会で「人生いろいろ、会社もいろいろ、社員もいろいろ」と答弁したのは印象に強く残っています。

歌詞もいいが、ジャンルは演歌だとしてもポップス調のサウンドでリズムもモダンです。島倉さんのビブラートの声量が往年よりか細く、弱々しい感じなのもこの歌にあっています。

ハマクラリズム

島倉さんは折から病床の浜口庫之助さんに「元気になってもらいたい」という一念から、出場30回を区切りに卒業していたNHK紅白歌合戦に2年後復帰し「人生いろいろ」を歌ったのですが、「ハマクラリズム」なくしてこの歌のヒットはなかった、そんな思いも彼女を紅白の舞台に立たせたのでしょう。

ちなみにハマクラさんは神戸の実業家の家で生まれ、子どもの頃から楽器に親しみ、5歳のときに楽譜が読めたそうです。

「黄色いさくらんぼ」（昭34）とか「バラが咲いた」（昭41）とか、とにかく時代の気分や大衆心理には敏感だった方です。1990（平成2）年、喉頭がんで73年の生涯を終えますが、晩年の「人生いろいろ」も戦争をはさんで波乱にみちていた自らの人生も思い起こす一曲になったことでしょう。

流行歌の通俗にこそ人間の真実

ところで、「人生いろいろ」に即して流行歌のなんたるかを少し書いておきたいと思います。

黒澤明監督に人生、いかに生きるかをテーマにした名作『生きる』があります。監督はこの映画をどんな思念で撮ったか。都築政昭著『黒澤明の遺言』にこう書かれています。

一通俗的な人間の面白さを、真実に書けば書くほど通俗ではなくなる。

人間の通俗的な振る舞いを追えば、人間の真実が浮かびあがってくるということでもあるのでしょう。

ひるがえって歌謡曲はいたって通俗的です。自ら人間的な一面をさらけ出して率直です。俗人ぶりを否定したりはしません。

この世に生きている自分を認める以上、何事にも潔癖であったり、強気一辺倒では生きていけない。だからこそ唇に歌を、という自覚でしょう。滑ったり転んだり、笑ったり泣いたりの人生を歌う歌謡曲は、世俗を超越しては成り立たないのです。

島倉さんは２０１３（平成25）年11月に肝臓がんで亡くなられました。享年75。

美空ひばりさんも島倉千代子さんもコロムビア所属でした。同じくコロムビアの舟木一夫さんが二人を評してこうおっしゃっていたのが僕の印象に残っています。

「さばのさんとお千代さんはミミふどナの桜と梅でした」

なるほどなあ、と思いました。鳥倉さんには、さばのさんが桜っていうイメージがあ桜のような華やかさはありません。ありませんが、厳しい寒空にも負けずにがんばりはつぼつと可憐な花を咲かせます。鳥倉さんの気品ある凛とした歌声と一緒の歌声には、いじらしい感じさえありました。梅というたとえ、よくわかります。

亡くなられた年の3月には、都内で行われた「ミミふどナ大行進のとき」に姿を見せ「区役所から後期高齢者と書いた書類が届きました」とユーモアを交え、「人生いろいろ」を歌っていたそうです。

休止符

雨と昭和歌謡

昭和歌謡には雨の歌が多いんです。

手元の『昭和歌謡１００名曲』にはＰａｒｔ１～５まである。元日本レコード大賞審査員塩澤実信さんの労作です。タイトルにある単語を追うと「雨」「夜」「恋」の３語が目立ち、地名では断然「東京」です。

アトランダムに「雨」のある歌を挙げてみましょう。「雨のオランダ坂」「アカシアの雨がやむとき」「雨に咲く花」「雨の慕情」「氷雨」「遣らずの雨」……ずばり「雨」という歌も。「大阪しぐれ」なども「雨」でくれる歌でしょうか。

それにしてもなぜ雨？　梅雨など長雨が続く時は普段訪ねてくる男の足も遠のく、待ちわびて女は外の雨をうらめしそうに眺める。「長雨」は「眺

め」という言葉となったと、これは僕のうろ覚えの知識です。雨の歌は大半が女心とともにある。そんなことをもう少し知りたいと本棚から、山折哲雄・齋藤孝著『「哀しみ」を語りつぐ日本人』を引っ張り出してみると、ありました、ありました、こんな記述が。

かつて田植えといえば長雨の時期に行われるもので、先にも触れたように梅雨時の風物詩ともいえるものでした。

この時期に田植えをしていたのが、早乙女という農村の若い女性たちです。農村に伝わる古い慣習からいえば、田植えとは神様の降臨を仰ぎながら行うものだったから、早乙女は身を清く保つために、田植えの期間、男性と交わってはならないとする性的なタブーがありました。それだけに、この男性と交わってはならないという期間に、早乙女たちの男性への憧れは、かえって強化されたわけです。

それゆえ、次第に梅雨という季節と、恋、愛という感情が深くむすびつ

くことになります。さらに、そこに長雨という自然現象が加わり、万物が腐敗する長雨の中で恋に悩み堪え抜くという、典型的な日本女性のイメージができあがっていった。

山折さんは、国際日本文化研究センターの元所長、現・名誉教授です。「日本的感情」とでも呼ぶべきものの、今と昔をテーマにしたこの本で、他に興味深かったのは、山折さんの対談相手の明治大学教授、齋藤孝さんが、「日本的感情の基本」として「哀しみ」「憧れ」「張り」の3つを提示している点です。

それらの感情もいまや衰えつつあることが確かと述べられていますが、少なくとも昭和歌謡では雨模様と一緒に残っていそうです。

同書で「哀しみ」は「哀切」の字が示す如く、「口」プラス「衣」ですから、想いを胸中に抑え、口を隠してむせぶことを表しています。

「悲しい」という字を当てても、上の「非」プラス「心」で「悲」は羽が

左右反対に開いている様子を表しています。つまり心が調和を失って避けるということを意味すると同書にあります。雨を歌って、そんな愛、あるいは悲はどんな感情として描出されているのか、次の2曲を選んでみました。

まず1曲目は昭和45年リリース、なかにし礼作詞、筒美京平作曲の「雨がやんだら」で、朝丘雪路さんが歌って大ヒットしました。1番はこんな歌詞です。

雨がやんだら　お別れなのね
二人の思い出　水に流して
二度と開けない　南の窓に
ブルーのカーテン　引きましょう
濡れたコートで　濡れた体で

あなたは　あなたは
誰に　誰に　逢いに行くのかしら
雨がやんだら　あたしはひとり
ドアにもたれて　泪にむせぶ

CamScannerでスキャン

次に紹介するのは昭和55年リリースの阿久悠作詞・浜圭介作曲の「雨の慕情」です。やはり1番です。

心が忘れた　あのひとも
膝が重さを　覚えてる
長い月日の　膝まくら
煙草プカリと　ふかしてた
にくい　恋しい　にくい　恋しい
めぐりめぐって　今は恋しい
雨雨ふれふれ　もっとふれ
私のいいひと　つれて来い
雨雨ふれふれ　もっとふれ
私のいいひと　つれて来い

八代亜紀さんがサビのところから手の平を上に向け陽気な振り付けでおなじみの歌ですが、雨を歌っていてもさして暗くはなく、ほんのり明るささえ感じさせる歌です。

もちろん全体的に10年の差があり、作詞家も、女心の別れ模様を書いて

いたなかにしさんに対して、阿久さんはむしろ女心を明るくおおらかに描いた作詞家です、それぞれの作風の違いもそこに表れているのでしょうが、雨を歌った昭和歌謡の多くは、しんみりとした印象です。

とまりれん作詞作曲で日野美歌さんがカバーして大ヒットした「氷雨」（昭52）などその代表です。歌いだしから♪飲ませて下さい　もう少し　今夜は帰らない　帰りたくない…で、誰も待っていない部屋になど帰りたくないと、降りやまない涙雨なのです。

一方で万葉の昔から、雨は女性の恋情をはぐくんできたこととあわせ、言葉も数々残しています。川中美幸さんが歌う山上路夫作詞、三木たかし作曲の「遣らずの雨」（昭58）や都はるみさんの大ヒット曲である吉岡治作詞、市川昭介作曲の「大阪しぐれ」（昭55）など、雨そのものの言葉がなんとも豊かに息づいています、若い子たちが「遣らずの雨」「しぐれ」の意味がちゃんとわかっているのかどうか、昭和生まれとしては気になるところではあります。

ところでMBSラジオ金曜夜の「野村啓司の懐メロ♪ジュークボックス」の野村さんが先夜「阿久悠さんが本に書いていたことですが、平成に入って雨の歌が激減したそうですね」と前置きして、「雨の風情が世の中から消えたのでは」とこんなことをおっしゃっていました。「降雨予報がある。ビル林立で軒下がない。コンビニで雨傘がすぐ買える、それにゲリラ豪雨でしょう」

なるほど雨の風情はそがれているなあと思わずうなずいて、こんな話をふと思い出しました。

SF伝奇作家半村良さんの人情小説として話題になり、昭和50年の直木賞受賞作大賞作品となった『雨やどり』のストーリーを思い出したのです。梅雨時バーのマスターの仙田が新聞を取りにマンション1階まで下りていくと、別の店のホステスをしている邦子が降り出した雨を避けて飛び込んできた。雨はやみそうにない。仙田は彼女を部屋に上げた、それがきっかけで親密な関係になるが、邦子には刑務所に入っているやくざのひもがい

た。月日がたち邦子は姿を消す。またやってきた梅雨の季節、仙田は窓の外を眺めながらふとつぶやく。「そうか、あいつ、俺に雨宿りしたんだ」

どこか寂しい、でもぬくもりのある短編でした。こういう主題を調べに乗せた歌はもうだめなんでしょうかねえ。

17 星空の歌　坂本九、荒木一郎

ふだん歌は歌だと思っています。そう、歌は歌なんです。ですが、歌は時として思いもよらぬパワーを与えてくれます。それは歌ならではのものです。とりわけ、何か不運な事態に直面したとか、この思いのままこの世を渡るのは短夜も長夜もつらすぎるとか、そういう時に歌のありがたさがわかるんですね。

元気が出る歌「上を向いて歩こう」

2011年3月11日の東日本大震災では、被災地に向けた歌声がテレビから連日のように流れていました。「上を向いて歩こう」は予想通りの歌われようでした。

1985年夏の日航ジャンボ機墜落事故で亡くなったポップスターの坂本九さんの歌ですね。ジャズミュージシャンだった中村八大さんの曲に永六輔さんが詞を書いた昭和38年の名曲です。

　聴きようによってはエレジー（哀歌）ですが、九ちゃん独特の笑顔と歌唱、たとえばカタカナで「ウェエェオ」（上を）「ムゥウゥイテ」（向いて）といったように音を重ねて伸ばす表現が、しだいに希望と勇気の歌に合致したのでした。

　この歌を声を出して歌うと元気が出るのは実証されています。2004年10月、台風で京都府舞鶴市の川が氾濫して観光バスが濁流にのみこまれ動けなくなった時、みんながバスの上で「上を向いて歩こう」を合唱して励まし合いました。そうしてお互い力を得て暴風雨と戦い、生還したのです。

「3・11」では「北国の春」（昭52）もよく耳にしました。千昌夫さんには失礼ながら、以前はそれほどとは思わなかった歌なのに聴き入っていました。「おふくろ」とか、春を告げる「雪どけ　せせらぎ」とか、ところどころ入る言葉の抒

情性とあいまって心に深く染みいったのでしょう。千さんと同郷の岩手県の方々などは、在りし日の生活情景などを思い出して気持ちを存分に浸らせていたようですね。

唱歌「故郷」とともに、人気アイドルグループ嵐の「ふるさと」も一緒に口ずさむほど耳に入ってきました。映画『おくりびと』の脚本で知られる放送作家の小山薫堂さんの作詞で、そうだなあと共感できる言葉が各フレーズにちりばめられています。

中村雅俊さんが出身地でもある宮城県女川町を訪れた時の映像を紹介した後「ふれあい」を歌っていました。休止符のコラムでも紹介したとおり、70年代の学園ドラマの歌ですが、聴いていて被災地の現実とのふれあいに何かたまらない気持ちになったものです。

と書きつつ改めて思うのは、やはり歌の力です。耳にすっと入ってきて心のひだを震わせる。その作用は、喜怒哀楽の感情をあやつる脳の働きで説明がつくに

しても、僕自身は体と心のストレートな反応を実感しています。

内なる自然のごとく存在している童謡、唱歌

昭和歌謡から少し離れますが、皆さんは童謡や唱歌を聴いてなんとも言い表せない気持ちになったことはないでしょうか。童謡や唱歌のメロディーは、日本人の心に好きも嫌いもなく、内なる自然のごとく存在しているんですね。

子供の頃の自分の姿。母親に甘えたことや父親に叱られたこと。近所の友達と悪さをしたこと。それらのことがつぎつぎ思い出されてくると、体に染みついた一切が響きあうように心を揺り動かしてきます。

歌が心の奥まで届く理由は、もう一つあるようです。童謡や唱歌には四分音符の一つ一つに言葉がついてくることが多い。♪さいた さいた チューリップのはなが……といったように四分音符に一つずつ言葉がつくと、一種独特のリズムができます。よくヒーリング系の曲に使われる「癒しのリズム」なのだそうです。

これを子どもの頃から聴いて育っていますから、無意識のうちに日本人の心の奥底に残っているリズム感に反応して心を動かさずにはいられないのです。

励まされた「赤とんぼ」

リズム曲中心のいま時の若い子にだって、日本的メロディーはけっこう根づいているものです。ニューヨークでダンスの学校に通っているある女の子は、夜中一人でアパートに帰ってきたときふと「赤とんぼ」を口ずさんだそうです。

♪夕焼け小焼けの赤とんぼ…

歌っているうちに涙ぐんでしまったといいます。

「赤とんぼ」といえばこんなことを思い出しました。1995年1月17日未明に起きた阪神・淡路大震災の犠牲者の大半は家屋倒壊による圧死でしたが、中には間一髪救助された人もいました。

CamScannerでスキャン

10階建て団地が全壊、8人が生き埋めに。7人は救助される。M・Yさん（93）は遺体で収容された。11時間後に救助された主婦（55）は「皆を元気づけよう」と、暗闇の中でずっと童謡の「赤とんぼ」を歌い続けた、その10時間後に救助された夫（70）も「妻の歌声だけを頼りに頑張りました」。

当時在籍していた「サンデー毎日」でまとめた「生と死の記録」の一コマです。この場合、三木露風作詞、山田耕筰作曲の「赤とんぼ」は単なる童（わらべ）の歌というより生命の歌だったのです。

黒澤明監督映画『生きる』は前の章でも紹介しましたが、がんを患って余命いくばくもない男がブランコに揺られながら、

♪いのち短し　恋せよ乙女…

と「ゴンドラの唄」を歌うのです。ラストのシーンでした。志村喬さんの微笑が切なく思い出されます。

病と闘い続けていた俳優の渥美清さんの姿も歌とともに思い出されます。最後は癌でしたが、若い頃は右肺摘出の大手術を受けたそうです。術後ベッドの上でしみじみと歌っていたといいます。

♪赤い靴 はいてた 女の子…

荒木一郎のナイーブな歌声

さて、皆さんはすでにお気づきかと思いますが、鼓舞し希望や勇気を与えてくれる歌には夜空の星か月がよく出てきますよね。坂本九さんは「上を向いて歩こう」のあと「見上げてごらん夜の星を」(昭38)を歌っています。定時制高校生をテーマにした映画の主題歌として歌われたもので、いずみたくさんが作曲し、永六輔さんが詞を書いています。なぜ夜空を見上げて歌うのか。答えは歌詞にあります。

♪ボクらのように 名もない星が ささやかな幸せを 祈ってる…

静かに多くを語る歌は、そこに親和力を秘めています。お互いにそっと胸に抱

く思いが心の奥深いところへ染み込んできて、それぞれに通じ合う。それは情味と言っていいかもしれません。時に涙をあふれさせるもとにもなります。

僕は夜空の星を歌った歌では荒木一郎さんの「空に星があるように」が大好きです。実にいい。自らの作詞作曲で昭和41年の大ヒット曲です。

当時の彼って何か悪っぽい感じがあって、都会の中の退廃を体現しているような不良性も漂っていましたよね。それにこの歌には、何かナイーブな感じもありますよね。そんな男の子が持っている哀しみって言うんでしょうか、つぶやくような歌声にその感じが表現されていました。

歌詞もよくできているんです。夢があって、それが消えて、涙流して、でも季節の変わり目だという、ちゃんとオチがついたある種、輪廻の歌なんです。そのあたり相当な才能ですね。

「いとしのマックス～マックス・ア・ゴー・ゴー～」(昭42)とか「今夜は踊ろう」(昭41)とか反復進行のテンポのある曲もつくり歌っていましたが、やっぱりこの歌

がいいなあ。八代亜紀さんが歌いたいと言ってこの歌をカバーしたんですけれど、聴いていてぴんとこない。やっぱりこの歌はナイーブな感性の不良の歌なんです。

荒木さんももう70歳を過ぎていますよね。華やかな表舞台からはこの間ずっと遠ざかっている印象ですが、荒木さんの生きた青春時代とはいまはすっかり様変わりして若い子たちのグループも商業主義にその大半が管理され動かされていま す。荒木さんはやんちゃに生きて、それでいて理屈より感性が優先できる自分の居場所とファンを持っていた、いや持つことができた60年代のスターだったのは確かです。

18 詞（ことば）とテレサ・テン、桑田佳祐、五木ひろし

有線V3のテレサ・テン

台湾や香港出身の歌手が、日本でヒット曲を出すようになったのは、昭和40年代後半からです。すぐに浮かぶ一人にテレサ・テンさんがいます。台湾では「愛國藝人」と呼ばれていたそうですが、1995年に42歳の若さで亡くなっています。

昭和49年に来日。最初のヒット曲は「空港」（詞・山上路夫　曲・猪俣公章）でしたが、この後旅券法違反で国外退去処分を受けるなど、いろいろあって香港や母国の台湾を行き来していました。

CamScannerでスキャン

再来日したのが昭和59年です。そして昭和歌謡史に燦然と輝く日本有線大賞と全日本有線放送大賞のいずれもでV3をその年から達成します。「つぐない」(昭59)、「愛人」(昭60)、「時の流れに身をまかせ」(昭61)の3曲でいずれも詞・荒木とよひさ、曲・三木たかしのコンビです。

僕は大阪社会部に在籍中でした。昭和59年はグリコ・森永事件で翌60年は山口組・一和会抗争の大阪戦争、純金詐欺商法の豊田商事事件、と続き、夏には大阪の乗客が大半だった日航ジャンボ機墜落事故。大事件、大事故が相次ぎ、秋には阪神タイガースが21年ぶりの日本一……と世に言う「大阪現象」でこの3年間は社会部のソファーでの仮眠、夜明けの帰宅が連日のように続きました。とりわけグリコ・森永事件は取材班などのキャップ役で記事の取りまとめと解説の執筆に追われていました。ですから僕が帰ろうとすると、こう言って引き止める宿直デスクもいました。

「裏の止まり木に座っててよ。かい人21面相が動きそうだし、山口組のドンパチ

も また始まりそうだしな」

で、裏の飲食店街、北新地の飲み屋に出向きカウンター席で待機しつつ、有線から流れる曲をよく耳にしていたのです。

「和語」の歌声

そんな次第でテレサ・テンさんの歌う日本語は事件続きのざらっとした胸中にとても優しく響いてくる感がありました。日本語の古き良き時代の言葉である「和語」の持つ優しさがそのまま歌声になっている、そんな歌がとくにいいんですね。

それに、歌われている女性のなんと素直なこと。たとえば「つぐない」の1番はこうです。

窓に西陽が　あたる部屋は
いつもあなたの　匂いがするわ

ひとり暮らせば　想い出すから
壁の傷も残したまま　おいてゆくわ
愛をつぐなえば　別れになるけど
こんな女でも　忘れないでね
やさしすぎたのあなた
子供みたいなあなた
あすは他人同志に　なるけれど

「時の流れに身をまかせ」も1番が印象に残っています。

もしもあなたと　逢えずにいたら
わたしは何を　してたでしょうか
平凡だけど　誰かを愛し
普通の暮らし　してたでしょうか

CamScannerでスキャン

時の流れに　身をまかせ
あなたの色に　染められ
一度の人生それさえ　捨てることもかまわない
だからお願い　そばに置いてね
いまはあなたしか　愛せない

♪平凡だけど　誰かを愛し　普通の暮らし　してたでしょうか…といったフレーズなど、テレサ・テンにして初めて生き、生彩を放つと思われてなりません。

映画『海よりもまだ深く』のタイトルに

テレサ・テンさんはこのあと「別れの予感」（昭62）を歌うんですが、これがまたささやくような歌声でこうなんです。

教えて　悲しくなる　その理由

あなたに触れていても
信じること　それだけだから
海よりも　まだ深く
空よりも　まだ青く
あなたをこれ以上　愛するなんて
わたしには出来ない

是枝裕和監督の映画『海よりもまだ深く』のタイトルはここから採ったものですよね。映画ではラジオから流れるテレサ・テンさんの歌声に、樹木希林さん演じる母親がこんな一言をつぶやきます。

「幸せってのはね、なにかを諦めないと手にできないもんなのよ」

そしてこの歌をバックに、愛想をつかされて奥さんに逃げられてしまった息子

この会話が続きます。

「私は海よりも深く好きになったことなんて、この歳までないけどさ」

「寂しいことを言うなあ」

「あんたはあるの？」

「俺は、まあ、それなりに……」

「ないわよ、普通の人は……」

戸惑う息子に母親はそう言ってこう続けます。

「ううん、ないから、生きていけんのよ。こんな毎日を、それでも楽しくね」

味わい深いセリフですね。それにしても流行歌はこういう具合に日常をも染めているんだな、と改めて感じさせられる映画でした。

サザンの桑田のボーカルは海辺のウェーブ

さて、テレサ・テンさんが歌う和語と比して、サザンオールスターズの桑田佳

祐さんの歌では日本語まで英語っぽく発音されているように感じられます。青山学院大学時代の学生仲間で結成されたバンドがそもそものグループなんですが、桑田さん、学生時代から英語が達者だったそうですね。

デビュー曲は昭和53年の「勝手にシンドバッド」です。桑田さんのボーカルがとってもシャレて聴こえました。大ヒットした「いとしのエリー」(昭54)なら「love so sweet」が結びのフレーズで何度も出てくるのですが、その前に歌う♪俺にしてみりゃ　これで最後のLady…とか♪言葉につまるようじゃ　恋は終わりね…といった普通の日本語の歌詞まで英語っぽく訛るんですね。そこが一般のロックバンドとの違いで、訛る歌詞全般が太陽がいっぱいの海辺に打ち寄せるウェーブのように繰り返しながら陽気に響いてきて、なんとも心地いいのです。

心地いいと、奔放で何を言っているのかよくはわからなくても上手に聴こえてくるものです。湘南サウンド、ここにありの歌いっぷりです。

高田みづえさんが桑田さん作詞、作曲の「そんなヒロシに騙されて」(昭58)

を歌ってヒットした折、僕は電車待ちのホームのベンチで女の子二人が交わしていた会話を耳にして、笑いをこらえ切れませんでした。
「あたしー、いますっごいわかんないことあってー」
「何？」
「♪そんなヒロシにだーまされー、っていう歌あるっしょー」
「あるある」
「あんた、あの歌好き？」
「好き好き」
「だけどさ、そんなヒロシってどんなヒロシ？」
「……」
「あんたわかる？」
「さあ……」
「やっぱわかんない？　だよねー。そんなヒロシってどんなヒロシなんだよー」

CamScannerでスキャン

エイト・ビートのダンスが得意なように描かれていますが、桑田さんの詞ですから女の子が騙される経過など理路整然と書いているはずがありません。そんなヒロシはそんなヒロシなんです。そのこだわらない言語感覚がいいんですよね。コミカルな味わいももたらして。

サザンのメンバーもみな六十代になりました。世代を超えたファン層に支えられて、先夜、ＮＨＫで「祝40周年」の番組をやっていましたが、まだまだジャンプしそうですね。

「山河」の昭和歌謡を代表する「詞・ことば」

さて詞という言葉をどうとらえて、どう歌うかを考えるうえで外せない大物がいます。五木ひろしさんです。彼も団塊の世代、もう70歳。先日ＢＳ朝日で70歳のバースデーコンサートをやっていました。そうか、「五木」さんも「古稀」か、と思いつつずっと見ていました。

CamScannerでスキャン

そして今さらのように「詞・ことば」の響きの良さに感嘆しました。ビブラートの多い歌唱法でいて、一言一句が実に鮮明なのです。歌を大切に歌っていると言えば当たり前でしょうが、日本の歌を大切な文化として歌っていると言い換えればその価値がわかっていただけるでしょうか。

歌詞の日本語を一語一語はっきりとわかりやすく、かつ大和言葉っぽく歌うテレサさん。対して英語のイントネーションのノリで歌いもする桑田さん……。これはあくまでも好みの問題でしょう。歌手、あるいはグループそれぞれの持ち味でしょうが、ここでは昭和から平成へとつなぐ「詞・ことば」として五木さんの代表曲「山河」の歌詞を全て掲げておきたいと思います。

山河

人は皆　山河に生まれ　抱かれ　挑み

人は皆　山河を信じ　和み　愛す
そこに　生命をつなぎ　生命を刻む
そして　終いには　山河に還る

顧みて　恥じることない　足跡を山に　残したろうか
永遠の　水面の光　増す夢を　河に浮かべたろうか
愛する人の瞳に　愛する人の瞳に
俺の山河は美しいかと　美しいかと

歳月は　心に積まれ　山と映り
歳月は　心に流れ　河を描く

そこに　積まれる時と　流れる時と
人は誰れもが　山河を宿す

ふと想う　悔いひとつなく　悦びの山を　築けたろうか

CamScannerでスキャン

くしゃくしゃに嬉し泣きする　かげりない　河を抱けたろうか
愛する人の瞳に　愛する人の瞳に
俺の山河は美しいかと

顧みて　恥じることない　足跡を山に　残したろうか
永遠の　水面の光　増す夢を　河に浮かべたろうか
愛する人の瞳に　愛する人の瞳に
俺の山河は美しいかと　美しいかと

70歳のバースデーコンサートの終わりに歌った「山河」は、小椋佳さんが詞を書き、堀内孝雄さんが作曲した名曲です。五木さんは「詞・ことば」へのリスペクトが本当に強いんですね。日本語を実に美しく歌いあげていました。

ちなみに20世紀の終わりの2000年の紅白歌合戦で大トリをつとめた五木さんの歌唱曲でもありました。

五木さんの歌声にはいつも昭和を冠して聴いている自分がいます。

CamScannerでスキャン

おわりに

あの歌も、この歌もと思いつつ、結局どれだけ紹介できたのだろう……そんな思いをいまも引きずっています。

昭和歌謡という言葉には何かなじまない歌手や、まだ若く、今後いろんなジャンルに果敢に挑戦していきそうなアーティストは取り上げませんでした。

そんなしだいで、登場する歌手と歌はとりあえずの僕の興味と関心の範囲となりましたが、またの機会があれば再考するつもりです。

「ミュージックはあるが、ソングはない」

CamScannerでスキャン

平成に入って十数年が過ぎた頃の阿久悠さんの言葉ですが、今となっては遺言のように思われてなりません。
平成に入って演歌はともかく曲のテンポの速さには、正直戸惑いを覚えていいます。
8ビートの昭和歌謡で育った人にとって16ビートの曲に乗る歌詞は意味を持った言葉ではなく、単なる音にすぎない歌もある――時代の要請だからと言いつつも、そう案じていた著名な作曲家の言葉が思い出されます。
ただ、いま改めて考えてみるのですが、例えばビートルズに熱狂したファンすべてが彼らの歌う英語の意味を理解していたわけではないでしょうから、バンドの演奏とグループの歌声、言ってみれば「音声」に身も心も共振し、感動していたということでしょう。
このあたりさらに考えてみると、歌というのは言葉の意味が気持ちのノリを邪

魔するということだってある。いや、十分あり得るということになります。
といって、昭和歌謡を云々するわけでもありません。否、むしろ、そうだからこそ、「詞・ことば」を原点とする歌謡曲は特別な存在価値を今後も持つだろうと思うのです。
要は本書の題名のとおり、昭和歌謡は終わらないということですね。
最後になりましたが、TBSラジオ「荒川強啓 デイ・キャッチ!」で特番的に年に何回か「DJ勝重」をやらせていただいています。またMBSラジオでは関西では一番の歌謡曲通、野村啓司さんパーソナリティの歌番組「懐メロ♪ジュークボックス」に毎月招かれ、昭和歌謡に聴き入っています。本書は、これら番組スタッフのお力添えもあっての一冊だと思っております。
幻冬舎の福島広司さん、木田明理さんから貴重な助言の数々をいただき、本当にお世話になりまして、ありがとうございました。

筆者